

**STANDARD HORIZON**

*Nothing takes to water like Standard Horizon*

**25 Watt VHF FM Marine Transceiver**

# **QUANTUM AIS GX6000J**

## **取扱説明書**



この製品は、船舶共通通信システム 国際 VHF 無線機です。  
ご使用になるには、第二級海上特殊無線技士以上の資格が必要です。

---

当社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。  
正しくお使いいただくために、この「取扱説明書」をよくお読みください。  
お読みになった後は、大切に保管してください。

---

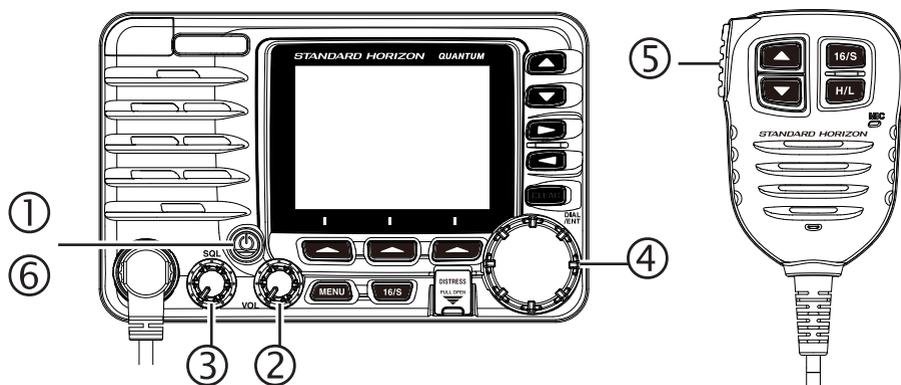
# 目次

<b>基本操作ガイド</b> .....	<b>2</b>	<b>ナビゲーション</b> .....	<b>77</b>
<b>特長</b> .....	<b>3</b>	ウェイポイント操作 .....	77
<b>国際 VHF 無線局を開局される方へ</b> .....	<b>4</b>	ルート設定の操作 .....	82
<b>付属品</b> .....	<b>5</b>	<b>GM (グループモニター) 機能</b> .....	<b>86</b>
<b>オプション</b> .....	<b>5</b>	GM 機能の設定 .....	86
<b>各部の名称と操作</b> .....	<b>7</b>	GM 機能の開始 .....	88
フロントパネル .....	7	<b>AIS (Automatic Identification System) 機能</b> .....	<b>90</b>
スピーカーマイク .....	9	AIS 機能の概要 .....	90
リアパネル .....	10	AIS 機能の操作方法 .....	90
<b>ご使用になる前に (準備)</b> .....	<b>12</b>	AIS 機能の設定 .....	94
無線機の取り付け .....	12	<b>その他の機能</b> .....	<b>97</b>
周辺機器の接続 .....	14	ウェザーチャンネル (NOAA WEATHER CHANNELS) ....	97
外部機器の接続 .....	15	デモモード (DEMO MODE) .....	97
最初の電源投入時に必要な初期設定 .....	23	<b>NMEA 2000 設定</b>	
GPS 信号の確認 (GPS ステータス表示) ....	24	(NMEA2000 SETUP) ...	<b>98</b>
GPS 設定 .....	25	装置の選択 (SELECT DEVICE) .....	98
<b>基本的な操作</b> .....	<b>29</b>	デバイス番号の設定 (DEVICE NUMBER) ...	98
受信する .....	29	システム番号の設定 (SYSTEM NUMBER) ...	99
送信する .....	29	NMEA 2000 設定メニュー一覧 .....	99
設定メニューの基本的な操作 .....	30	NMEA 2000 PGN	
マルチワッチ (2 波または 3 波の同時受信) ...	31	(パラメータグループナンバー) 対応表 ...	100
スキャン (SCAN) .....	32	<b>設定メニュー</b>	
プリセットチャンネル機能 .....	34	(CONFIGURATION) ....	<b>101</b>
MOB (Man Overboard、落水者)		画面モード (DISPLAY MODE) .....	101
位置情報の保存 ...	35	バックライト輝度調節 (DIMMER) .....	101
拡声器 / 霧笛機能 .....	36	画面のコントラスト調節 (CONTRAST) ...	101
内線通話機能 .....	39	キー操作音量 (KEY BEEP) .....	102
<b>GPS 機能</b> .....	<b>41</b>	霧笛音 (FOG FREQUENCY) .....	102
位置情報表示 .....	41	リッスンバック機能 (LISTEN BACK) .....	102
GPS 受信状態を確認する .....	41	トランシーバーまたは RAM4 マイクの	
GPS ロガー (移動軌跡保存) 機能 .....	42	名前 (STATION NAME) ...	103
<b>DSC (Digital Selective Calling) 機能</b> ...	<b>43</b>	ソフトキー (SOFT KEY) .....	103
DSC 機能の概要 .....	43	モード / ステータスインジケータ輝度調節 ...	105
全船コール .....	48	リセット操作 (RESET) .....	105
個別コール .....	50	設定メニュー一覧 .....	106
グループコール .....	56	<b>チャンネル設定</b>	
位置情報要求 .....	61	(CHANNEL SETUP) ...	<b>107</b>
位置情報送信 .....	65	チャンネルグループ (CHANNEL GROUP) ...	107
ポーリングコール .....	68	ウェザーアラート (WEATHER ALERT) ...	107
自動ポジションポーリング .....	70	スキャンメモリー (SCAN MEMORY) .....	107
DSC テストコール .....	72	スキャンタイプ (SCAN TYPE) .....	107
DSC ログ (送受信履歴) の操作 .....	74	スキャン再開時間 (SCAN RESUME) .....	108

# 目次

マルチワッチ (MULTI WATCH) .....	108	<b>リモートアクセスマイク</b>	
プライオリティ チャンネル (PRIORITY CHANNEL) ...	108	<b>SSM-70H (RAM4) ...</b>	125
サブチャンネル (SUB CHANNEL) .....	108	各部の名称と働き .....	125
チャンネルネーム (CHANNEL NAME) ....	109	RAM4 マイクのソフトキーの機能割り当て ...	127
ノイズキャンセル (NOISE CANCEL) .....	109	<b>パソコンとの接続 .....</b>	<b>128</b>
受信音の音質調節 (AF PITCH CONTROL) ...	110	<b>定格 .....</b>	<b>129</b>
受信音の録音 (RX RECORDER) .....	110	<b>NMEA 0183 対応センテンス .....</b>	<b>129</b>
チャンネル機能設定一覧 .....	112	<b>国際 VHF チャンネル表 .....</b>	<b>130</b>
<b>DSC 機能設定 (DSC SETUP) ...</b>	<b>113</b>	<b>GX6000J 寸法図 .....</b>	<b>131</b>
個別アドレス帳 (INDIVIDUAL DIRECTORY) ...	113	<b>埋込設置用テンプレート .....</b>	<b>133</b>
個別コール返答 (INDIVIDUAL REPLY) ...	113		
個別コール返答内容 (INDIVIDUAL ACKNOWLEDGMENT) ...	113		
個別コールベル音 (INDIVIDUAL RINGER) ...	113		
グループメモリー (GROUP DIRECTORY) ...	113		
位置情報要求への応答 (POSITION REPLY) ...	114		
自動ポジションポーリング (AUTO POSITION POLLING) ...	114		
自動位置情報要求間隔 (AUTO POSITION INTERVAL) ....	114		
自動チャンネル変更 (AUTO CHANNEL CHANGE) ...	114		
無操作タイムアウト時間 (NO ACTION TIMER) ...	115		
位置情報取得待ち時間 (POS UNFIX WAITING TIME) ....	115		
DSC ビープ音 (DSC BEEP) .....	115		
<b>GPS 設定 (GPS SETUP) .....</b>	<b>117</b>		
優先順位 (ORDER OF PRIORITY) .....	117		
コンパス表示方向 (COMPASS DIRECTION) ...	117		
位置座標 (緯度、経度) の形式 (LOCATION FORMAT) ...	118		
時刻のオフセット (TIME OFFSET) .....	118		
表示時刻 (TIME AREA) .....	118		
時刻表示形式 (TIME FORMAT) .....	118		
表示単位 (UNITS OF MEASURE) .....	118		
磁気偏差 (MAGNETIC VARIATION) .....	119		
NMEA 0183 入出力 (NMEA 0183 IN/OUT) ...	119		
位置情報出力 (POSITION DATA OUTPUT) ...	120		
オプションの外部 GPS アンテナ (OPTION GPS UNIT) ...	121		
GPS 設定の一覧 .....	124		

# 基本操作ガイド



- ① 電源が入るまで、**電源**ボタンを長く押します。
- ② **[VOL]**ツマミをまわして、聞きやすい音量に調節します。
- ③ **[SQL]**ツマミをまわして、「ザー」という雑音が消える位置に調節します。
- ④ **DIAL/ENT**ツマミをまわして、希望のチャンネルを選びます。
- ⑤ マイクの**PTT**ボタン(送信スイッチ)を押しながら、マイクに向かって話します。  
相手の話を聞くときは、**PTT**スイッチを放します。
- ⑥ 電源が切れるまで、**電源**ボタンを長く押します。

## MMSI番号の登録

GX6000JはDSC機能を搭載しています。DSC機能を使用するために、“**MMSI番号の登録**”(23ページ)を参照して、免許状に記載されたMMSI番号を無線機に登録してください。

お買い上げ後、電源を入れると画面にMMSI番号の入力をうながす“**警告**”画面が表示されビープ音が鳴ります。MMSI番号を登録すると、それ以後は表示されなくなります。

## 特長

- **国際VHF規格 総務省技術適合証明取得機種**
- **AIS (Automatic Identification System: 船舶自動識別装置) 受信機能を標準装備:** 船舶名称、呼出符号等の静的情報と、進路、速度などの動的情報を自動的に受信し、お互いの船舶が衝突進路にある場合にアラームで知らせる航行の安全に寄与する装置です。
- **DSC機能<sup>\*1</sup>対応:** 遭難通報、緊急通信、個別コール、グループコールや、オプションの外部GPSアンテナ**SCU-31**またはその他GPS機器との接続により位置情報の通信など便利な機能を使うことができます。
- **混信に強い受信部:** 近くに大出力の通信施設があるような場所でも混信を受けにくく安心して使用することができます。
- **防水設計:** 悪天候でも安心して使えるIPX8<sup>\*2</sup> (1.5m、30分) 準拠の防水設計です。
- **優れた操作性:** バックライト付き操作キーを採用、またブッシュ機能付きDIALツマミで各種操作が簡単に行えます。
- **LED照明付きディスプレイ:** 白色LED照明で視認性に優れたフルドットマトリックスディスプレイを搭載、夜間でも瞬時に動作状態を確認することができます。
- **緊急連絡用チャンネル:** ワンタッチで緊急連絡用の16チャンネルとサブチャンネルを呼び出せる16/Sキーと、遭難通報送信専用の誤操作防止カバー付きディストレスキーをフロントパネルに装備しています。
- **2波/3波受信機能:** 2つまたは3つのチャンネルを自動で監視して受信することができます。連絡用チャンネルと非常用の緊急チャンネルを交互に受信できます。
- **拡声器/霧笛機能:** オプションのホーンスピーカー**220SW**を最大2個取り付け、25Wの拡声器/霧笛機能が使用できます。ホーンスピーカーの周囲の音を聞くことができるリッスンバック機能にも対応しています。
- **スピーカーマイク:** 手で操作ができるキー付きの防水スピーカーマイクを付属しています。またオプションのマイク延長ケーブルMEK-4をリアパネルに接続して、スピーカーマイクを離れた場所に設置することもできます。
- **ノイズキャンセル機能:** 周囲の騒音を軽減して明瞭な通信を可能にする、送受信に対応した優れたノイズキャンセル機能を搭載しています。
- **リモートアクセスマイク対応:** オプションのリモートアクセスマイク**SSM-70H (RAM4)** やワイヤスレスリモートアクセスマイク**SSM-71H(RAM4W)**を使用して、無線機本体のほとんどの操作をリモートマイクから行うことができます。また、無線機とリモートマイク間で内線通話ができます。
- **NMEA 2000およびNMEA 0183に対応:** 対応するチャートプロッターなどの装置を接続して遭難通報の位置情報を表示することや、AISで受信した船舶の位置情報を表示できます。
- **イージー・トゥー・オペレート(Easy To Operate):** よく使う機能を最大12種類まで割り付けられるソフトキーを搭載するなど、簡単でわかりやすい操作を実現したイージー・トゥー・オペレートに対応しています。

\*1 ITU Class D (ITU-R M.493) のDSC機能を搭載しています。

\*2 IPX8準拠: 水深1.5mで30分間耐える防水性能。

## 国際VHF無線局を開局される方へ

当社の製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。  
本機をお使いになる前に、下記の注意事項をお読みください。

### ■ 無線技士の資格が必要です

この製品をご使用になるには、第二級海上特殊無線技士以上の資格が必要です。

### ■ 無線局を開局するためには電波法に基づいた手続きが必要です

無線局申請用紙に必要な事項を記入のうえ、国の収入印紙（県の収入証紙は認められません。誤って購入した場合、県の収入証紙を返還して現金の還付を受けることはできませんので十分にご注意ください）を添付し、主たる停泊港を管轄している総務省地方総合通信局（沖縄の場合は沖縄総合通信事務所）へ申請書を提出してください。審査に合格すると免許状および申請書の写しが返送されてきますので、免許状が届いてから運用を開始してください。

無線局の免許を受けずに無線局を運用した場合は、懲役1年以内、罰金100万円以下に処せられる場合があります。

### ■ DSC機能をご使用になる場合は、MMSI番号を無線機に登録する必要があります。

DSC機能をご使用になるには、免許状に記載されたMMSI番号（海上識別信号）を無線機に登録する必要があります。

DSC機能は、遭難や緊急時に船舶名や免許人名などの重要な情報を通知するためのものですので、必ず登録をお願いします。

MMSI番号の登録方法は23ページに記載していますので、間違えないよう正しく登録してください。

### ■ 本機は5年ごとの定期検査が必要です。

本機のように、固定型として使用する無線機の場合、船舶検査と同じように、5年ごとに検査を受けなければなりません。

検査を受ける年度にあたったときには、管理局より通知が届きますので、検査を受けてください。

### ■ 運用マナーを守って運用してください

国際VHFはアマチュア無線や携帯電話と違い、遭難通信などの重要な通信を行うものです。また、我が国では、旅客船の定期運行通信、貨物運行などの業務通信、港の施設との航行安全の情報交換等、とても大切な通信も含まれます。運用ルールを守り、私用での通信は絶対に止めましょう。私用通信により遭難等の通信を妨害した場合、懲役1年以上の有期懲役に処せられる場合があります。

## 付属品

- スピーカーマイク
- 電源ケーブル (7Aヒューズ付き)
- 取付用ブラケット (一式)
- マイクハンガー (一式)
- USBケーブル
- フェライトコア (大、小 各1個)
- 取扱説明書 (本書)
- 無線局申請書 (一式)
- 保証書

## オプション

- **SSM-70H** リモートアクセスマイク **RAM4** (7m接続ケーブル付)
- **SSM-71H** ワイヤレスリモートアクセスマイク **RAM4W**
- **SCU-30** **SSM-71H**用ワイヤレスアクセスポイント
- **SCU-31** 外部GPSアンテナ
- **CT-100** **SSM-70H**用延長ケーブル (7m)
- **MEK-4** 付属スピーカーマイク用延長ケーブル (6m)
- **MLS-300** 大音量外部スピーカー
- **220SW** ホーンスピーカー
- **MMB-84** 埋込設置用固定ブラケット
- **FP-32** 交流 (AC) 100V用電源

## 安全上のご注意（必ずお読みください）

本機を安全に正しくお使いいただくために、必ずお読みください。

お客様または第三者の方が、この製品の誤使用・使用中に生じた故障・その他の不具合、あるいはこの製品の使用によって受けられた損害については、法令上、賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

### マークの種類と意味



#### 警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



#### 注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容および物的障害のみの発生が想定される内容を示しています。

### 図記号の種類と意味



本機を安全にお使いになるため、行ってはならない禁止事項です。  
たとえば、は「分解禁止」を示しています。



本機を安全にお使いになるため、必ず守っていただきたい注意事項です。  
たとえば、は「電源ケーブルを外す」を示しています。

## 警告



分解や改造をしない。  
本機は電波法に基づく無線局です。分解や改造をすると違法ですでおやめください。

また、怪我や故障の原因になります。



“煙が出ている”、“変な臭いがする”などの異常状態のまま使用すると、火災や故障の原因になります。

すぐに電源を切り、本機を電源から外してください。煙や変な臭いなどが出なくなったことをご確認のうえ、お買い上げいただきました販売店に修理をご依頼ください。



指定された電源電圧、電流容量以外では使用しない。  
火災や感電の原因になります。



電源ケーブルは、直流電源に直接接続する。電源ケーブルの延長や継ぎ足しは、火災や故障の原因になります。

## 注意



磁気カードなどを本機に近づけない。  
キャッシュカードやフロッピーディスクなどの内容が消去されることがあります。



電源ケーブルの上に重いものを載せたり、電源ケーブルを無理に曲げたり引っ張ったりしない。  
電源ケーブルが傷つき、火災や故障の原因になります。



本機を傾いた所や不安定な場所に置かないでください。  
落ちたり、倒れたりしてケガの原因になることがあります。無線機の設置には必ず付属のブラケットを使用して、操船に支障の無い場所に取り付けてください。



強い衝撃を加えない。  
故障の原因になります。



長期間ご使用にならない場合には、安全のため、本機から電源を外してください。

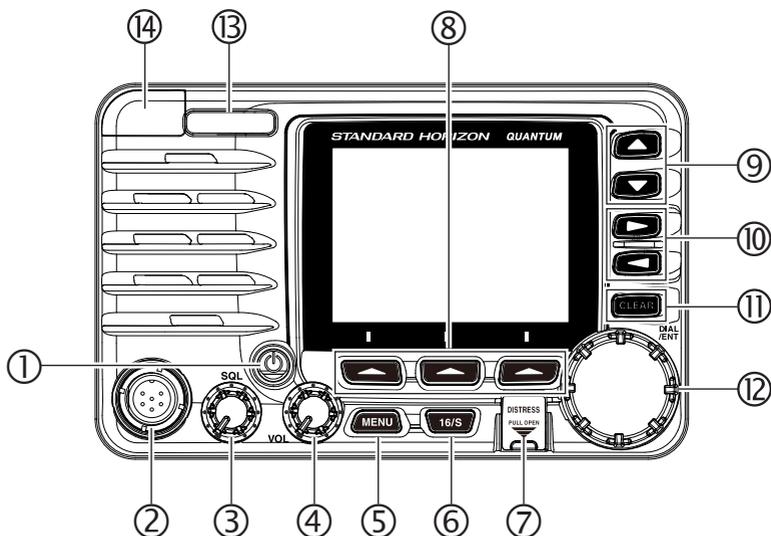


直射日光のあたる場所や熱器具の近くに放置しない。  
変形や変色等の原因になります。



シンナーやベンジンでケースを拭かない。  
変形や変色等の原因になります。  
ケースが汚れたときは、乾いた柔らかい布で軽く拭いて汚れを落としてください。

### フロントパネル



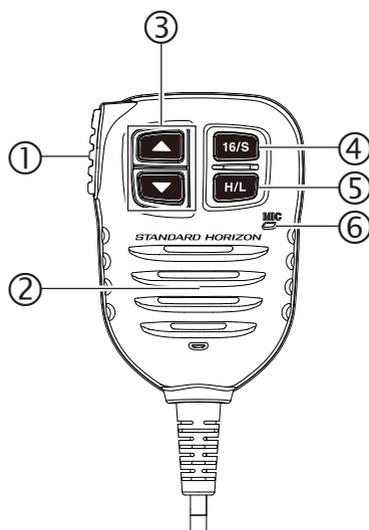
- ① **⏻ (電源) ボタン**  
長く押しすと電源がオンになります。もう一度長く押しすとオフになります。電源がオンになると最後に選択したチャンネルになります。
- ② **マイク端子**  
付属品のスピーカーマイクを接続します。
- ③ **SQL (スケルチ) ツマミ**  
信号を受信していないときの「ザー」という雑音が消える位置に調節します。
- ④ **VOLツマミ**  
聞きやすい音量に調節します。  
拡声器機能や霧笛機能の使用時に、リッスンバック機能の音量を調節します。
- ⑤ **MENUキー**  
メニューを表示します。  
詳しくは“**設定メニューの基本的な操作**” (30ページ) を参照してください。
- ⑥ **16/Sキー**  
緊急連絡用チャンネル“CH16”を呼び出すことができます。  
長く押しすとサブチャンネルを呼び出すことができます。  
もう一度押しすと元のチャンネルに戻ります。

- ⑦ **DISTRESS (遭難通報) キー**  
 DISTRESS (遭難通報) を送出します。  
 赤色のカバーを上げて、中の**[DISTRESS]**キーを約3秒間押し続けると、遭難通報が送出されます。詳しくは“**遭難通報の送信**” (43ページ) を参照してください。
- ⑧ **ソフトキー**  
 各種機能の選択や設定を行います。  
 設定メニューでキーの機能を変更することができます。詳しくは“**ソフトキー (SOFT KEY)**” (103ページ) を参照してください。
- ⑨ **▲ / ▼ キー**
- ・チャンネルを選びます。
  - ・メニュー操作時に項目を選びます。
- ⑩ **◀ / ▶ キー**
- ・ソフトキーの機能を切り替えます。
  - ・メニュー操作時にメニュー項目を選びます。
- ⑪ **CLEARキー**  
 設定メニュー操作時に押すと通常画面に戻ります。
- ⑫ **DIAL/ENTツマミ**
- ・チャンネルを選びます。
  - ・メニュー操作時に、まわしてメニュー項目を選び、押して確定します。
- ⑬ **モード/ステータスインジケータ**  
 本機の通信状態などを表示します。

位置	色	説明
左側	青	AISユニットが動作しています
	紫	メッセージを受信しています
	赤	AISユニットが正常に動作していない可能性があります
右側	緑	AIS信号を受信している瞬間に点灯します (本機にMMSI番号が登録されている場合)
	オレンジ	AIS信号を受信している瞬間に点灯します (本機にMMSI番号が登録されていない場合)
	赤	受信エラー

- ⑭ **データ端子 (USB micro type B)**  
 付属のUSBケーブルを使ってWindowsパソコンと接続して、トランシーバーを設定したり、GPSロガー機能で記録された位置情報\*のデータを読み出すことができます。(※オプションの外部GPSアンテナ**SCU-31**を⑩GPSアンテナ接続端子に接続する必要があります。)  
**注意:** データ端子のキャップをしっかりと取り付けた状態で本機の防水性能が保たれます。

## スピーカーマイク



### ① PTT(送信)ボタン

- このボタンを押しながら、⑥マイクに向かって話します。相手の声を聞くときはこのボタンを放します。
- 拡声器機能モードを選択しているときは、このボタンを押しながら話すとホーンスピーカーから出力されます。
- オプションのリモートアクセスマイクRAM4またはワイヤレスリモートアクセスマイクRAM4Wを接続しているとき、内線通信画面では、このボタンを押してリモートアクセスマイクと内線通話ができます。

### ② スピーカー

ここから相手の声や操作音が聞こえます。

### ③ ▲ / ▼ボタン

- チャンネルを選びます。
- メニュー操作時に項目を選びます。

### ④ 16/Sボタン

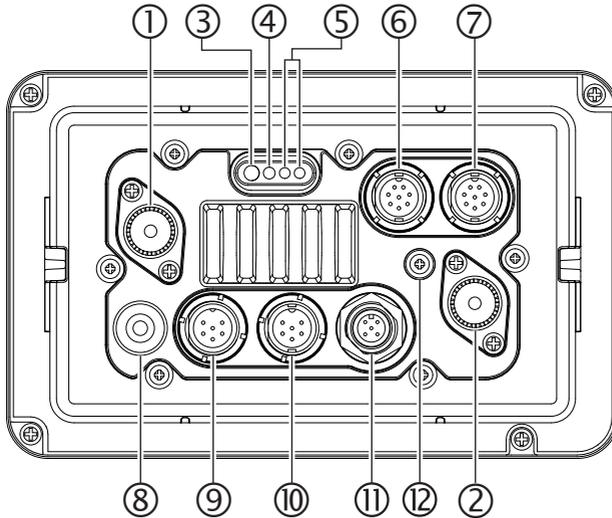
緊急連絡用チャンネル“CH16”を呼び出すことができます。  
長く押しとサブチャンネルを呼び出すことができます。  
もう一度押しと元のチャンネルに戻ります。

### ⑤ H/Lボタン

送信出力（電波の強さ）を“25W”（HI）または“1W”（LOW）の2段階で切り替えることができます。

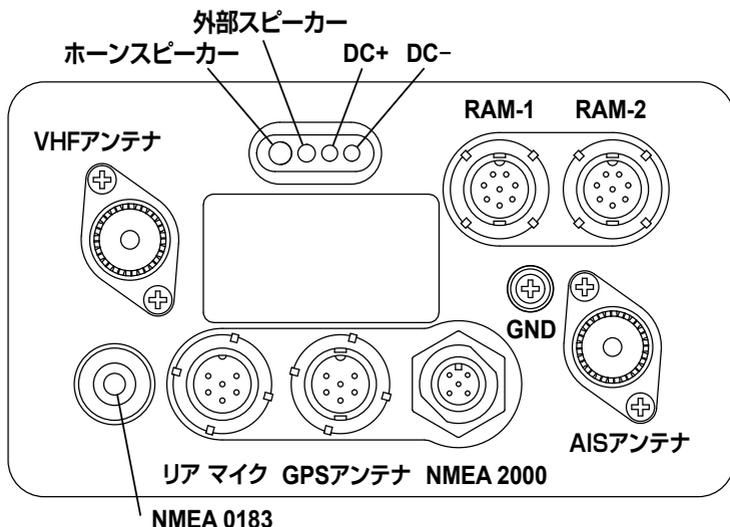
### ⑥ マイク

マイクを口元から約1.5cm離して、普通の声で話してください。



- ① **アンテナ端子 (VHF ANT)**  
マリーンVHFアンテナを接続します。  
**参考:** 音声通信に使用するアンテナ (インピーダンス50Ω) を接続する端子です。
- ② **アンテナ端子 (AIS ANT)**  
AIS信号受信用のマリーンVHFアンテナ (インピーダンス50Ω) を接続します。
- ③ **拡声器機能に使用するホーンスピーカー接続用ケーブル**  
オプションのホーンスピーカーを2個接続できます。  
緑色: PA1 スピーカー (+端子)  
青色: PA1 スピーカー (-端子)  
橙色: PA2 スピーカー (+端子)  
黄色: PA2 スピーカー (-端子)
- ④ **外部スピーカー接続用ケーブル (赤色、白色)**  
オプションの外部スピーカーを接続できます。  
赤色: 外部スピーカー (+端子)  
白色: 外部スピーカー (-端子)
- ⑤ **DC電源ケーブル**  
付属の電源ケーブルでDC (直流) 11~16Vの電源に接続します。

- ⑥ **リモートアクセスマイク端子 (RAM1)**
- ⑦ **リモートアクセスマイク端子 (RAM2)**  
 オプションのリモートアクセスマイクSSM-70H (RAM4)を2台接続することができます。  
 またオプションのワイヤレスリモートアクセスマイクSSM-71H (RAM4W)用のワイヤレスアクセスポイントSCU-30を1台接続できます。(SCU-30は⑥RAM1端子だけに接続できます。)  
**参考:** オプションの延長ケーブルCT-100を2本まで使用して、最大約21mまで延長してSSM-70Hを接続することができます。
- ⑧ **NMEA 0183入出力ケーブル**  
 NMEA 0183の入出力とNMEA 0183-HSの出力することができます。  
 詳しくは“外部機器の接続” (15ページ)を参照してください。
- ⑨ **マイク端子**  
 付属のマイクを接続します。  
 オプションの付属マイク延長ケーブルMEK-4を使用して、付属のマイクを無線機から離れた場所に設置することができます。
- ⑩ **GPSアンテナ接続端子 (白色)**  
 オプションの外部GPSアンテナSCU-31を接続します。
- ⑪ **NMEA 2000接続端子 (黒色)**  
 NMEA 2000ネットワークに接続します。
- ⑫ **接地端子 (GND)**  
 安全のためと本機の性能を十分に発揮させるために、船体のグラウンドに接続します。  
 付属のネジ以外は使用しないでください。



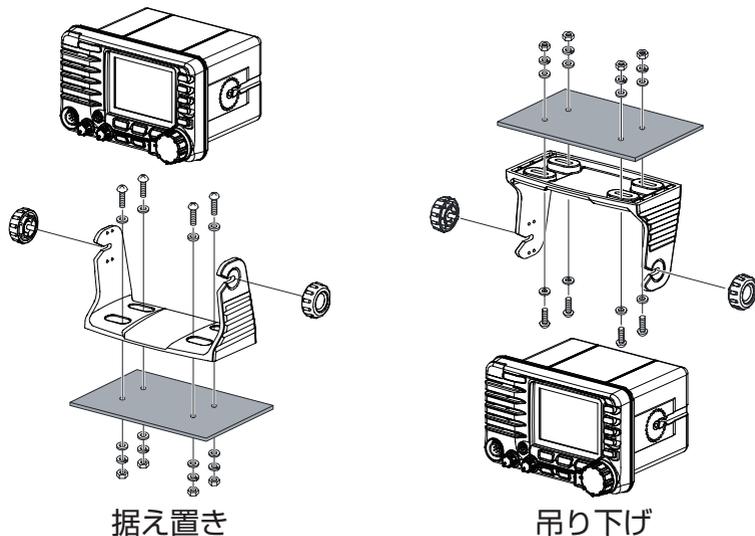
## ご使用になる前に（準備）

### 無線機の取り付け

付属のブラケットを使用して、操船に支障のない場所に無線機を取り付けてください。

1.5kg以上の重さに耐えられる厚さ10mm以上の板に、直径5.2mmの穴を開けて、付属のネジ、スプリングワッシャ、平座金、ナットでブラケットを固定します。

ブラケットの取付方向を変えることにより、「据え置き型」、「吊り下げ型」のどちらにも対応することができます。



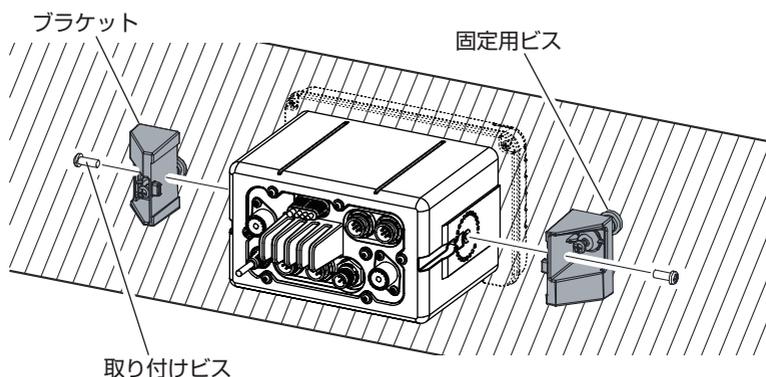
#### ⚠️ ご注意 ⚠️

- 取付位置は、安全と操作性に配慮してください。
- 直射日光の当たる場所や熱器具の付近に設置しないでください。
- 放熱の妨げにならないよう、周囲に十分スペースをとってください。
- 振動等で緩まないよう、ビスやブラケットツマミはしっかり締め付けてください。
- 故障や事故の原因になりますので、付属のビス/ブラケットツマミ以外は絶対に使用しないでください。
- 磁気コンパスへの干渉を防ぐため、無線機は1m以上、マイクは0.5m以上、コンパスから離して設置してください。

## オプションの埋込設置用固定ブラケットを使用した取り付け

オプションの埋込設置用固定ブラケット**MMB-84**を使用すると、本機を船舶の操作パネルに埋め込んで設置することができます。なお、この際、この取扱説明書の巻末の「テンプレート」を使用して、簡単に埋込場所の選定と取り付け穴の加工が行えます。

1. テンプレートを使用して、本機の埋込場所を選定します。  
なお、埋込場所の選定ですが、操船に支障の無いよう、安全と操作性に配慮するとともに、船舶の操作パネルの裏側に十分なスペース（奥行き：約17cm）があることを確認してください。
2. テンプレートに従って、操作パネルに取り付け穴（幅158mm、高さ94mm）をあけます。
3. 取り付け穴に本機を挿入し、**MMB-84**に付属している取り付けビスで、**MMB-84**を本機に取り付けます。  
**注意**：故障の原因になりますので、付属のビス以外は絶対に使用しないでください
4. **MMB-84**の固定用ビスをまわして、本機を船舶の操作パネルにしっかり固定します。
5. 以上で取り付けは終了です。



## 周辺機器の接続



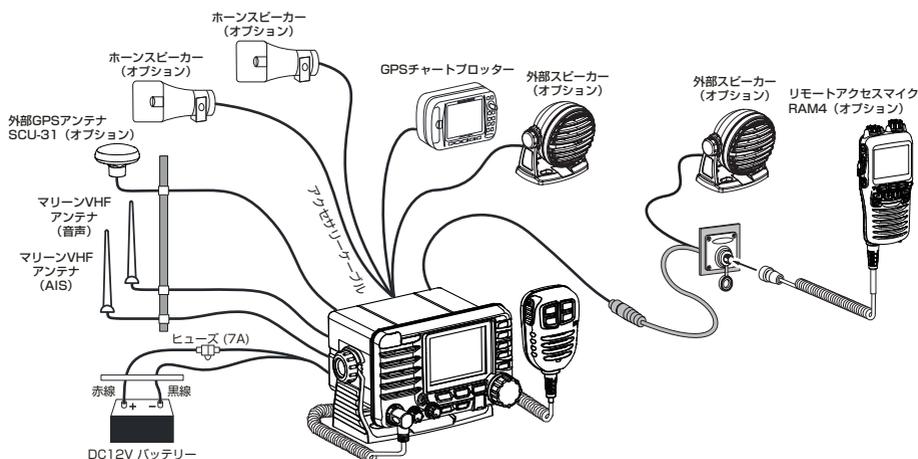
ご注意



電源の極性を誤って接続すると、本機や周辺機器を破損する恐れがあります。

下図を参考にして、付属マイクやアンテナ、電源を接続します。必要に応じて、外部GPSアンテナやリモートアクセスマイク、外部ホーンスピーカー、外部スピーカーなどを接続します。

1. アンテナを無線機から少なくとも1m以上離して取り付けます。無線機のリアパネルのアンテナ端子に接続します。アンテナケーブルにはPL259コネクタ (M形コネクタ) が取り付けられている必要があります。
2. 赤色の電源コードをDC13.8V  $\pm$ 20%の電源のプラス側に接続します。黒色の電源コードをマイナス側に接続します。
3. オプションのワイヤレスリモートアクセスマイク**RAM4W**を使用する場合は、接続についてはワイヤレスアクセスポイント**SCU-30**の取扱説明書を参照してください。
4. 設置が完了したら、VHFマリンアンテナのVSWR (定在波比) を確認することをお勧めします。



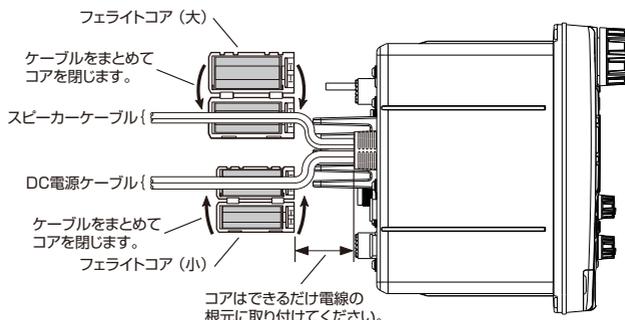
### 参考

音声通信用のアンテナとAIS専用アンテナはできるだけ離して設置してください。特に垂直方向の距離を離すことが、影響を受けにくくするのに有効です。さらに長距離通信を可能にするために、AIS用アンテナよりも音声通信用アンテナを高い位置に設置してください。

## ● フェライトコアの取り付けについて

無線機の動作に異常を起こすような電波による影響を軽減するために、下図を参照して、リアパネルの接続ケーブルに付属のフェライトコアを取り付けてください。

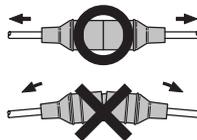
1. DC電源ケーブルにフェライトコア (小) を取り付けます。
2. ホーンスピーカー接続ケーブルと外部スピーカー接続ケーブルにフェライトコア (大) を取り付けます。
3. 振動でコアが開かないように、各フェライトコアにテープを巻きます。



**参考:** 各フェライトコアはできるだけケーブルの根元に取り付けてください。

### ⚠️ ご注意 ⚠️

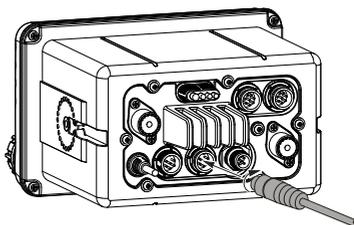
- 必ずDC 12Vのバッテリーを使用してください。
- 交流電源 (AC 100V) でお使いになる場合は、オプションの固定用電源FP-32をご使用ください。詳しくはFP-32の取扱説明書をご覧ください。
- アンテナは、50Ωに調節されたVHFマリンバンド用のアンテナを使用してください。
- 外部ホーンスピーカー、外部スピーカー、GPSチャートプロッターを接続した際には、接続部分をビニールテープ等でしっかりと防水/絶縁処理を行ってください。
- 各ケーブルの配線は、操船に支障のないよう安全と操作性に配慮してください。
- ヒューズを交換する際には、ヒューズホルダーは左右まっすぐに引っ張って外してください。ヒューズホルダーを折り曲げるような力を加えると、ヒューズホルダーが壊れたり、接触不良を起こして電源が入らなくなる場合があります。



## 外部機器の接続

### 外部GPSアンテナSCU-31 (オプション)

SCU-31のケーブルを無線機のリアパネルのGPSアンテナ接続端子 (白色) に接続します。ケーブルのナットを手でしっかりと締め付けてください。



## **NMEA 0183/NMEA 0183-HSの接続 (NMEA 0183入出力ケーブル)**

### **● 外部GPS機器の接続 (NMEA 0183 またはNMEA 0183-HS)**

本機はNMEA 0183の通信速度 (ボーレート) を4800bpsと38400bpsから選択することができます。詳しくは“**NMEA 0183入出力 (NMEA 0183 IN/OUT)**” (119ページ) を参照してください。

### **NMEA 入力 (GPS情報)**

- NMEA 0183 Ver.2.0以上とNMEA 0183-HS Ver.1.01以上に対応しています。
- NMEA 0183の入力センテンスはGLLとGGA、RMC、GNS、GSA、GSVに対応しています。(RMCを推奨します。)
- NMEA 0183の入力はボーレートの設定に関わらず、NMEA 0183入出力ケーブルの青色と緑色の電線を使用します。

### **NMEA 出力 (DSCとGPS情報)**

- NMEA 0183の出力センテンスはDSCとDSEセンテンスに対応します。
  - a. NMEA 0183入出力ケーブルの灰色と茶色の電線からDSCとDSEセンテンスが出力されます。
  - b. NMEA 0183入出力ケーブルの黄色と白色の電線から常にAISセンテンスが38400bpsで出力されます。
- GSAとGSV、GLL、GGA、RMCセンテンスはGPS設定メニューで設定して出力することができます。詳しくは“**NMEA 0183入出力 (NMEA 0183 IN/OUT)**” (119ページ) を参照してください。

外部に接続するGPS受信機の詳しい接続や設定方法については、外部機器の製造元にお問い合わせください。

## アクセサリケーブルとNMEA 0183入出力ケーブルについて

GX6000Jと外付けGPS受信機、GPSチャートプロッターなどの外部機器との接続については、次ページ以降の図と表を参照してください。



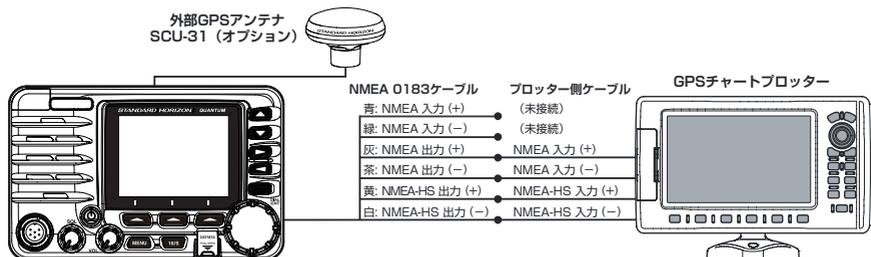
**ご注意**

NMEA入出力ケーブルの各線が誤って、DC（直流）電源のプラス電圧または無線機本体に触れることがないように十分に注意してください。本機が損傷する恐れがあります。

GX6000Jは、NMEA 0183/0183-HSプロトコルを使用して、GPSチャートプロッターとの間で座標およびDSC、AIS情報を双方向で共有します。GX6000JはAIS情報を38400bps（HSまたはHi Speedとも呼ばれます）でGPSチャートプロッターに転送します。GPSおよびDSC情報は、4800bps（工場出荷時）で複数のポート（最小2個）を備えたGPSチャートプロッターとの間で転送されます。

### チャートプロッターの接続 (NMEA 0183/NMEA 0183-HS)

#### ● 4800bps/38400bps



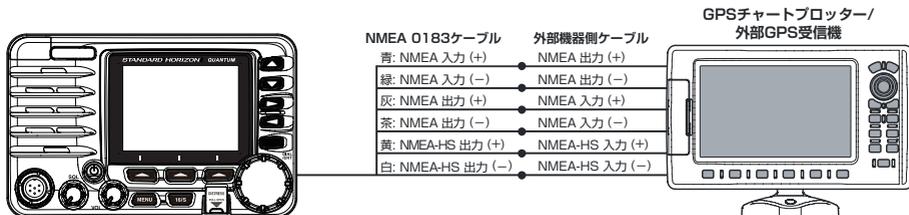
NMEA 0183入出力ケーブルの線色と機能	接続例
青色 - NMEA GPS 入力 (+)	(接続不要)
緑色 - NMEA GPS 入力 (-)	(接続不要)
灰色 - NMEA DSC 出力 (+)	GPSのNMEA 入力 (+)
茶色 - NMEA DSC 出力 (-)	GPSのNMEA 入力 (-)
黄色 - AIS データ 出力 (+)	NMEA-HS 入力 (+) of AIS受信機*1
白色 - AIS データ 出力 (-)	NMEA-HS 入力 (-) of AIS受信機*1

\*1: GX6000JはVDMセンテンスをNMEA 0183-HS(38400bps)で常に出力します。

**注意:** GPSチャートプロッターの一部は、NMEA信号のグランド用に1本の電線を備えています。その場合はGX6000JのNMEA入力 (-) をGPSチャートプロッターのNMEA信号のグランド線に接続し、NMEA出力 (-) は未接続にします。使用するGPSチャートプロッターとGX6000Jの電源とグランドが異なる場合は、GPSチャートプロッターのNMEA信号のグランド線をGX6000Jのリアパネルのアース端子 (GND) に接続してください。

## 外部GPSまたはチャートプロッターの接続

### ● 4800bps/38400bps

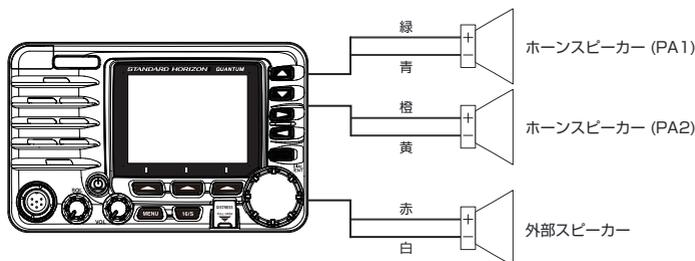


NMEA 0183入出力ケーブルの線色と機能	接続例
青色 - NMEA GPS 入力 (+)	NMEA 出力 (+) of GPS
緑色 - NMEA GPS 入力 (-)	NMEA 出力 (-) またはGPSの共通グランド
灰色 - NMEA DSC 出力 (+)	GPSのNMEA 入力 (+)
茶色 - NMEA DSC 出力 (-)	GPSのNMEA 入力 (-)
黄色 - AIS データ 出力 (+)	NMEA-HS 入力 (+) of AIS受信機*1
白色 - AIS データ 出力 (-)	NMEA-HS 入力 (-) of AIS受信機*1

\*1: GX6000JはVDMセンテンスをNMEA 0183-HS (38400bps)で常に出力します。

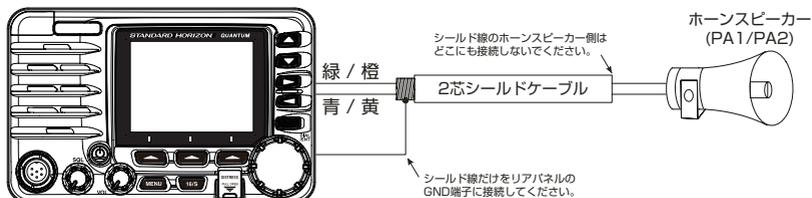
**注意:** GPSチャートプロッターの一部は、NMEA信号のグランド用に1本の電線を備えています。その場合はGX6000JのNMEA入力 (-) をGPSチャートプロッターのNMEA信号のグランド線に接続し、NMEA出力 (-) は未接続にします。使用するGPSチャートプロッターとGX6000Jの電源とグランドが異なる場合は、GPSチャートプロッターのNMEA信号のグランド線をGX6000Jのリアパネルのアース端子 (GND) に接続してください。

### 外部スピーカーまたはホーンスピーカーの接続



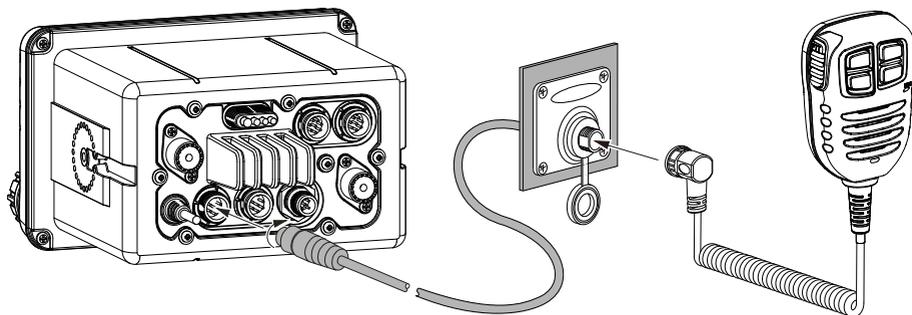
アクセサリケーブルの線色と機能	接続例
緑色 - PA1 ホーンスピーカー (+)	4オーム(Ω)の外部ホーンスピーカーのケーブル (+)
青色 - PA1 ホーンスピーカー (-)	4オーム(Ω)の外部ホーンスピーカーのケーブル (-)
橙色 - PA2 ホーンスピーカー (+)	4オーム(Ω)の外部ホーンスピーカーのケーブル (+)
黄色 - PA2 ホーンスピーカー (-)	4オーム(Ω)の外部ホーンスピーカーのケーブル (-)
赤色 - 外部スピーカー (+)	4オーム(Ω)の外部スピーカーのケーブル (+)
白色 - 外部スピーカー (-)	4オーム(Ω)の外部スピーカーのケーブル (-)

参考：一部の地域ではリスンバック機能を使用しているときに、近隣の強力なAM放送局の放送が聞こえる場合があります。この場合はスピーカーのケーブルを2芯シールドのオーディオケーブルに変更してください。接続については、下記を参照してください。



### リアパネルへの付属マイクの接続

リアパネルにもフロントパネルと同等のマイクコネクタがあります。図を参照してオプションのマイク延長ケーブルMEK-4をリアパネルのマイクコネクタ（6ピン）に接続して、プラグのナットを手でしっかりと締めます。



付属マイクはフロントパネルまたはリアパネルのどちらか一方のマイクコネクタに接続することができます。

## オプションのリモートアクセスマイクSSM-70H (RAM4)の接続

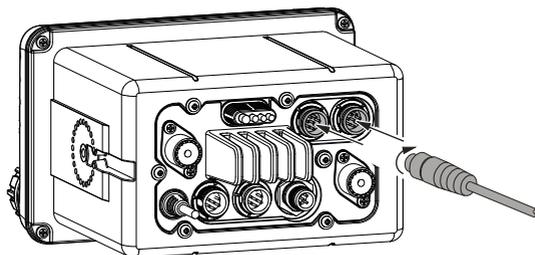
最大2台のリモートアクセスマイクRAM4を接続して、無線機の操作やAIS、DSC、拡声器や霧笛機能をリモートコントロールすることができます。さらに2台のRAM4マイクとGX6000Jの間で内線通話を行うことができます。



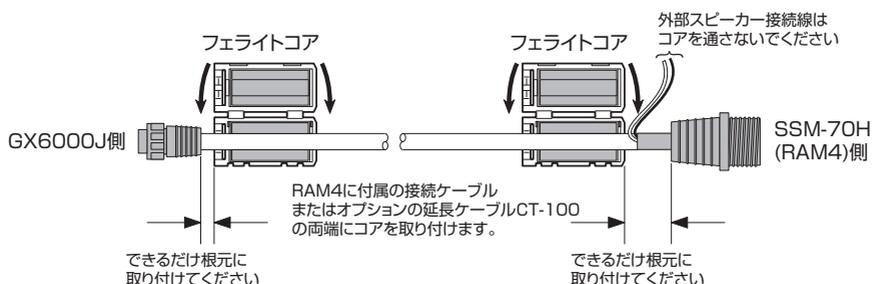
**ご注意**

SSM-70H (RAM4)の取り付け/取り外しは本機の電源をオフにしてから行ってください。本機またはRAM4が損傷する恐れがあります。

1. 図を参照してリアパネルの**RAM-1コネクタ** (8ピン) または**RAM-2コネクタ** (8ピン) に、**RAM4**に付属の接続ケーブルを接続し、プラグのナットをしっかりと手で締めます。



2. **RAM4**に付属の接続ケーブルまたはオプションの延長ケーブル**CT-100**の両端に、**RAM4**に付属の2つのフェライトコアを取り付けます。コアはケーブルのGX6000Jのリアパネル側とSSM-70H側に近いコネクタの根元に取り付けてください。



**注意：**図のようにフェライトコアはできるだけ両端のコネクタの近くに取り付けます。

⚠️ **ご注意** ⚠️

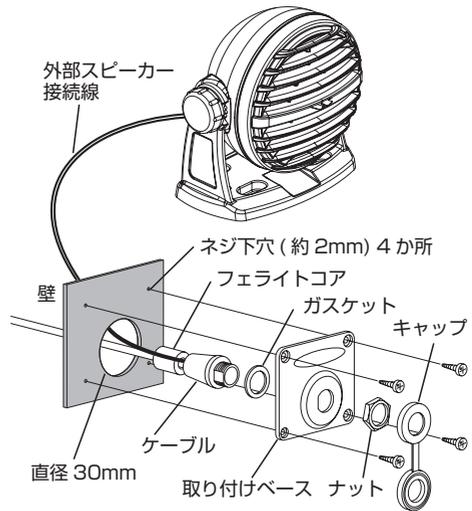
**注意!** 接続ケーブルを切断する場合は、トランシーバーのリアパネルから接続ケーブルを必ず取り外してください。

接続ケーブルを切断して加工することができますが、ケーブルを接続した箇所はテープを巻くなど、防水性を十分に確保してください。

ケーブルの内部には、黄色、白色、茶色、灰色、青色、緑色、赤色/白色\*の線とシールド線\*があります。

\*赤色と白色の線とシールド線は箔で包まれています。箔をはがして、赤色/白色とシールド線を分離します。

3. 振動でコアが開かないように、各フェライトコアにテープを巻きます。
4. 図を参照して、取り付ける壁に直径30mmの穴を開けて、ケーブルを通します。
5. ガスケットを挟んでケーブルを取り付けベースに挿入して、付属のナットで締め付けます。
6. 壁に4つの下穴（直径約2mm）を開けて、付属のネジ4本を使用して壁に取り付けベースを取り付けます。
7. キャップをナットの上にはめ込みます。以上で取り付けは完了です。



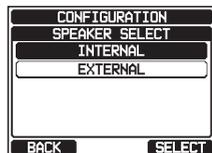
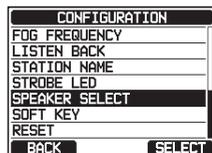
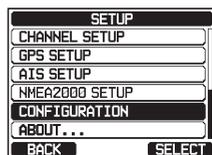
⚠️ **ご注意** ⚠️

SSM-70H(RAM4)の取り付け/取り外しはGX6000Jの電源をオフにしてから行ってください。GX6000JまたはSSM-70Hが損傷する場合があります。

● **SSM-70H(RAM4)に外部スピーカーを取り付ける**

オプションの外部スピーカー**MLS-300**を**SSM-70H(RAM4)**の接続ケーブルのスピーカーケーブル（白色）に接続して、受信音をより大きな音量で出力することができます。**RAM4**マイクは内蔵スピーカーと外部スピーカーのどちらか片方を使用することができます。外部スピーカーを接続する場合は、以下の手順で設定します。

- RAM4マイクの[MENU]ボタンを押して、メニュー画面を表示させます。  
**注意:**この操作は必ずRAM4マイクで行う必要があります。
- DIAL/ENT**ツマミをまわして“**SETUP**”を選択して、[**SELECT**]ソフトキーを押します。
- DIAL/ENT**ツマミをまわして“**CONFIGURATION**”を選択して、[**SELECT**]ソフトキーを押します。
- DIAL/ENT**ツマミをまわして“**SPEAKER SELECT**”を選択して、[**SELECT**]ソフトキーを押します。
- DIAL/ENT**ツマミをまわして“**EXTERNAL**”を選択して、[**SELECT**]ソフトキーを押します。



- [**CLEAR**]ボタンを押して、通常画面に戻ります。

## ワイヤレスアクセスポイントSCU-30の接続

GX6000Jは、ワイヤレスリモートステーションマイクSSM-71H(RAM4W)を使用して、無線、AIS、DSC、拡声器/霧笛など機能をワイヤレスでリモートコントロールすることができます。さらに、GX6000JとRAM4W、RAM4の間で内線通話ができます。

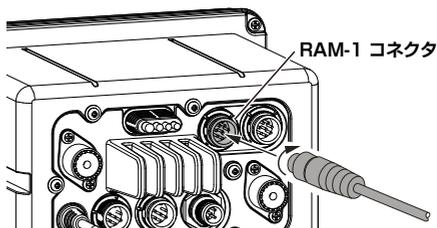
オプションのワイヤレスアクセスポイントSCU-30をGX6000JのリアパネルのRAM-1コネクタに接続して、最大4台のワイヤレスリモートアクセスマイクRAM4Wを使うことができます。

### ⚠️ ご注意 ⚠️

SCU-30の取り付け/取り外しはGX6000Jの電源をオフにしてから行ってください。GX6000JまたはSCU-30が損傷する場合があります。

- SCU-30のケーブルをリアパネルのRAM-1コネクタ（RAM-2コネクタは使用できません）に接続して、手でケーブルのナットを締めます。

**注意:**RAM4WとGX6000Jのワイヤレス接続の詳細については、RAM4Wの取扱説明書を参照してください。



## 最初の電源投入時に必要な初期設定

### ● MMSI番号の登録

GX6000JはDSC機能を搭載しています。DSC機能を使用するために、免許状に記載されたMMSI番号を無線機に登録してください。

MMSI番号を無線機に登録しないとDSC機能を使用することができません。

● **MMSI (Maritime Mobile Service Identity、海上移動業務識別コード)**とはMMSIは、DSC(Digital Selective Calling、デジタル選択呼出)およびAIS(Automatic Identification System)の信号伝送ができる船舶局または海岸局に認識番号として交付される9桁の数字です。この番号は電話番号のように他の船舶を選択的に呼び出すために使用されます。

### 参考:

#### **DSC (Digital Selective Calling、デジタル選択呼出):**

遭難通報および一般呼出通信を送受信するための機能です。**[DISTRESS]**ボタンを押すことにより遭難通報を送信することができます。

#### **AIS (Automatic Identification System、船舶自動識別装置):**

呼出符号、船名、位置、針路、速力、目的地などの船舶情報を自動的に送受信し、船舶局相互間、船舶局と海岸局の間で情報の交換を行うシステムです。

### ⚠️ ご注意 ⚠️

MMSI番号は1度だけ登録することができます。登録したMMSI番号はお客様自身でリセット(消去)や再登録を行うことはできませんので、番号を間違えて入力しないようご注意ください。MMSI番号のリセット(有償)については、ご購入いただきました販売店にご相談ください。

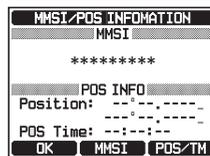
### MMSI番号の登録

お買い上げ後、電源を入れると画面にMMSI番号の入力をうながす“警告”画面が表示され、ビープ音が鳴りますMMSI番号を登録すると、それ以後は表示されなくなります。

1. **[MENU]**ボタンを押してメニュー画面を表示させます。
2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして“**MMSI/POS INFO**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。(登録を中止する場合は、**[BACK]**ソフトキーを押します。)
3. **[MMSI]**ソフトキーを押します。

**参考:** **[MMSI]**ソフトキーはMMSI番号がまだ登録されていないときにだけ表示されます。

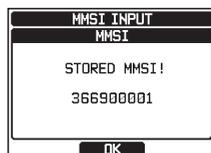
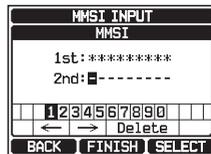
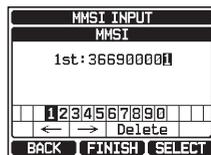
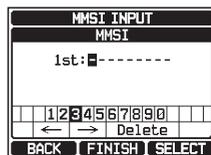
すでにMMSI番号の登録が完了している場合は、この画面でMMSI番号の確認をすることができます。



4. **DIAL/ENT**ツマミをまわしてMMSI番号の1桁目の数字を選択し、**[SELECT]**ソフトキーを押して、次の桁に移動します。
5. 手順4を繰り返して9桁のMMSI番号を入力します。

もし間違えて入力した時は、**DIAL/ENT**ツマミをまわして、“←”または“→”を選択して**[SELECT]**ソフトキーを押して間違えた数字を選択してから、手順4と同様に入力します。

6. MMSI番号の入力が終了したら、**[FINISH]**ソフトキーを押します。確認のためにMMSI番号を再度、入力するよう求められますので、上記の手順4から5に従ってもう一度入力します。
7. 2度目の入力が終了したら、**[FINISH]**ソフトキーを押してMMSI番号を登録します。
8. **[OK]**ソフトキーを押して、通常画面に戻ります。MMSI番号の登録は以上で完了です。



### 参考

MMSI番号が正しく登録されたことを確認するには、手順1、2の操作を行います。画面に表示されたMMSI番号が正しいことを確認します。

## GPS信号の確認 (GPSステータス表示)

GX6000Jは、外部GPSアンテナ**SCU-31**からのGPS信号を受信すると、画面にGPSアイコン“”が表示され、現在の位置（緯度/経度）が画面に表示されます。（※:NMEA 2000またはNMEA 0183からGPS信号を入力すると、画面には“**2K**”（NMEA 2000）アイコンまたは“**I/O**”（NMEA 0183）アイコンが表示されます。

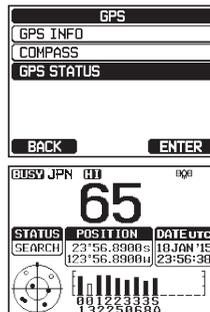
### 注意

GPS機器との接続に問題がある場合、GPSアイコン“”が連続して点滅します。

1. **[MENU]**キーを押してメニュー画面を表示させます。



2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして“**GPS**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。
3. **DIAL/ENT**ツマミをまわして“**GPS STATUS**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押して、現在のGPS信号の受信状態を表示します。
4. **[CLEAR]**キーを押して通常画面に戻ります。



### 参考

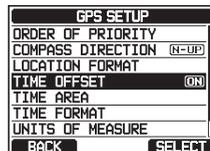
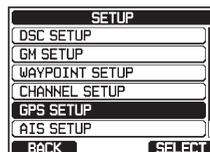
外部GPS機器またはチャートプロッターが接続されているときに、GPSステータスを正しく表示するには、外部GPS機器またはチャートプロッターがNMEA 0183のGSAおよびGSVのセンテンスを出力するように設定する必要があります。NMEA 2000の機器を使用する場合は、PGN No.129540 (GNSS情報)を出力できる必要があります。

## GPS設定

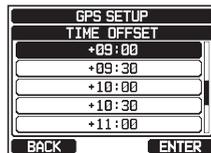
### 時刻オフセットの変更

GX6000Jは、工場出荷時の状態ではGPS衛星時刻 (UTC (Universal Time Coordinated) 時刻) を表示します。現在地の時刻を示すには時刻オフセットの設定が必要です。

1. **[MENU]**キーを押してメニュー画面を表示させます。
2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして“**SETUP**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。
3. **DIAL/ENT**ツマミをまわして“**GPS SETUP**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。
4. **DIAL/ENT**ツマミをまわして“**TIME OFFSET**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。



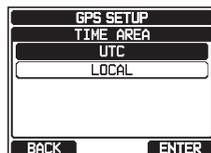
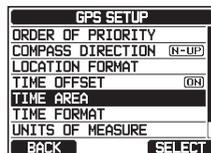
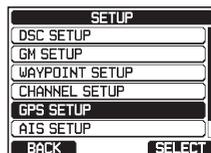
5. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、現在地の時刻オフセットを選択します。“**00:00**”が選択されている場合、時刻はGPS衛星時刻（UTC時刻）と同じです。  
**参考:**“**+09:00**”に設定すると、日本標準時になります。
6. [**ENTER**]キーを押して、時刻オフセットを保存します。
7. [**CLEAR**]キーを押して通常画面に戻ります。



### タイムエリアの変更

GX6000Jの時刻表示を“**UTC**”（工場出荷時設定）、または現在地の時間にオフセットして表示する“**LOCAL**”に設定できます。

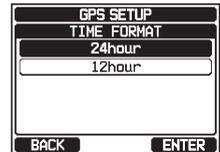
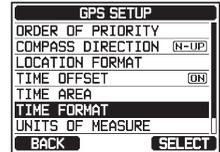
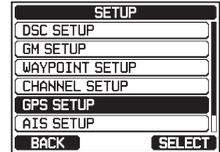
1. [**NENU**]キーを押してメニュー画面を表示させます。
2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして“**SETUP**”を選択して、[**SELECT**]ソフトキーを押します。
3. **DIAL/ENT**ツマミをまわして“**GPS SETUP**”を選択して、[**SELECT**]ソフトキーを押します。
4. **DIAL/ENT**ツマミをまわして“**TIME AREA**”を選択して、[**SELECT**]ソフトキーを押します。
5. **DIAL/ENT**ツマミをまわして“**UTC**”または“**LOCAL**”を選択します。
6. [**ENTER**]キーを押して、選択した設定を保存します。
7. [**CLEAR**]キーを押して通常画面に戻ります。



## 時刻表示形式の変更

時刻を12時間表示または24時間表示に設定できます。

1. [NENU]キーを押してメニュー画面を表示させます。
2. DIAL/ENTツマミをまわして“**SETUP**”を選択して、[SELECT]ソフトキーを押します。
3. DIAL/ENTツマミをまわして“**GPS SETUP**”を選択して、[SELECT]ソフトキーを押します。
4. DIAL/ENTツマミをまわして“**TIME FORMAT**”を選択して、[SELECT]ソフトキーを押します。
5. DIAL/ENTツマミをまわして“**24hour**”または“**12hour**”を選択します。
6. [ENTER]キーを押して、選択した設定を保存します。
7. [CLEAR]キーを押して通常画面に戻ります



## 磁気偏差の設定

自船の進行方向COG (Course Over Ground)またはAISターゲットの方位角、ウェイポイント方位角を磁方位で表示をするかどうかを選択できます。

工場出荷時の設定は“OFF”（真方位）です。

### 注意

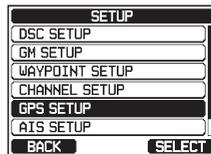
設定を“ON”にした場合、GPS受信機などの外部機器から磁気偏差データが含まれているRMCセンテンスが入力された場合にのみ有効となります。(SCU-31は磁気偏差データの出力に対応していません。)

磁気偏差データが含まれていない場合は、設定を“ON”にしても真方位で表示します。

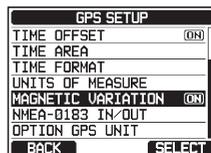
1. [NENU]キーを押してメニュー画面を表示させます。
2. DIAL/ENTツマミをまわして“**SETUP**”を選択して、[SELECT]ソフトキーを押します。



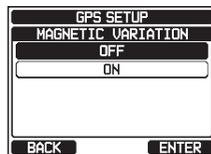
3. **DIAL/ENT**ツマミをまわして“**GPS SETUP**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。



4. **DIAL/ENT**ツマミをまわして“**MAGNETIC VARIATION**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。



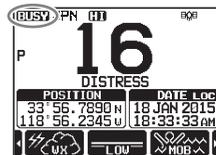
5. **DIAL/ENT**ツマミをまわして“**OFF**”（真方位）または“**ON**”（磁方位）を選択します。  
6. **[ENTER]**キーを押して、選択した設定を保存します。  
7. **[CLEAR]**キーを押して通常画面に戻ります



## 基本的な操作

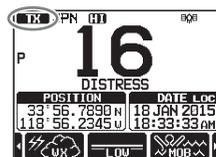
### 受信する

1. [POWER]キーを長く押し、電源をオンにします。
2. SQLツマミを反時計方向にまわし切ります。
3. VOLツマミをまわして、聞きやすい音量に調節します。
4. SQLツマミをまわして、“ザー”という雑音が消える位置に調節します。
5. DIAL/ENTツマミをまわすか、▲/▼キーを押して、通信するチャンネルを選択します。
  - チャンネル表は130ページ参照してください。
  - マイクの▲/▼キーを押してチャンネルを選択することもできます。
6. 信号を受信すると画面に“BUSY”アイコンが表示されます。



### 送信する

1. マイクの[PTT]ボタンを押しながら話します。送信中は画面に“TX”アイコンが表示されます。
2. [PTT]ボタンを放すと、受信状態に戻り、相手の話を聞くことができます。



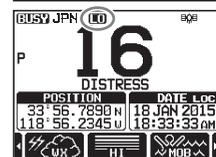
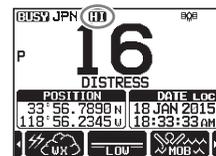
- 本機の電源を切るときは、もう一度[POWER]キーを長く押します。

### 送信出力の切り替え

送信出力（電波の強さ）は、各チャンネルごとにHI（25W）またはLO（1W）の2段階で切り替えることができます。

運用規則に則り、設定してください。

1. ◀/▶キーを何度か押して、画面下部に[HI]ソフトキーまたは[LOW]ソフトキーを表示させます。
2. [HI]ソフトキーまたは[LOW]ソフトキーを押して、HI(25W)またはLO(1W)に送信出力を切り替えます。
  - 送信出力の設定は電源を切っても保持されます。
  - このソフトキーは、送信禁止チャンネル(CH70)とLO(1W)専用チャンネル(CH15およびCH17、CH75、CH76)では操作できません。



## 注意

- CH16では、送信出力を変更しても、電源を切って入れたとき、または次にCH16を呼び出したときは自動的にHI(25W)に設定されます。
- 連続して送信できる時間は最大5分です。5分間連続して送信し続けると、10秒前に警告のビーブ音が鳴り、その後自動的に送信が停止します。
- 自動的に送信が停止したときには、一度**PTT**ボタンを放して、10秒以上経ってから再度**PTT**ボタンを押して送信してください(送信停止後10秒間は**PTT**ボタンを押しても送信できません)。

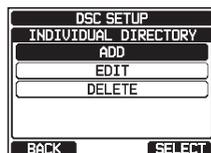
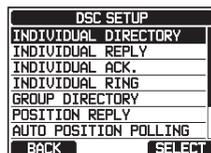
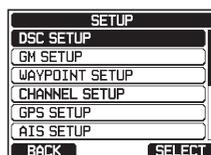
## 設定メニューの基本的な操作

設定(SETUP)メニューを使用すると、GX6000Jのさまざまな機能を使い方に合わせてカスタマイズすることができます。

1. **[MENU]**キーを押して設定メニュー画面を表示させます。
2. **DIAL/ENT**ツマミをまわすか、または▲/▼/◀/▶キーを押して“**SETUP**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーまたは**DIAL/ENT**ツマミを押して、設定メニュー画面を表示させます。
3. **DIAL/ENT**ツマミをまわすか、または▲/▼キーを押してメニュー項目を選択して、**[SELECT]**ソフトキーまたは**DIAL/ENT**ツマミを押します。
4. **DIAL/ENT**ツマミをまわすか、または▲/▼キーを押して、変更したい項目を選択して、**[SELECT]**ソフトキーまたは**DIAL/ENT**ツマミを押します。
5. **DIAL/ENT**ツマミをまわすか、または▲/▼キーを押して設定値を選択します。
6. **[ENTER]**ソフトキーを押すか、または**DIAL/ENT**ツマミを押すと、設定が保存されます。
7. **[CLEAR]**キーを押して、通常画面に戻ります。**[BACK]**ソフトキーを押して、一つ前の画面に戻ることもできます。

この取扱説明書では、上記の操作手順1~4を以下のように書いています。

**[MENU]** ⇒ “**SETUP**” ⇒ “**DSC SETUP**” ⇒ “**INDIVIDUAL DIRECTORY**”



## マルチワッチ (2波または3波の同時受信)

マルチワッチ機能は2つまたは3つのチャンネルを交互に受信して、優先チャンネルの信号を探して受信することができます。

- “**DUAL**” (2波受信) は、優先チャンネルと通常のVHFチャンネルを交互にスキャンします。
- “**TRIPLE**” (3波受信) は、優先チャンネルとサブチャンネル、通常のVHFチャンネルを交互にスキャンします。

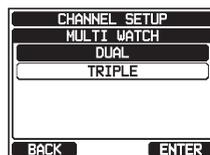
通常のチャンネルと優先チャンネルを短時間で切り換えて優先チャンネルの信号を探します。優先チャンネルで信号を受信すると、停止して信号を受信します。また信号が無くなるまで優先チャンネルを受信し、信号がなくなると2つまたは3つのチャンネルの交互受信を再開します。

工場出荷時は優先チャンネルはCH16、サブチャンネルはCH9に設定されています。

### マルチワッチ機能の設定

1.  → “**SETUP**” → “**CHANNEL SETUP**” → “**MULTI WATCH**”

2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして “**DUAL**” (2波受信) または “**TRIPLE**” (3波受信) を選択します。
3. [**ENTER**]ソフトキーを押して、設定を保存します。
4. [**CLEAR**]キーを押して、通常画面に戻ります。



### 2波同時受信をスタートする

1. **SQL**ツマミをまわして、信号がないときの“ザー”という雑音が消える位置に調節します。
2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、受信したいチャンネルを選択します。
3. ◀/▶キーを何度か押して、画面の下部に[**DUAL WATCH**]ソフトキーを表示させて押します。画面の右側に “**DW-16**” と表示されます。(DW-に続く数字は優先チャンネル番号を表しています。)



4. もう一度[**DUAL WATCH**]ソフトキーまたは[**CLEAR**]キーを押すと、デュアルワッチを終了します。

「マルチワッチ機能の設定」の手順2で“**TRIPLE**”を選択すると、[**DUAL WATCH**]の代わりに[**TRIPLE WATCH**]ソフトキーが表示され、トリプルワッチ(3波同時受信)機能が使用できます。

**参考:**優先チャンネルとサブチャンネルは、それぞれCH16、CH9(工場出荷時)から他のチャンネルに変更することができます。詳しくは“**プライオリティ チャンネル (PRIORITY CHANNEL)**”(108ページ)を参照してください。

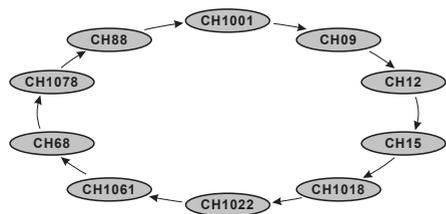
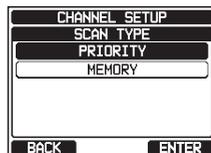
## スキャン(SCAN)

スキャンチャンネルメモリーとプリセットチャンネルメモリーに設定されたチャンネルおよび最後に選択されたウェザーチャンネルを自動でスキャンします。スキャン中にいずれかのチャンネルで信号を受信すると、そのチャンネルで一時停止し、画面のチャンネル番号が点滅します。一時停止しているときは受信した信号を聞くことができます。信号がなくなると自動でスキャンを再開します。

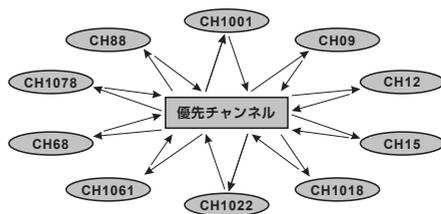
### スキャンタイプの設定

1. [MENU] ➡ “SETUP” ➡ “CHANNEL SETUP” ➡ “SCAN TYPE”

2. DIAL/ENTツマミをまわして“MEMORY”（メモリスキャン）または“PRIORITY”（プライオリティメモリスキャン）を選択します。
3. [ENTER]ソフトキーを押して、設定を保存します。
4. [CLEAR]キーを押して、通常画面に戻ります。



メモリスキャン (M-SCAN)

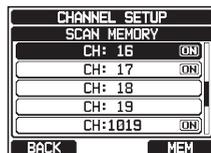


プライオリティスキャン (P-SCAN)

### スキャンメモリーの設定

1. [MENU] ➡ “SETUP” ➡ “CHANNEL SETUP” ➡ “SCAN MEMORY”

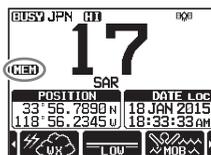
2. DIAL/ENTツマミをまわして、スキャンするチャンネルを表示させて、[MEM]ソフトキーを押します。選択したチャンネルの右側に“ON”アイコンが表示されます。



3. 手順2を繰り返してスキャンする全てのチャンネルを設定します。スキャンメモリー設定したチャンネルを解除するには、チャンネルを選択してから、[MEM]ソフトキーを押して“ON”アイコンを消します。
4. 設定が完了したら、[CLEAR]キーを押して、通常画面に戻ります。

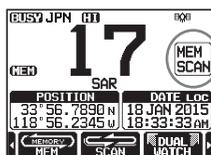
設定されたチャンネルは、通常画面の左側に“MEM”アイコンが表示されます。

参考:ソフトキーに“SCAN MEMORY”が割り当てられているときは、[MEM]ソフトキーを押すたびに、表示しているチャンネルのスキャン設定を切り替えることができます。



## メモリスキャン (M-SCAN)

1. 設定メニューでスキャンタイプを“MEMORY”に設定します。詳しくは“**スキャンタイプの設定**” (32ページ)を参照してください。
2. SQLツマミをまわして、信号がないときの“ザー”という雑音が消える位置に調節します。
3. ◀/▶キーを何度か押して、画面の下部に[SCAN]ソフトキーを表示させて押します。画面の右側に“MEM SCAN”アイコンが表示され、メモリスキャンが開始されます。  
スキャンメモリーとプリセットチャンネルに設定されたチャンネルの小さい番号から大きい番号の順にスキャンして、信号を受信するとそのチャンネルで一時停止して信号を聞くことができます。画面のチャンネル番号が点滅します。
4. スキャンを止めるには[SCAN]ソフトキーまたは[16/S]キー、[CLEAR]キーを押します。



## プライオリティスキャン (P-SCAN)

1. 設定メニューでスキャンタイプを“PRIORITY”に設定します。詳しくは“**スキャンタイプの設定**” (32ページ)を参照してください。
2. SQLツマミをまわして、信号がないときの“ザー”という雑音が消える位置に調節します。
3. ◀/▶キーを何度か押して、画面の下部に[SCAN]ソフトキーを表示させて、[SCAN]ソフトキーを押します。画面の右側に“PRI SCAN”アイコンが表示され、メモリスキャンが開始されます。
4. スキャンメモリーまたはプリセットチャンネルに設定されたチャンネルとプライオリティチャンネルを交互にスキャンします。
5. スキャンを止めるには[SCAN]ソフトキーまたは[16/S]キー、[CLEAR]キーを押します。



## 参考

工場出荷時設定では、チャンネル16がプライオリティチャンネルとして設定されています。設定メニューでプライオリティチャンネルを希望するチャンネルに変更することができます。“**プライオリティ チャンネル (PRIORITY CHANNEL)**” (108ページ)を参照してください。

## プリセットチャンネル機能

よく使うチャンネルを最大10個まで記憶 (プリセット) しておいて、簡単に呼び出すことができます。

### プリセットチャンネルの設定

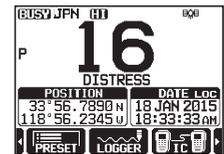
1. **DIAL/ENT** ツマミをまわして、プリセットしたいチャンネルを表示させます。
2. ◀ / ▶ キーを何度か押して、画面の下部に **[PRESET]** ソフトキーを表示させて長く押します。“**P-SET**” アイコンとチャンネル番号が点滅します。
3. **[ADD]** ソフトキーを押して、プライオリティチャンネルに設定します。画面の右上に “**P-SET**” アイコンが表示されます。
4. 手順1から3を繰り返して、最大10チャンネルまでプリセットチャンネルを設定することができます。それ以上設定しようとするするとビープ音が鳴ります。



### プリセットチャンネルの呼び出し

1. ◀ / ▶ キーを何度か押して、画面の下部に **[PRESET]** ソフトキーを表示させて押します。“**P-SET**” アイコンが表示されます。

参考: プリセットチャンネルが1つも設定されていないときは、エラー音になります。



2. **DIAL/ENT** ツマミをまわして、プリセットチャンネルを呼び出します。

3. 再び[PRESET]ソフトキーを押すと、最後に表示していたチャンネルに戻ります。“P-SET”アイコンが消えます。

## プリセットチャンネルの削除

1. ◀/▶キーを何度か押して、画面の下部に[PRESET]ソフトキーを表示させて押します。“P-SET”アイコンが表示されます。
2. DIAL/ENTツマミをまわして、削除するチャンネルを選択します。
3. [PRESET]ソフトキーを長く押します。“P-SET”アイコンとチャンネル番号が点滅します。
4. [DELETE]ソフトキーを押すと、プリセットチャンネルメモリーからチャンネルが削除されます。
5. 手順2から4を繰り返してチャンネルを削除します。
6. [QUIT]ソフトキーを押すとプリセットチャンネルに戻ります。

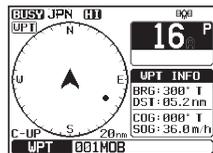
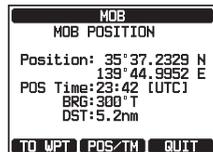
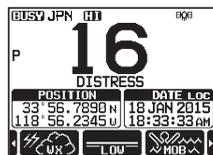


## MOB (Man Overboard、落水者)位置情報の保存

MOB (Man Overboard、落水者)が発生した場合に、その位置をすぐに保存することができます。

1. ◀/▶キーを何度か押して、画面の下部に[MOB]ソフトキーを表示させて押します。
2. [TO WPT]ソフトキーを押すと、表示された位置（落水者の位置）へのナビゲーションを開始します。ナビゲーション機能の詳細については、“ナビゲーション”（77ページ）を参照してください。

表示された位置情報を変更するには、[POS/TM]ソフトキーを押します。詳しくは“ウェイポイントの編集”（80ページ）参照してください。



3. 遭難通報を送信するには、フロントパネルにある赤色の[DISTRESS]カバーを上げて、[DISTRESS]キーを3秒以上押し続けます（詳細は“遭難通報の送信”（43ページ）を参照）。このときDSC遭難通報の種類は自動的に“MOB”に設定されます。

## 拡声器/霧笛機能

GX6000Jには出力25Wの拡声器機能が内蔵されており、オプションのホーンスピーカー**220SW**（直径約12cm丸形、4オーム、30ワット）を最大2個まで接続できます。また、本機を拡声器/霧笛モードにすると、ホーンスピーカーがマイクとして動作して、ホーンスピーカーと本機の間で双方向で通話することができます。

### 参考

GX6000Jを拡声器モードまたは霧笛モードにすると、最後に選択されたチャンネルで呼び出し（コール）および通信を受信します。**DIAL/ENT**ツマミをまわしてチャンネルを変更できます。

また、拡声器モードまたは霧笛モードでも、AIS画面を呼び出すことができます。

### 拡声器(PA)モード:

拡声器(PA)モードでは、オプションのホーンスピーカー**220SW**が取り付けられている場合、GX6000Jを拡声器として使用できます。拡声器モードでは、ホーンスピーカーを使って双方向で会話ができます。

### 霧笛(FOG HORN)モード:

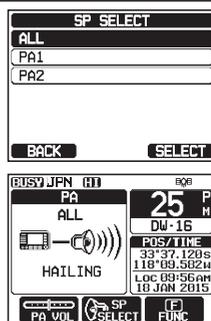
霧笛はホーンスピーカーから送られます。霧笛が鳴っていないとき、GX6000Jは接続されたホーンスピーカーを通して周囲の音を聞くことができます（リッスンバック機能）。

### ホーン(HORN)モード:

霧笛やサイレンをホーンスピーカーから鳴らすことができます。霧笛やサイレンが鳴っていないとき、GX6000Jは接続されたホーンスピーカーを通して周囲の音を聞くことができます（リッスンバック機能）。

### 拡声器モード

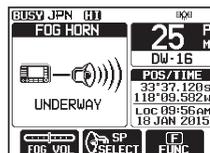
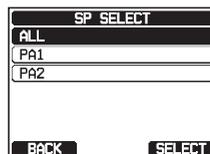
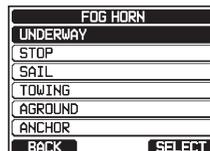
1. **[MENU]** ⇒ “PA FOG” ⇒ “PUBLIC ADDRESS”
2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**ALL**”または“**PA1**”、“**PA2**”から出力するホーンスピーカーを選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。マイクの**PTT**スイッチを押して話すと、ホーンスピーカーから音声が出力されます。
3. **[PA VOL]**ソフトキーを押して、**DIAL/ENT**ツマミをまわして、ホーンスピーカーの音量を調節して**[ENTER]**ソフトキーを押します。音量は0～31の間で設定できます。
4. **VOL**ツマミをまわして、リッスンバック機能の音量を調節します。
5. **[CLEAR]**キーを押して、通常画面に戻ります。



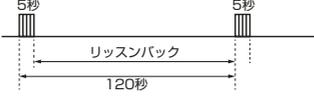
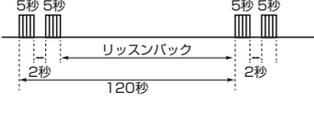
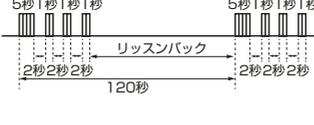
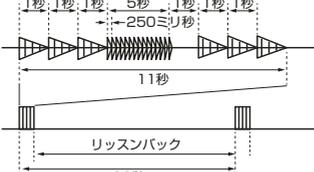
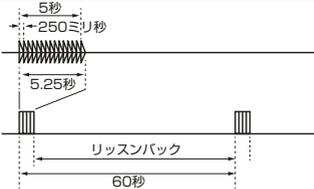
## 霧笛(FOG HORN)モード

霧笛の種類を“UNDERWAY”（航行中）、“STOP”（停止）、“SAIL”（帆走）、“TOWING”（曳航）、“AGROUND”（座礁）および“ANCHOR”（停泊）から選択できます。

1.  ⇒ “PA FOG” ⇒ “FOG HORN”
2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして上記の6つの種類のいずれかを選択し、**[SELECT]**ソフトキーを押します。
3. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**ALL**”または“**PA1**”、“**PA2**”から出力するホーンスピーカーを選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押すと霧笛が鳴ります。
  - **[FUNC]**ソフトキーを押してから、**[FOG/HORN]**ソフトキーを押して、霧笛を鳴らすことができます。
  - 霧笛を止める場合は、もう一度**[FUNC]**ソフトキーを押してから、**[FOG/HORN]**ソフトキーを押します。
  - **[FOG VOL]**ソフトキーを押して、**DIAL/ENT**ツマミをまわして霧笛の音量を調節して、**[ENTER]**ソフトキーを押します。音量は“0”～“31”の間で設定できます。
4. **VOL**ツマミをまわして、リッスンバック機能の音量を調節します。
5. **[CLEAR]**キーを押して、通常画面に戻ります。



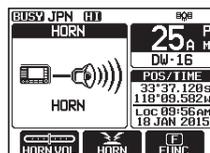
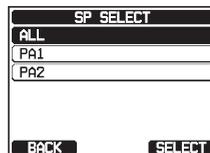
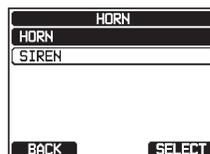
# 霧笛信号一覧

種類	鳴動パターン	
<b>UNDERWAY</b> (航行中)		2分毎に、警笛を5秒間発します。 警笛を発していないときは、外部ホーンスピーカーを通して周囲の音をモニターします(リススンバック機能)。
<b>STOP</b> (停止)		2分毎に、警笛を2回(2秒間隔で5秒間)発します。 警笛を発していないときは、外部ホーンスピーカーを通して周囲の音をモニターします(リススンバック機能)。
<b>SAIL</b> (帆走)		2分毎に、警笛を3回(5秒間を1回、1秒間を2回、それぞれ2秒間隔)発します。 警笛を発していないときは、外部ホーンスピーカーを通して周囲の音をモニターします(リススンバック機能)。
<b>TOWING</b> (曳航)		2分毎に、警笛を4回(5秒間を1回、1秒間を3回、それぞれ2秒間隔)発します。 警笛を発していないときは、外部ホーンスピーカーを通して周囲の音をモニターします(リススンバック機能)。
<b>AGROUND</b> (座礁)		1分毎に、警鐘を11秒間発します。 警鐘を発していないときは、外部ホーンスピーカーを通して周囲の音をモニターします(リススンバック機能)。
<b>ANCHOR</b> (停泊)		1分毎に、警鐘を5秒間発します。 警鐘を発していないときは、外部ホーンスピーカーを通して周囲の音をモニターします(リススンバック機能)。

## ホーン(HORN)モード

ホーンの音の種類を“ホーン”と“サイレン”から選択できます。

1.  ⇒ “PA FOG” ⇒ “HORN”
2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**HORN**”（ホーン）または“**SIREN**”（サイレン）を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。
3. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**ALL**”または“**PA1**”、“**PA2**”から出力するホーンスピーカーを選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。
4. **[HORN]**ソフトキーを押している間、ホーンスピーカーからホーンまたはサイレンが鳴ります。  
**[FOG VOL]**ソフトキーを押して、**DIAL/ENT**ツマミをまわして、ホーンまたはサイレンの音量を調節して**[ENTER]**ソフトキーを押します。音量は“**0**”～“**31**”の間で設定できます。
5. **VOL**ツマミをまわして、ホーンスピーカー周囲の音を聞く（リッスンバック機能）音量を調節します。
6. **[CLEAR]**キーを押して、通常画面に戻ります。



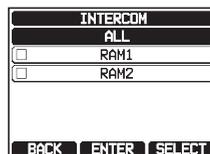
## 内線通話機能

オプションのリモートステーションマイク**SSM-70H (RAM4)**を接続すると**GX6000J**と**RAM4**の間で内線通話ができます。

### 内線通話をする

1.  ⇒ “**IC**”
2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**ALL**”または“**RAM1**”、“**RAM2**”から内線通話をするリモートステーションマイク**RAM4**を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。
  - 選択したマイクには左側に“✓”アイコンが表示されます。
  - “**ALL**”を選択したときは、自動で手順5に進みます。

**参考:** RAM4を1台だけ接続しているときは、この画面は表示されませんので、手順5に進みます。
3. 手順2を繰り返して、希望するRAM4を選択します。



4. **[ENTER]**ソフトキーを押します。

GX6000JとRAM4の画面に“**INTERCOM**”と表示されます。

5. GX6000JまたはRAM4の**PTT**スイッチを押すと画面に“**TALK**”と表示されます。

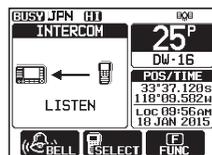
**注意:** GX6000JとRAM4の**PTT**スイッチが同時に押されると、ピープ音が鳴ります。

6. **PTT**スイッチを押しながら、マイクに向かって話します。

7. **PTT**スイッチを放すと相手からの内線通話を聞くことができます。

相手からの内線通話を受けているとき、画面に“**LISTEN**”と表示されます。

8. **[CLEAR]**キーを押すと、内線通話を終了して通常画面に戻ります。



### 内線呼び出し

内線通話画面で、**[BELL]**ソフトキーを押すと、他のSSM-70HまたはGX6000Jで呼び出し音を鳴らすことができます。

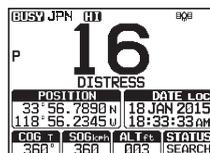
## GPS機能

位置情報を受信して表示するために、オプションの外部GPSアンテナ **SCU-31**を接続することができます。GX6000JにNMEA 0183またはNMEA2000によって外部GPS装置を接続している場合、設定メニューで位置情報の取得に使用する接続デバイスの優先順位を選択できます（“**優先順位 (ORDER OF PRIORITY)**”（117ページ）を参照）。また、自船の位置情報だけでなく、受信した他の船舶の位置情報を記憶して、あとからナビゲーションに利用することができます。

## 位置情報表示

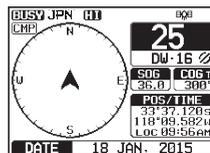
### GPS情報画面

1.  ⇒ “GPS” ⇒ “GPS INFO”
2. GPS情報の画面を表示します。
3. [CLEAR]キーを押して、通常画面に戻ります。



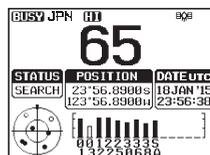
### GPSコンパス画面

1.  ⇒ “GPS” ⇒ “COMPASS”
2. GPSコンパス画面を表示します。
3. [CLEAR]キーを押して、通常画面に戻ります。  
参考: ソフトキーに“COMMPASS”が割り当てられているときは、[COMP]ソフトキーを押すと、GPSコンパス画面にすぐに切り替えることができます。



## GPS受信状態を確認する

1.  ⇒ “GPS” ⇒ “GPS STATUS”
2. 現在のGPS受信状態を表示します。
3. [CLEAR]キーを押して、通常画面に戻ります。

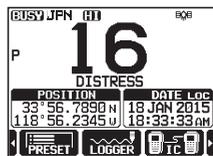


## GPSロガー（移動軌跡保存）機能

GPSロガー機能をオンにすると定期的に船の位置情報を本機に保存して、あとからUSBケーブルで接続したパソコンにダウンロードすることができます。（オプションのSCU-31外部GPSアンテナが必要です。）

1. [LOGGER]ソフトキーを押すと、画面の上部に“”アイコンが表示され、移動軌跡の保存が開始されます。
  - 位置情報を保存する時間間隔は、設定メニューで変更できます。詳しくは“**ロガー記録時間間隔 (LOGGER INTERVAL)**”（122ページ）を参照してください。

**注意:** 本機に保存されたロガーデータを利用するには、GX6000Jをパソコンに接続して、PCプログラミングソフトウェアを使ってロガーデータをパソコンにダウンロードします。詳しくは“**パソコンとの接続**”（128ページ）を参照してください。



### GPSロガー機能使用中の注意:

- ログデータ用のメモリーがいっぱいになると、ビープ音が3回鳴り、警告メッセージが表示されます。メモリー内のログデータを消去するまでロガー機能を使うことはできません。
- 何らかの理由でログデータが保存できないときは、ビープ音が3回鳴り、警告メッセージが表示されます。GPSロガー機能は停止します。
- ログデータ用のメモリーがいっぱいとなったことを知らせる警告メッセージ画面、または設定メニューでログデータを消去することができます。設定メニューの操作について詳しくは“**ログ消去 (LOG ERASE)**”（123ページ）を参照してください。

# DSC (Digital Selective Calling)機能

## DSC機能の概要

DSC (Digital Selective Calling、デジタル選択呼出) は半自動化された無線通信方式で、国際海事機関 (IMO) が国際標準として制定しています。また、DSCは世界海難救助システム (GMDSS) の一部としても制定されています。

DSCにより、乗組員がGPS位置情報 (トランシーバーにGPS受信機が接続されている場合) を含んだ遭難通報を、海岸局および通信範囲内の他の船舶に即座に送信することができます。またDSC対応トランシーバーを装備した他の船舶との間で遭難、緊急、安全、位置情報要求などを送受信できます。

### ● 遭難通報 (DISTRESS ALERT)

GX6000Jは、すべてのDSC対応トランシーバーとの間で遭難通報を送信および受信することができます。GX6000Jの遭難通報には、外部GPS受信機が動作しているとき、自船の緯度と経度の情報が含まれています。

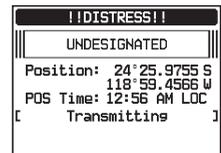
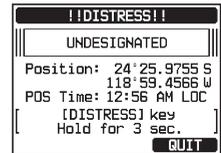
### 遭難通報の送信

#### 注意

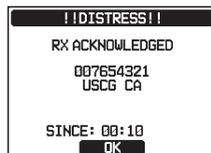
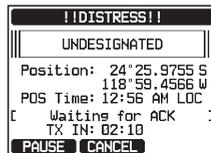
- DSC遭難通報を送信するためには、必ずGX6000JにMMSI番号を登録する必要があります。詳しくは“**MMSI番号の登録**”(23ページ)を参照してください。
- オプションの外部GPSアンテナ**SCU-31**またはNMEA 0183もしくはNMEA 2000で接続された他のGPS受信機から有効な位置情報データを受信する必要があります。詳しくは“**アクセサリケーブルとNMEA 0183入出力ケーブルについて**”(17ページ)を参照してください。

### 基本操作

1. フロントパネルにある赤色のカバーを上げて、[**DISTRESS**]キーを3秒間押し続けると、画面にカウントダウン(3 sec - 2 sec - 1 sec)を表示して、その後、遭難通報を送信します。カウントダウンの間、画面とキーのバックライトが点滅します。



2. 遭難通報を送信すると、遭難通報の応答待ちの画面が表示され、通話チャンネルがチャンネル16に切り替わります。
3. 遭難信号の応答が受信できるまで、約4分前後の間隔で自動的に遭難通報を繰り返し送信します。
4. 遭難通報への応答信号を受信すると、ビーブ音が鳴り、応答した船舶のMMSI番号が表示されます。



5. マイクのPTTスイッチを押しながら、ゆっくり、はっきりと下記の内容を話します。
  - (1) メーデー、メーデー、メーデー
  - (2) こちらは<船名>です。(3回繰り返します)
  - (3) こちらは<コールサインまたは自船のID番号>です。
  - (4) 自船の位置 (緯度/経度)
  - (5) 遭難の状況
  - (6) 要請する救助事項
  - (7) 救助を待つ人数
  - (8) その他、救助の役に立つ情報 (船の大きさ、色、タイプなど)
  - (9) どうぞ

6. PTTスイッチを放して、応答を待ちます。

**注意:** 遭難通報を中止するには、“**遭難通報の取り消し**” (46ページ)を参照して、“**遭難通報の取り消し**”を行ってください。

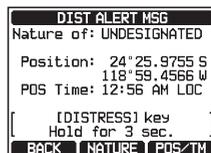
### ● 遭難の種類 (原因) を指定してDSC遭難通報送信する

以下の遭難の種類を指定することができます。

“UNDESIGNATED” (不測の事態)、“FIRE/EXPLOSION” (火災 / 爆発)、“FLOODING” (浸水)、“COLLISION” (衝突)、“GROUNDING” (座礁)、“CAPSIZING” (転覆)、“SINKING” (沈没)、“ADRIFT” (漂流)、“ABANDONING” (破棄)、“PIRACY” (海賊行為)、“MOB” (落水)

1. → “DSC CALL” → “DIST ALERT MSG”

2. [NATURE]ソフトキーを押して、“NATURE OF”メニューを表示させます。



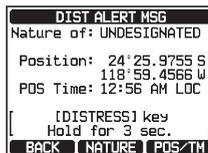
3. DIAL/ENTツマミをまわして、遭難の種類を選択して、[SELECT]ソフトキーを押します。
4. [DISTRESS]キーを3秒以上押して、遭難通報を送信します。

## ● 位置情報と時刻を手動で入力して遭難通報を送信する

なんらかの理由でGX6000JがGPS測位ができない場合に、緯度と経度、および時刻を手動で入力して遭難通報を送信することができます。

1.  ⇒ “DSC CALL” ⇒ “DIST ALERT MSG”

2. [POS/TM]ソフトキーを押します。



3. DIAL/ENTツマミをまわして、緯度の最初に数字を選択し、[SELECT]ソフトキーを押して次の桁に進みます。



4. 手順3を繰り返して、“緯度” (Lat)と“経度” (Lon)、“時刻”を入力します。

もし間違えて入力したときは、DIAL/ENTツマミをまわして、“←”または“→”を選択します。続けて[SELECT]ソフトキーを押して、間違えた数字を選択して手順3に従って正しい数字を入力します。

5. 全て入力したら[FINISH]ソフトキーを押して、設定を保存して前の画面に戻ります。
6. [DISTRESS]キーを3秒以上押して、遭難通報を送信します。

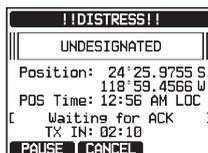
## ● 遭難通報の自動送信を一時的に停止する

遭難通報を送信した後は、遭難通報の応答を受信するか、または遭難通報の取り消しの操作をするか、本機の電源がオフにされるまで、遭難通報の送信を約4分前後の間隔で自動で繰り返します。以下の手順で遭難通報の再送信を一時停止できます。

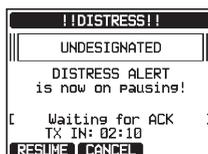
1. 遭難通報を送信した後、画面が右図のような表示になります。

この表示例の“TX IN: 02:10”は、次回の遭難通報を再送するまでの時間（2分10秒後）を表しています。

2. 遭難通報の再送信を一時停止するには、[PAUSE]ソフトキーを押します。



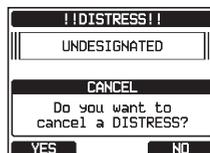
3. 遭難通報を送信するために、カウントダウンを再開するには、[RESUME]ソフトキーを押します。



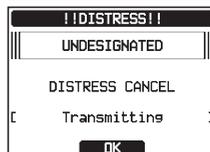
## ● 遭難通報の取り消し

もし、誤って遭難通報を送信してしまったときは、他船からの応答を待っている間に、下記の操作を行って“**遭難通報の取消**”を送信してください。

1. [**CANCEL**]ソフトキーを押してから、[**YES**]ソフトキーを押します。

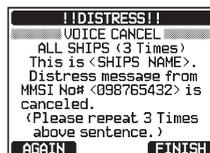


2. 遭難通報キャンセルが送信されたら、[**OK**]ソフトキーを押します。



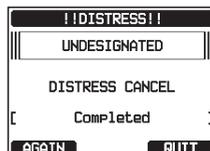
3. マイクの**PTT**スイッチを押しながら、ゆっくり、はっきりと下記の内容を話します。

- (1) 各局、各局、各局
- (2) こちらは<船名>です。(3回繰り返します)
- (3) <MMSI番号>の遭難通報を取り消します。
- (4) (上記(1)から(3)までを3回繰り返します。)
- (5) どうぞ



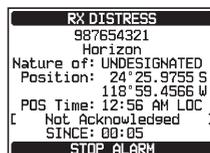
4. [**FINISH**]ソフトキーを押します。

5. [**QUIT**]ソフトキーを押して、通常画面に戻ります。



## 遭難通報の受信

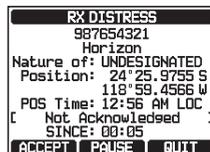
1. 遭難通報を受信すると、緊急を知らせるためにアラーム音が鳴ります。
2. 何かキーを押すとアラーム音が止まります。



3. **DIAL**ノブをまわして、遭難している船舶の情報を表示します。

3つのソフトキーの機能は以下のとおりです。

[**ACCEPT**]: このキーを押して、遭難通報を受け入れて、チャンネル16に切り替えます。



**注意:** [**ACCEPT**]ソフトキーが押されない場合でも、遭難通報を受信して30秒以上経つと、自動でチャンネル16に切り替わります。

切り替え時間はDSC設定メニューの“**自動チャンネル変更 (AUTO CHANNEL CHANGE)**” (114ページ) で変更できます。

[PAUSE]: チャンネル16への自動切り替えを一時的に停止するには、このキーを押します。

[QUIT]: このキーを押すと、通常画面に戻ります。

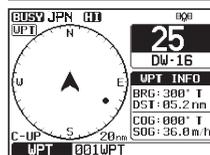
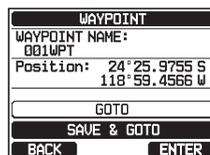
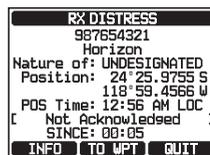
## ● 遭難している船舶の位置にナビゲーションする

1. “遭難通報の受信” (46ページ) の手順3で、遭難通報を受け入れた後に、[TO WPT]ソフトキーを押して、遭難している船舶をウェイポイントとして設定します。

参考: ウェイポイントの名前を変更することもできます。

2. DIAL/ENTツマミをまわして“SAVE&GOTO”を選択して、[SELECT]ソフトキーを押すと、ナビゲーション画面に切り替わり、ウェイポイントへのナビゲーションが開始されます。

遭難した船舶の距離と方位が表示され、コンパス内には船舶の方向が点 (●) で表示されます。



3. ナビゲーションを終了するには、いずれかのソフトキーを押してから、[STOP]ソフトキーを押して通常画面に切り替えます。

### 注意

- 救助のために海岸局が援助を必要とするかもしれないので、チャンネル16を受信し続ける必要があります。
- 未確認の遭難警告があるとき、画面に“☒”アイコンが表示されます。DSCログから未確認の遭難通報を確認することができます。“ログに保存されている受信した遭難通報の確認” (75ページ) を参照してください。

## 全船コール

全船コールは個別のMMSIを指定しなくても、DSC対応トランシーバーを装備している全ての船舶を呼び出すことができます。また、呼び出しの種類を“SAFETY”（安全）または“URGENCY”（緊急）から指定できます。

SAFETYコール:この呼び出しは、船舶安全情報を他の船舶に送信するために使用されます。

URGENCYコール: この呼び出しは、船舶が遭難していないかもしれないが、遭難につながる潜在的な問題がある場合に使用されます。

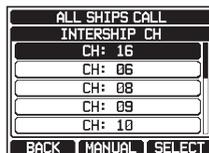
### 全船コールの送信

1. [MENU] ⇒ “DSC CALL” ⇒ “ALL SHIPS CALL”

2. DIAL/ENTツマミをまわして、呼び出しの種類（“SAFETY” または “URGENCY”）を選択し、[SELECT]ソフトキーを押します。



3. DIAL/ENTツマミをまわして通信するチャンネルを選択し、[SELECT]ソフトキーを押します。すべての音声チャンネルからチャンネルを選択するには、[MANUAL]ソフトキーを押します。



4. [YES]ソフトキーを押して、選択した種類の全船コールを送信します。



5. 全船コールが送信された後、手順3で選択されたチャンネルに切り替わります。

6. マイクのPTTスイッチを押しながら、ゆっくり、はっきりと下記の内容を話します。



### 呼び出しの種類が“Safety”（安全）の場合

- (1) “PAN PAN”（パン パン）（3回繰り返します）
- (2) こちらは<船名>です。（3回繰り返します）
- (3) こちらは<コールサインまたは自船のID番号>
- (4) MMSIは<MMSI番号>です。
- (5) どうぞ

## 呼び出しの種類が“Urgency”（緊急）の場合

- (1) “SECURITE”（セキュリテ）（3回繰り返します）
- (2) こちらは<船名>です。（3回繰り返します）
- (3) こちらは<コールサインまたは自船のID番号>
- (4) MMSIは<MMSI番号>です。
- (5) （安全通報の内容を通報します。）
- (6) どうぞ

7. [QUIT]ソフトキーを押して、全船コールメニューを終了します。



## 全船コールの受信

1. “全船コール”を受信すると、アラーム音が鳴ります。  
“全船コール”を送信している船舶のMMSI番号が画面に表示され、30秒後に自動で指定されたチャンネルに変更されます。
2. なにかキーを押すとアラーム音が停止します。
3. すべての船舶の通信が完了するまで、指定されたチャンネルを受信します。



画面に3つのソフトキーの選択が表示されます。これらの機能については以下で説明します。

[ACCEPT]キー: このキーを押すと、全船コールを受け付け、要求されたチャンネルに切り替わります。

**参考:** [ACCEPT]ソフトキーが押されない場合でも30秒以上経つと、自動で指定されたチャンネルに変更されます。切り替え時間はDSC設定メニューの“自動チャンネル変更 (AUTO CHANNEL CHANGE)” (114ページ) で変更できます。

[PAUSE]キー: このキーを押すと、指定されたチャンネルへの自動切り替えが一時的に無効になります。

**参考:** 場合によっては、要求されたチャンネルに自動的に切り替わると、通話中の重要な通信が中断される場合があります。この機能により、チャンネル切り替えを一時停止して、現在のチャンネルで通信を続けることができます。

[QUIT]キー: このキーを押すと、自動チャンネル切り替えが終了し、最後に選択していたチャンネルに戻ります。



4. [QUIT]ソフトキーを押して、通常の画面に戻ります。



### 注意

未確認の全船コールがあると、画面に“☐”アイコンが表示されます。DSCログから未確認の全船呼び出しを確認することができます。“ログに記録されている他の呼び出し(コール)の確認”(75ページ)を参照してください。

## 個別コール

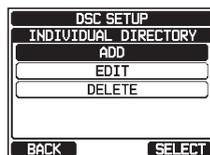
GX6000JはDSC対応トランシーバーを搭載している他の船舶を呼び出して、受信したトランシーバーを指定の通信チャンネルに自動で切り替えることができます。この機能は、チャンネル16で船舶を呼び出して、別のチャンネルに移動することを要求することに似ています。

### 個別アドレス帳の登録

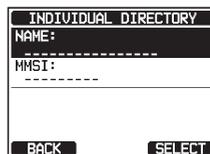
個別アドレス帳には、個別コールおよびポーリング、位置情報通知、自動ポジションポーリング、位置情報要求などを使って、連絡する船舶または個人の名前および関連するMMSI番号を最大100件まで保存することができます。個々の通話を送信するには、相手の情報を個別アドレス帳(INDIVIDUAL DIRECTORY)に登録する必要があります。

1. [MENU] ⇒ “SETUP” ⇒ “DSC SETUP” ⇒ “INDIVIDUAL DIRECTORY”

2. DIAL/ENTツマミをまわして“ADD”を選択して、[SELECT]ソフトキーを押します。



3. DIAL/ENTツマミをまわして“NAME:”を選択して、[SELECT]ソフトキーを押します。

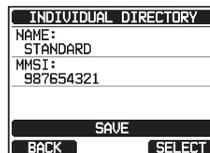


4. DIAL/ENTツマミをまわして、船舶または個人の名前の最初の文字を選択します。

5. [SELECT]ソフトキーを押して、文字を確定して、カーソルを次の文字に移動します。



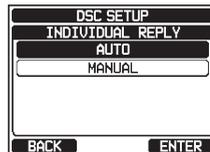
6. 入力が完了するまで、手順4と5を繰り返します。名前は最大15文字まで入力できます。
7. もし間違えて入力した場合は、**DIAL/ENT**ツマミをまわして“←”または“→”を選んでから、**[SELECT]**ソフトキーを何度か押して間違った文字を選択して、手順4と5で正しい文字を入力します。
8. 名前の入力が終わったら、**[FINISH]**ソフトキーを押してMMSI番号の入力に進みます。
9. **DIAL/ENT**ツマミをまわして“**MMSI:**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。
10. **DIAL/ENT**ツマミをまわして数字を選択します。**[SELECT]**ソフトキーを押して1つ右に移動します。同じ手順で9桁のMMSI番号をすべて入力します。  
もし間違えて入力した場合は、**DIAL/ENT**ツマミをまわして“←”または“→”を選んでから、**[SELECT]**ソフトキーを何度か押して間違った数字を選択して、正しい数字を入力します。
11. MMSI番号をすべて入力したら、**[FINISH]**ソフトキーを押します。
12. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**SAVE**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押して設定を保存します。
13. 続けて他の船舶や個人を入力するには、手順2～12を繰り返します。
14. **[CLEAR]**キーを押して、通常画面に戻ります。



### 個別コール返答の設定

このメニュー項目では、個別コールを受信したときに、自動または手動（工場出荷時設定）で返答して、音声通信のためのチャンネルに切り替えるように設定できます。“**MANUAL**”を選択すると、呼び出してきた船舶のMMSI番号が表示され、誰が呼び出しているかを確認してから返答することができます。

1. **[MENU]** ⇒ “**SETUP**” ⇒ “**DSC SETUP**” ⇒ “**INDIVIDUAL REPLY**”
2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**AUTO**”または“**MANUAL**”を選択します。
3. **[ENTER]**ソフトキーを押して、設定を保存します。
4. **[CLEAR]**キーを押して、通常画面に戻ります。

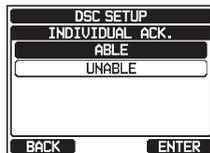


### 個別コールの確認応答内容の設定

上記の“個別コール返答の設定”が“**AUTO**”に設定されている場合、自動で送信する確認応答を“**ABLE**”（応答可）または無効“**UNABLE**”（応答不可）から設定できます。工場出荷時設定は“**ABLE**”です。

1. **[MENU]** ⇒ “**SETUP**” ⇒ “**DSC SETUP**” ⇒ “**INDIVIDUAL ACK.**”

2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして“**ABLE**”または“**UNABLE**”を選択します。
3. [**ENTER**]ソフトキーを押して、設定を保存します。
4. [**CLEAR**]キーを押して、通常画面に戻ります。



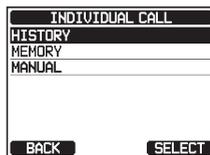
## 個別コールの送信

DSC対応トランシーバーを搭載した他の船舶を呼び出すことができます。

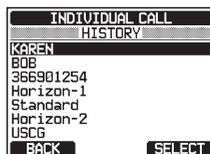
### ● 個別アドレス帳を使用して個別コールを送信する

1. [**MENU**] → “**DSC CALL**” → “**INDIVIDUAL CALL**”

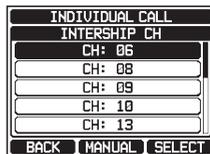
2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**HISTORY**”または“**MEMORY**”を選択し、[**SELECT**]ソフトキーを押します。



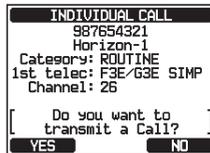
3. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、通信する個別の相手を選択して、[**SELECT**]ソフトキーを押します。



4. **DIAL/ENT**ツマミをまわして通信するチャンネルを選択し、[**SELECT**]ソフトキーを押します。すべての音声チャンネルから選択するには、[**MANUAL**]ソフトキーを押してから選択します。



5. 個別コールを送信するには[**YES**]ソフトキーを押します。



6. 個別コールの確認応答を受信すると、上記の手順4で選択したチャンネルに自動的に変更されて、呼び出し音が鳴ります。



7. [**QUIT**]ソフトキーを押して、受信してチャンネルが使用中でないことを確認してから、**PTT**スイッチを押しながらマイクに向かって話して、他の船舶と通信します。

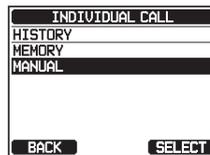


## ● MMSI番号を手動で入力して個別コールを送信する

個別アドレス帳を使わずに、MMSI番号を手動で入力して、個別コールを送信することができます。

1.  ⇒ “DSC CALL” ⇒ “INDIVIDUAL CALL”

2. **DIAL/ENT**つまみをまわして、“**MANUAL**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。



3. **DIAL/ENT**つまみをまわしてMMSI番号の1桁目の数字を選択し、**[SELECT]**ソフトキーを押して、次の桁に移動します。

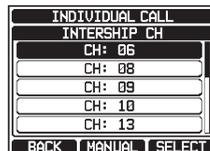
4. 手順3を繰り返して9桁のMMSI番号をすべて入力します。



もし間違えて入力した場合は、**DIAL/ENT**つまみをまわして“←”または“→”を選んでから、**[SELECT]**ソフトキーを何度か押して間違った文字を選択して、手順3で正しい数字を入力します。

5. MMSI番号をすべて入力したら、**[FINISH]**ソフトキーを押します。

6. **DIAL/ENT**つまみをまわして通信するチャンネルを選択し、**[SELECT]**ソフトキーを押します。すべての音声チャンネルから選択するには、**[MANUAL]**ソフトキーを押してから選択します。



7. **[YES]**ソフトキーを押して個別コールを送信します。



8. 個別コールの確認応答を受信すると、上記の手順6で選択したチャンネルに自動的に変更されて、呼び出し音が鳴ります。



9. **[QUIT]**ソフトキーを押して、受信してチャンネルが使用中でないことを確認してから、**PTT**スイッチを押しながらマイクに向かって話して、他の船舶と通信します。

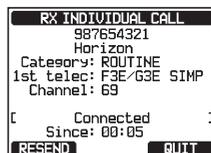
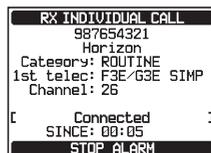


## 個別コールの受信

個別呼び出しを受信すると、トランシーバーは呼び出した船に自動（工場出荷時設定）で応答して、音声通信のために指定されたチャンネルに切り替わります。個別コールに応答する前に呼び出してきた相手を確認するには、「個別コール返答の設定」（51 ページ）を参照して“**MANUAL**” に設定します。

### 自動応答（“AUTO” に設定されている場合）：

1. 個別コールを受信すると、ベル音が鳴ります。  
呼び出してきた船舶のMMSI番号が画面に表示され、30秒後に自動で指定されたチャンネルに変更されます。
2. なにかキーを押すとアラームが停止します。
3. 相手の通話が終わるまで、要求されたチャンネルを受信します。PTTスイッチを押しながら、マイクに向かって話して、個別コールを開始した船と通信します。
4. [QUIT]キーを押して、通常画面に戻ります。



### 手動応答（“MANUAL” に設定されている場合）：

1. 個別コールを受信すると、アラーム音が鳴り、呼び出してきた船舶のMMSI番号が画面に表示されます。
2. なにかキーを押すとアラームが停止します。



3. 画面に3つのソフトキーの選択が表示されます。これらの機能については以下で説明します。

[ACCEPT]キー： このキーを押すと、全船コールを受け付け、指定されたチャンネルに切り替わります。

[PAUSE]キー： このキーを押すと、指定されたチャンネルへの自動切り替えが一時的に無効になります。

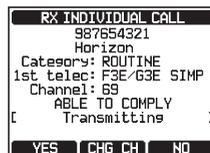
**参考：** 場合によっては、指定されたチャンネルに自動的に切り替わると、通話中の重要な通信が中断される場合があります。この機能により、チャンネル切り替えを一時停止して、現在のチャンネルで通信を続けることができます。

[QUIT]キー： このキーを押すと、自動チャンネル切り替えが終了し、最後に選択していたチャンネルに戻ります。

**参考：** 30秒以上なにもキーを押さないと、トランシーバーは自動的に通常画面にもどります。



- 個別コールを受け入れたら、[ABLE]ソフトキーを押して、指定されたチャンネルに切り替えます。（応答できないことを船舶に知らせるには、[UNABLE]ソフトキーを押します）。
- [YES]ソフトキーを押して確認応答を送信します。通信チャンネルを変更する場合は[CHG CH]ソフトキーを押して、チャンネルを選択します。
- 相手局からの通信が終わるまで、要求または指定されたチャンネルを受信します。  
PTTスイッチを押しながら、マイクに向かって話して、個別コールを開始した船と通信します。
- [QUIT]キーを押して、通常画面に戻ります。



### 注意

未確認の個別コールがあると、画面に“☒”アイコンが表示されます。DSCログから未確認の個別呼び出しを確認することができます。“ログに保存されている受信した遭難通報の確認”（75ページ）を参照してください。

### 個別コールのベル音を設定する

個別コールを受信すると、工場出荷時設定ではベル音が2分間鳴ります。この設定項目でベル音が鳴る時間を設定できます。

- [MENU] ⇒ “SETUP” ⇒ “DSC SETUP” ⇒ “INDIVIDUAL RING”

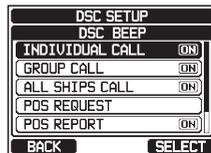
- DIAL/ENTツマミをまわして、個別コールのベル音が鳴る時間を選択します。
- [ENTER]ソフトキーを押して、設定を保存します。
- [CLEAR]キーを押して、通常画面に戻ります。



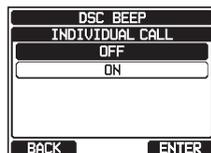
### ● 個別コールのベル音を鳴らないように設定する

- [MENU] ⇒ “SETUP” ⇒ “DSC SETUP” ⇒ “DSC BEEP”

2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**INDIVIDUAL CALL**”を選択して、[**SELECT**]ソフトキーを押します。



3. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**OFF**”を選択します。
4. [**ENTER**]ソフトキーを押して、設定を保存します。
5. [**CLEAR**]キーを押して、通常画面に戻ります。



呼び出し音を再び有効にするには、上記の手順3で“**ON**”を選択します。

## グループコール

グループ通話機能を備えたDSC対応トランシーバーを搭載している船舶のグループを呼び出して、音声通信のための指定チャンネルに自動的に切り替えることができます。この機能は、ヨットクラブや一緒に移動する船舶が、あらかじめ決めたチャンネルで一斉に連絡をしたい場合に大変便利です。最大32のグループMMSI番号を登録することができます。

### グループコールを設定する

この機能を使用するには、この機能を使用する船舶グループ内のすべてのDSC VHFトランシーバーに同じグループMMSIをプログラムする必要があります。

船舶MMSI：船舶MMSIのMID (Mobile Identity Group) と呼ばれる最初の3桁は、船舶MMSIが登録されている国を示します。最後の6桁は船舶に固有のIDです。

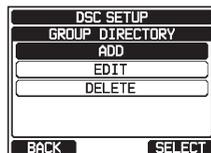
船舶MMSIの例：MMSIが「100123456」の場合、「100」は国を意味するMIDであり、「123456」は船舶MMSIです。

### グループMMSI番号：

- グループMMSI番号の最初の桁は、国際ルールによって常に「0」に設定されています。GX6000JはグループMMSI番号を入力するときは、あらかじめ最初の桁が“0”に設定されています。
- グループのすべてのトランシーバーに同じグループMMSI番号を登録する必要があります。他のグループの船舶が同じグループMMSI番号を使っている場合は、グループMMSI番号を変更してください。

1. [**MENU**] ⇨ “**SETUP**” ⇨ “**DSC SETUP**” ⇨ “**GROUP DIRECTORY**”

2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**ADD**”を選択して、[**SELECT**]ソフトキーを押します。



3. **DIAL/ENT** ツマミをまわして “**GROUP NAME:**” を選択して、**[SELECT]** ソフトキーを押します。

GROUP DIRECTORY  
GROUP NAME:  
-----  
MMSI:  
0-----  
SAVE  
BACK SELECT

4. **DIAL/ENT** ツマミをまわして、グループアドレス帳に登録するグループ名の最初の文字を選択します。
5. **[SELECT]** ソフトキーを押して、文字を確定して、カーソルを次の文字に移動します。

GROUP DIRECTORY  
GROUP NAME  
S-----  
ABCDEFGHIJKLMNO  
PQRSTUVWXYZ\*/\*-  
1234567890:;&.\*  
[ ] a ← → Delete  
BACK FINISH SELECT

6. 入力が完了するまで、手順4と5を繰り返します。グループ名は最大15文字まで入力できます。
7. もし間違えて入力した場合は、**DIAL/ENT** ツマミをまわして “←” または “→” を選んでから、**[SELECT]** ソフトキーを何度か押して間違った文字を選択して、手順4と5で正しい文字を入力します。
8. 名前の入力が終わったら、**[FINISH]** ソフトキーを押してグループMMSI番号の入力に進みます。
9. **DIAL/ENT** ツマミをまわして “**MMSI:**” を選択して、**[SELECT]** ソフトキーを押します。

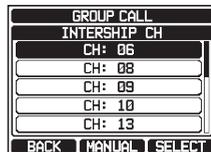
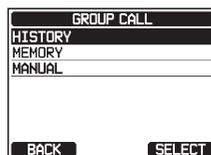
GROUP DIRECTORY  
GROUP NAME:  
STANDARD  
MMSI:  
087654321  
SAVE  
BACK SELECT

10. **DIAL/ENT** ツマミをまわしてMMSIの2桁目の数字を選択して（1桁目は“0”に設定されていて変更できません）、**[SELECT]** ソフトキーを押して次の桁に移動します。
11. 手順10を繰り返して同じ手順で9桁のMMSI番号をすべて入力します。もし間違えて入力した場合は、**DIAL/ENT** ツマミをまわして “←” または “→” を選んでから、**[SELECT]** ソフトキーを何度か押して間違った数字を選択して、手順10で正しい数字を入力します。
12. MMSI番号をすべて入力したら、**[FINISH]** ソフトキーを押します。
13. **DIAL/ENT** ツマミをまわして、“**SAVE**” を選択して、**[SELECT]** ソフトキーを押して設定を保存します。
14. 続けて他のグループMMSI番号を入力するには、手順2～13を繰り返します。
15. **[CLEAR]** キーを押して、通常画面に戻ります。

## グループコールを送信する

### ● グループアドレス帳を使用してグループコールを送信する

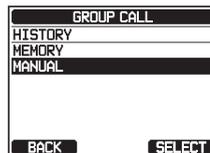
1.  ⇒ “DSC CALL” ⇒ “GROUP CALL”
2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**HISTORY**”または“**MEMORY**”を選択し、**[SELECT]**ソフトキーを押します。
3. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、通信するグループを選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。
4. **DIAL/ENT**ツマミをまわして通信するチャンネルを選択し、**[SELECT]**ソフトキーを押します。すべての音声チャンネルから選択するには、**[MANUAL]**ソフトキーを押してから選択します。
5. グループコールを送信するには**[YES]**ソフトキーを押します。
6. グループコールを送信すると、画面が図のような表示になります。
7. グループコールが送信されると、グループ内のすべてのトランシーバーが指定されたチャンネルに切り替わります。
8. チャンネルを受信して使用中でないことを確認してから、**PTT**スイッチを押しながらマイクに向かって話して、他の船舶と通信します。



## ● グループMMSI番号を手動で入力してグループコールを送信する

グループアドレス帳に保存せずにグループMMSI番号を入力して、グループコールをすることができます。

1.  ⇒ “DSC CALL” ⇒ “GROUP CALL”
2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**MANUAL**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。

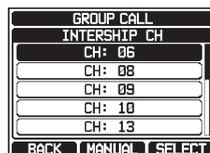


3. **DIAL/ENT**ツマミをまわしてMMSIの2桁目の数字を選択して（1桁目は“0”に設定されていて変更できません）、**[SELECT]**ソフトキーを押して次の桁に移動します。
4. 手順3を繰り返して9桁のMMSI番号をすべて入力します。



- もし間違えて入力した場合は、**DIAL/ENT**ツマミをまわして“←”または“→”を選んでから、**[SELECT]**ソフトキーを何度か押して間違った数字を選択して、手順3で正しい数字を入力します。
5. MMSI番号をすべて入力したら、**[FINISH]**ソフトキーを押します。

6. **DIAL/ENT**ツマミをまわして通信するチャンネルを選択し、**[SELECT]**ソフトキーを押します。すべての音声チャンネルから選択するには、**[MANUAL]**ソフトキーを押してから選択します。



7. グループコールを送信するには**[YES]**ソフトキーを押します。



8. グループコールが送信されると、グループ内のすべてのトランシーバーが指定されたチャンネルに切り替わります。



9. チャンネルを受信して使用中でないことを確認してから、**PTT**スイッチを押しながらマイクに向かって話して、他の船舶と通信します。



## グループコールの受信

1. “グループコール”を受信すると、アラーム音が鳴ります。
2. 画面にグループMMSI番号が表示されます。
3. なにかキーを押すとアラーム音が止まります。
4. 画面に3つのソフトキーの選択が表示されます。これらの機能については以下で説明します。

[ACCEPT]キー：このキーを押すと、グループコールを受け付け、指定されたチャンネルに切り替わります。

[PAUSE]キー：このキーを押すと、指定されたチャンネルへの自動切り替えが一時的に無効になります。

[QUIT]キー：このキーを押すと、自動チャンネル切り替えが終了し、最後に選択していたチャンネルに戻ります。

5. 応答する場合はチャンネルを受信して、使われていないことを確認してから、PTTスイッチを押しながら、マイクに向かって話して、グループ内の船舶と通信します。
6. [QUIT]キーを押して、通常画面に戻ります。

```
RX GROUP CALL
098765432
Horizon-GP
Category: ROUTINE
1st telec: F3E/G3E SIMP
Channel: 26
Caller: 987654321
Horizon
SINCE: 00:05
STOP ALARM
```

```
RX GROUP CALL
098765432
Horizon-GP
Category: ROUTINE
1st telec: F3E/G3E SIMP
Channel: 26
Caller: 987654321
Horizon
SINCE: 00:05
ACCEPT PAUSE QUIT
```

```
RX GROUP CALL
098765432
Horizon-GP
Category: ROUTINE
1st telec: F3E/G3E SIMP
Channel: 26
Caller: 987654321
Horizon
SINCE: 00:05
QUIT
```

### 注意

未確認のグループコールがあると、画面に“☒”アイコンが表示されます。DSCログから未確認のグループ呼び出しを確認することができます。“ログに保存されている受信した遭難通報の確認”（75ページ）を参照してください。

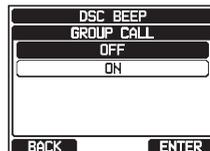
## グループコールのベル音を設定する

グループコールのベル音を鳴らないようにすることができます。

1. [MENU] → “SETUP” → “DSC SETUP” → “DSC BEEP”
2. DIAL/ENTツマミをまわして、“GROUP CALL”を選択して、[SELECT]ソフトキーを押します。

```
DSC SETUP
DSC BEEP
INDIVIDUAL CALL (ON)
GROUP CALL (ON)
ALL SHIPS CALL (ON)
POS REQUEST
POS REPORT (ON)
BACK SELECT
```

3. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**OFF**”を選択します。
4. [**ENTER**]ソフトキーを押して、設定を保存します。
5. [**CLEAR**]キーを押して、通常画面に戻ります。



呼び出し音を再び有効にするには、上記の手順3で“**ON**”を選択します。

## 位置情報要求

他の船舶の位置をGX6000Jの画面に表示することができます。さらに対応したGPSチャートプロッターが接続されている場合にはGPSチャートプロッターの画面にも表示されます。他の船舶の位置を知りたい場合に大変便利な機能です。

### 注意

位置情報要求は、相手の船舶が、動作しているGPS受信機をDSC対応トランシーバーに接続していて、位置情報要求を拒否しないように設定していない場合に有効です。

## 位置情報要求への応答の設定

他船から位置情報要求があったときに、自船の位置を自動または手動で送信するか設定できます。

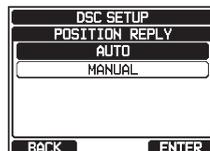
自船の位置情報を自動で知らせたくないときには、“**MANUAL**”（手動）に設定すると、画面に位置情報を要求してきた相手のMMSI番号または個人名が表示され、要求している船舶に位置情報を送信するかどうかを選択することができます。工場出荷時設定は“**AUTO**”になっています。

1. [**MENU**] ⇒ “**SETUP**” ⇒ “**DSC SETUP**” ⇒ “**POSITION REPLY**”

2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**AUTO**”または“**MANUAL**”を選択します。

“**AUTO**”モードでは、位置情報要求を受信したときに、自船の位置を自動で送信します。

“**MANUAL**”モードでは、画面に位置情報要求を送信した船のMMSI番号または名前が表示され、[**YES**]ソフトキーを押すと自船の位置情報を送信します。



3. [**ENTER**]ソフトキーを押して、設定を保存します。
4. [**CLEAR**]キーを押して、通常画面に戻ります。

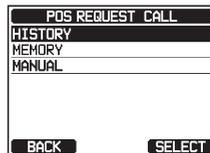
## 他の船舶に位置情報要求を送信する

### ● 個別アドレス帳を使用して位置情報要求を送信する

個別アドレス帳に他の船舶の情報を登録する方法は、“個別アドレス帳の登録” (50ページ) を参照してください。

1.  ⇒ “DSC CALL” ⇒ “POS REQUEST CALL”

2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**HISTORY**” または“**MEMORY**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。



3. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、個別アドレス帳に登録されている船舶名を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。



4. **[YES]**ソフトキーを押して、位置情報要求を送信します。



5. ポーリングした船舶から位置情報を受信すると、画面に表示されます。



6. **[QUIT]**キーを押して、通常画面に戻ります。

### 注意

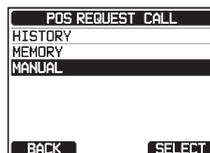
位置情報を要求した船舶から位置情報データを含む応答が受信できなかった場合、画面に“**NO POSITION DATA**”と表示されます。

### ● MMSI番号を手動で入力して位置情報要求を送信する

個別アドレス帳に保存せずにMMSI番号を入力して、位置情報を要求をすることができます。

1.  ⇒ “DSC CALL” ⇒ “POS REQUEST CALL”

2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**MANUAL**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。



3. **DIAL/ENT**ツマミをまわしてMMSI番号の1桁目の数字を選択し、**[SELECT]**ソフトキーを押して、次の桁に移動します。
4. 手順3を繰り返して9桁のMMSI番号をすべて入力します。



もし間違えて入力した場合は、**DIAL/ENT**ツマミをまわして“←”または“→”を選んでから、**[SELECT]**ソフトキーを何度か押して間違った文字を選択して、手順3で正しい数字を入力します。

5. MMSI番号をすべて入力したら、**[FINISH]**ソフトキーを押します。
6. **[YES]**ソフトキーを押して、位置情報要求を送信します。



7. ポーリングした船舶から位置情報を受信すると、画面に表示されます。
8. **[QUIT]**キーを押して、通常画面に戻ります。



### 注意

位置情報を要求した船舶から受信した位置情報は、NMEA 2000またはNMEA 0183のDSCおよびDSEセンテンスに対応するGPSチャートプロッターに転送できます。

### 位置情報要求の受信

1. 他の船舶から位置情報要求を受信すると、呼び出し音が鳴り、表示は図のようになります。
2. なにかキーを押すとアラーム音が止まります。
3. 要求してきた船に自船の位置を送るには、**[REPLY]**ソフトキーを押します。
4. または、位置情報要求の画面を終了するには、**[QUIT]**ソフトキーを押します。
5. **[QUIT]**キーを押して、通常画面に戻ります。



## 注意

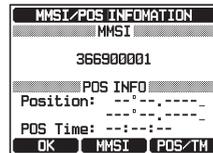
未確認の位置情報要求があると、画面に“☒”アイコンが表示されます。DSC ログから未確認の位置情報要求を確認することができます。“ログに記録されている他の呼び出し（コール）の確認”（75 ページ）を参照してください。

## 位置情報の手動入力

外部GPSアンテナ**SCU-31**が接続されておらず、他のGPS受信機からも位置情報データが入力されない場合に、位置情報と時刻を手動で入力できます。

1.  ⇒ “MMSI/POS INFO”

2. [POS/TM]ソフトキーを押します。



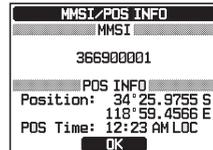
3. **DIAL/ENT**ツマミをまわして緯度(Lat)の最初の数字を選択し、[**SELECT**]ソフトキーを押して、次の桁に移動します。



4. 手順3を繰り返して、位置情報と時刻を設定します。間違えた場合は、**DIAL/ENT**ツマミをまわして“←”または“→”を選び、間違った数字が選択されるまで[**SELECT**]ソフトキーを押してから、手順3で正しい数字を入力します。

5. 位置情報と時刻の入力が終了したら、[**FINISH**]ソフトキーを押して、前の画面に戻ります。

6. [OK]ソフトキーを押します。



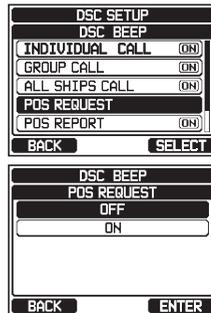
## 位置情報要求を受信したときのベル音を設定する

位置情報要求を受信したときのベル音のオン/オフを設定します。

工場出荷時設定は“OFF”です。

1.  ⇒ “SETUP” ⇒ “DSC SETUP” ⇒ “DSC BEEP”

- DIAL/ENT** ツマミをまわして “**POS REQUEST**” を選択して、[**SELECT**]ソフトキーを押します。
- DIAL/ENT** ツマミをまわして “**ON**” または “**OFF**” を選択します。
- [**ENTER**]ソフトキーを押して、設定を保存します。
- [**CLEAR**]キーを押して、通常画面に戻ります。



## 位置情報送信

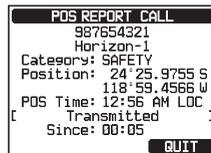
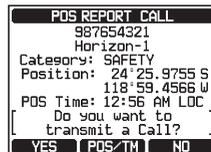
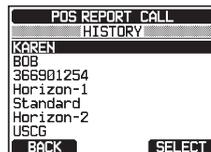
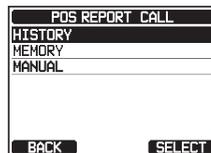
自船の現在位置情報（緯度/経度）を他の船舶または海岸局に送ることができます。

### 位置情報を送信する

#### ● 個別アドレス帳を使用して位置情報を送信する

個別アドレス帳への入力方法は、“個別アドレス帳の登録”（50ページ）を参照してください。

- [**MENU**] ⇒ “**DSC CALL**” ⇒ “**POS REPORT CALL**”
- DIAL/ENT** ツマミをまわして、“**HISTORY**” または “**MEMORY**” を選択して、[**SELECT**]ソフトキーを押します。
- DIAL/ENT** ツマミをまわして、個別アドレス帳に保存されている名前を選択して、[**SELECT**]ソフトキーを押します。
- もし表示された位置情報（緯度/経度/時刻）を変更したいときは、[**POS/TM**]ソフトキーを押して入力画面に移動します。最新の位置情報を入力したら、[**FINISH**]ソフトキーを押して確定します。
- [**YES**]ソフトキーを押して、選択した船舶に位置情報を送信します。
- [**QUIT**]キーを押して、通常画面に戻ります。

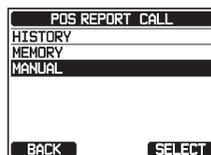


## ● MMSI番号を手動で入力して位置情報を送信する

相手の船舶のMMSI番号を手動で入力して自船の位置情報を送信することができます。

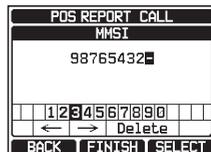
1. [MENU] → “DSC CALL” → “POS REPORT CALL”

2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**MANUAL**”を選択して、[SELECT]ソフトキーを押します。



3. **DIAL/ENT**ツマミをまわしてMMSI番号の1桁目の数字を選択し、[SELECT]ソフトキーを押して、次の桁に移動します。

4. 手順3を繰り返して9桁のMMSI番号をすべて入力します。

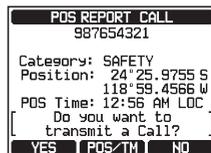


もし間違えて入力した場合は、**DIAL/ENT**ツマミをまわして“←”または“→”を選び、間違った数字が選択されるまで[SELECT]ソフトキーを押してから、手順3で正しい数字を入力します。

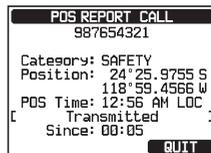
5. MMSI番号をすべて入力したら、[FINISH]ソフトキーを押します。

6. もし表示された位置情報（緯度/経度/時刻）を変更したいときは、[POS/TM]ソフトキーを押して入力画面に移動します。最新の位置情報を入力したら、[FINISH]ソフトキーを押して確定します。

7. [YES]ソフトキーを押して、選択した船舶に位置情報を送信します。



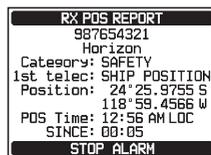
8. [QUIT]キーを押して、通常画面に戻ります。



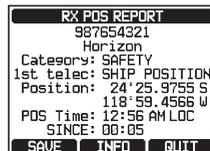
## 位置情報通知の受信

1. 他の船舶からの位置情報通知を受信すると、ベル音が鳴ります。

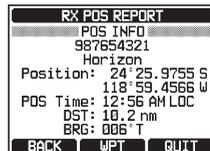
2. なにかキーを押すとベル音が止まります。



3. **[INFO]**ソフトキーを押すと、他の船舶の位置情報の詳細を表示します。



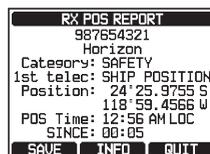
4. **[QUIT]**キーを押して、通常画面に戻ります。



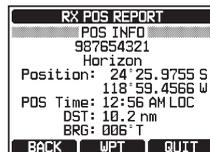
## 受信した位置情報の位置へのナビゲーション

受信した位置情報の位置へナビゲーションします。

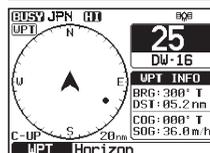
1. 位置情報通知を受信したら、**[INFO]**ソフトキーを押します。



2. **[WPT]**ソフトキーを押します。



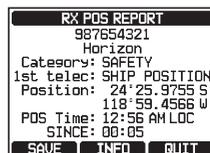
3. 画面には受信した船舶の位置への距離と方位が表示され、コンパスに船舶の方向を点 (●) で表示します。



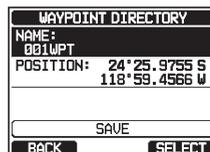
4. ナビゲーションを終了するには、いずれかのソフトキーを押してから、**[STOP]**ソフトキーを押して通常画面に切り替えます。

## 受信した位置情報の位置をウェイポイントとして保存する

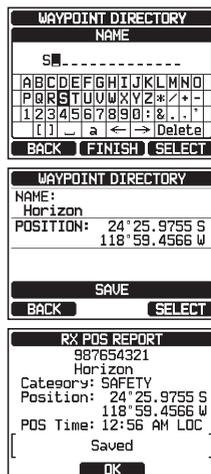
1. 位置情報通知を受信した後、**[SAVE]**ソフトキーを押します。



2. もしウェイポイントの名前を変更したいときは、**DIAL/ENT**ツマミをまわして“**NAME**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。変更しないときは手順4に進みます。



- ウェイポイントの名前を入力します。詳しくは、“個別アドレス帳の登録”（50ページ）を参照してください。
- DIAL/ENT**つまみをまわして、“**SAVE**”を選択し、**[SELECT]**ソフトキーを押してウェイポイントを保存します。
- [OK]**ソフトキーを押して、位置情報通知の画面に戻ります。



### ● 保存したウェイポイントへのナビゲーションする

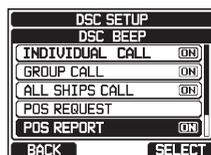
詳しくは“ナビゲーションの開始と停止”（77ページ）を参照してください。

### 位置情報通知を受信したときのベル音を設定する

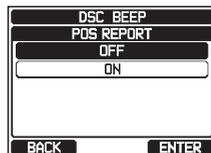
位置情報通知を受信したときのベル音を鳴らさないようにできます。

- [MENU]** ➡ “**SETUP**” ➡ “**DSC SETUP**” ➡ “**DSC BEEP**”

- DIAL/ENT**つまみをまわして“**POS REPORT**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。



- DIAL/ENT**つまみをまわして“**OFF**”を選択します。
- [ENTER]**ソフトキーを押して、設定を保存します。
- [CLEAR]**キーを押して、通常画面に戻ります。



ベル音を再び有効にするには、上記の手順3で“**ON**”を選択します。

## ポーリングコール

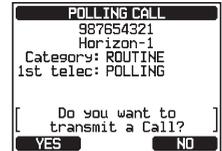
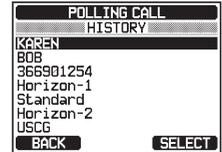
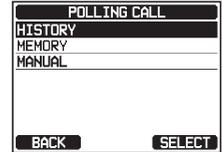
他の船舶を指定して、通信ができることを確認することができます。

### ポーリングコールの送信

#### ● 個別アドレス帳を使用してポーリングコールを送信する

- [MENU]** ➡ “**DSC CALL**” ➡ “**POLLING CALL**”

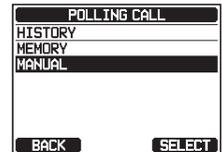
2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**HISTORY**”または“**MEMORY**”を選択して、[**SELECT**]ソフトキーを押します。
3. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、個別アドレス帳に保存されている名前を選択して、[**SELECT**]ソフトキーを押します。
4. [**YES**]ソフトキーを押して、ポーリングコールを送信します。
5. ポーリングコールを送信した後、相手からの応答信号が受信できない場合、画面に“**Waiting for ACK**”と表示されます。これは呼び出した船舶からの、応答信号 (ACK: Acknowledgement) の送信を待っている状態を意味します。
6. もう一度ポーリングコールを送信するには、[**RESEND**]ソフトキーを押します。
7. [**QUIT**]キーを押して、通常画面に戻ります。



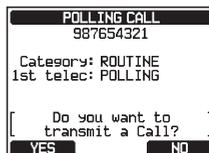
### ● MMSI番号を手動で入力してポーリングコールを送信する

通信ができることを確認したい船舶のMMSI番号を手動で入力して、ポーリングコールを送信することができます。

1. [**MENU**] ⇒ “**DSC CALL**” ⇒ “**POLLING CALL**”
2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**MANUAL**”を選択して、[**SELECT**]ソフトキーを押します。
3. **DIAL/ENT**ツマミをまわしてMMSI番号の1桁目の数字を選択し、[**SELECT**]ソフトキーを押して、次の桁に移動します。
4. 手順3を繰り返して9桁のMMSI番号をすべて入力します。  
もし間違えて入力した場合は、**DIAL/ENT**ツマミをまわして“←”または“→”を選んでから、[**SELECT**]ソフトキーを何度か押して間違った文字を選択して、手順3で正しい数字を入力します。



- MMSI番号をすべて入力したら、[FINISH]ソフトキーを押します。
- [YES]ソフトキーを押して、ポーリングコールを送信します。



- [QUIT]キーを押して、通常画面に戻ります。



## ポーリングコールの受信

- ポーリングコールを受信すると、自動で相手の船舶に応答を送信します。
- [QUIT]キーを押して、通常画面に戻ります。

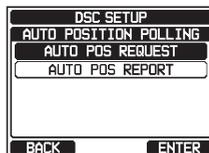


## 自動ポジションポーリング

個別アドレス帳から最大7隻の船舶を選択して、それらの船舶に位置情報要求を定期的に送信、または自船の位置情報を定期的に送信します。

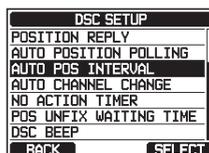
### 自動ポジションポーリングの設定

- [MENU] ⇒ “SETUP” ⇒ “DSC SETUP” ⇒ “AUTO POSITION POLLING”
- DIAL/ENTツマミをまわして希望する動作を“**AUTO POS REQUEST**”（自動位置情報要求、工場出荷時設定）または“**AUTO POS REPORT**”（自動位置通知）から選択して、[SELECT]ソフトキーを押します。
- [CLEAR]キーを押して、通常画面に戻ります。

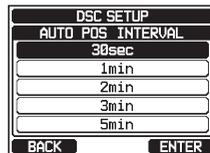


### 自動ポジションポーリング送信間隔の設定

- [MENU] ⇒ “SETUP” ⇒ “DSC SETUP” ⇒ “AUTO POS INTERVAL”
- DIAL/ENTツマミをまわして、“**AUTO POS INTERVAL**”を選択して、[SELECT]ソフトキーを押します。



- DIAL/ENT**ツマミをまわして、希望の時間間隔 (30sec (30秒) /1min (1分) /2min (2分) /3min (3分) /5min (5分) )を選択して、**[ENTER]**ソフトキーを押します。
- [CLEAR]**キーを押して、通常画面に戻ります。



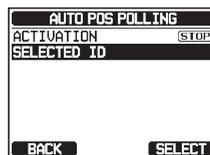
## 自動ポジションポーリングする船舶の指定

### 注意

- “自動ポジションポーリングの設定”で設定した動作 (“AUTO POS REQUEST” または “AUTO POS REPORT”) ごとに、それぞれ船舶を設定できますので、あらかじめ動作の設定をした後に、この設定で船舶を指定してください。
- 自動ポジションポーリングする船舶を個別アドレス帳から選択しますので、“個別アドレス帳の登録” (50ページ) を参照して、あらかじめ船舶のMMSI番号を個別アドレス帳に登録してください。

- [MENU]** ⇒ “DSC CALL” ⇒ “AUTO POS POLLING”

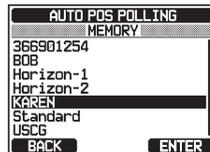
- DIAL/ENT**ツマミをまわして、“SELECTED ID”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。



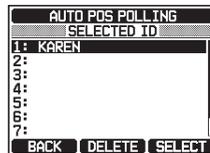
- DIAL/ENT**ツマミをまわして、登録したい番号の行を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。



- 個別アドレス帳に登録された船舶名が表示されます。**DIAL/ENT**ツマミをまわして、希望する船舶名を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。



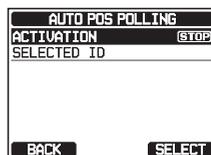
- さらに選択する場合は、**DIAL/ENT**ツマミをまわして空いている行を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押してから、手順4に従って操作します。
- 選択が終わったら、**[CLEAR]**キーを押して、通常画面に戻ります。



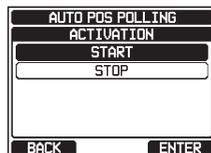
## 自動ポジションポーリングの開始/停止

1. [MENU] ⇒ “DSC CALL” ⇒ “AUTO POS POLLING”

2. DIAL/ENTツマミをまわして、“ACTIVATION”を選択して、[SELECT]ソフトキーを押します。



3. DIAL/ENTツマミをまわして、自動ポジションポーリングの“START”（開始）または“STOP”（停止）を選択してから、[ENTER]ソフトキーを押します。



4. [CLEAR]キーを押して、通常画面に戻ります。自動ポジションポーリングが有効となっている間は、画面の上部に“A”アイコンが表示されます。



## DSCテストコール

DSCトランシーバーを装備している他の船舶と通信して、トランシーバーのDSC機能が動作していることを確認できます。

### 注意

このテストを行うには、DSCテストコールを受信するトランシーバーにもDSCテスト機能が必要です。

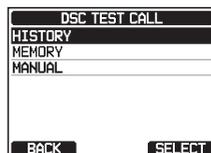
## 他の船舶へDSCテストコールを送信する

### ● 個別アドレス帳を使用してDSCテストコールを送信する

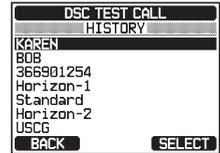
個別アドレス帳への入力方法は、“個別アドレス帳の登録”（50ページ）を参照してください。

1. [MENU] ⇒ “DSC CALL” ⇒ “DSC TEST CALL”

2. DIAL/ENTツマミをまわして、“HISTORY”または“MEMORY”を選択して、[SELECT]ソフトキーを押します。



3. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、個別アドレス帳に登録されている船舶名を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。



4. **[YES]**ソフトキーを押して、DSCテストコールを送信します。



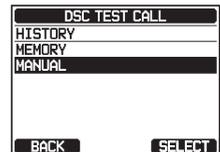
5. **[QUIT]**キーを押して、通常画面に戻ります。



● **MMSI番号を手動で入力してDSCテストコールを送信する**

1. **[MENU]** ⇒ “DSC CALL” ⇒ “DSC TEST CALL” ⇒ “MANUAL”

2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“MANUAL”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。



3. **DIAL/ENT**ツマミをまわしてMMSI番号の1桁目の数字を選択し、**[SELECT]**ソフトキーを押して、次の桁に移動します。

4. 手順3を繰り返して9桁のMMSI番号をすべて入力します。



もし間違えて入力した場合は、**DIAL/ENT**ツマミをまわして“←”または“→”を選び、間違った数字が選択されるまで**[SELECT]**ソフトキーを押してから、手順3で正しい数字を入力します。

5. **[FINISH]**ソフトキーを押して、テストコール画面を表示します。

6. **[YES]**ソフトキーを押して、DSCテストコールを送信します。



7. [QUIT]キーを押して、通常画面に戻ります。



### 参考

呼び出した船舶からのテストコールの応答を受信すると、ベル音が鳴って、画面に“RX TEST CALL”と表示され、呼び出した船舶のトランシーバーがテストコールを受信したことを確認できます。

## DSCテストコールの受信

1. DSCテストコールを受信すると、自動で呼び出してきた船舶に応答します。
2. [QUIT]キーを押して、通常画面に戻ります。



## DSCログ (送受信履歴) の操作

送信した呼び出し、受信した遭難通報、その他の呼び出し（個別、グループ、全船などの呼び出し）はDSCログに保存されていますので、後から確認することができます。未確認の呼び出し（コール）がある場合には画面に“☐”アイコンを表示します。

ログ機能は、最大100件の送信を、最新の50件の遭難通報を、最新の100件の他の呼び出し（個別、グループ、全船、ポジションレポート、位置情報要求の応答、テストコールの応答、ポーリングコール）を保存できます。

### 参考

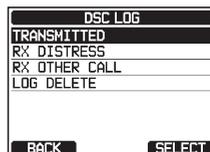
“DSC LOG”メニューを選択すると、自動的に優先度の高いログから順に表示します。

## ログに記録された送信した呼び出し（コール）の確認と再送信

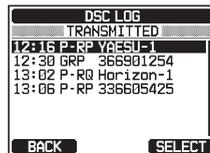
送信されたDSCログを見直し、再送信することができます。

1. [MENU] ➡ “DSC CALL” ➡ “DSC LOG”

2. D I A L / E N T ツマミをまわして、“TRANSMITTED”を選択して、[SELECT]ソフトキーを押します。



- DIAL/ENT**ツマミをまわして、呼び出しを確認または再送信する相手局（名前またはMMSI番号）を選択します。
- 選択した相手局の詳細を確認するには、**[SELECT]**ソフトキーを押します。
- 手順2で選択したDSCログの種類によって、**[INFO]**ソフトキーを押してログの情報を確認することや、**[CALL]**ソフトキーを押して応答することができます。  
この呼び出しを削除するには、**[DELETE]**ソフトキーを押します。



### ログに保存されている受信した遭難通報の確認

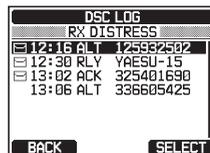
保存されている受信した遭難通報を確認することができます。

- [MENU]** ➡ “DSC CALL” ➡ “DSC LOG” ➡ “RX DISTRESS”

- DIAL/ENT**ツマミをまわして、受信した遭難通報を再確認する相手（名前またはMMSI番号）を選択します。

**注意：**受信した未確認の遭難通報には、リストの左側に“☐”アイコンが表示されます。

- 選択した遭難通報の詳細を確認するには、**[SELECT]**ソフトキーを押します。
- [INFO]**ソフトキーを押して詳細を表示するか、**[BACK]**ソフトキーを押して受信した遭難通報のリスト画面に戻ります。  
この呼び出しを削除するには、**[DELETE]**ソフトキーを押します。



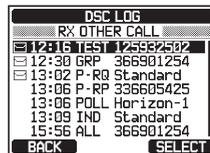
### ログに記録されている他の呼び出し（コール）の確認

- [MENU]** ➡ “DSC CALL” ➡ “DSC LOG” ➡ “RX OTHER CALL”

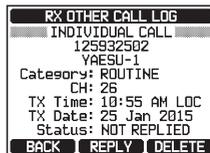
- DIAL/ENT**ツマミをまわして、呼び出しを再確認または呼び出しする相手（名前またはMMSI番号）を選択します。

**注意：**受信した未確認の呼び出しには、リストの左側に“☐”アイコンが表示されます。

- 選択した相手局の詳細を確認するには、**[SELECT]**ソフトキーを押します。



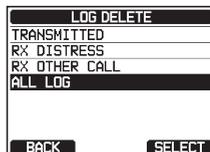
- [REPLY]ソフトキーを押して呼び出しに応答するか、[BACK]ソフトキーを押して、受信した呼び出しリスト画面に戻ります。  
この呼び出しを削除するには、[DELETE]ソフトキーを押します。



## DSCログに保存されている呼び出し（コール）の一括削除

- [MENU] ⇒ “DSC CALL” ⇒ “DSC LOG” ⇒ “LOG DELETE”

- DIAL/ENTツマミをまわして、一括で削除する呼び出しログの種類(“TRANSMITTED” / “RX DISTRESS” / “RX OTHER CALL” / “ALL LOG”)を選択します。
- [SELECT]ソフトキーを押します。  
画面に確認のメッセージ “Do you want to delete the LOG?” が表示されます。
- [YES]ソフトキーを押して削除します。(キャンセルするには[NO]ソフトキーを押します。)
- [CLEAR]キーを押して、通常画面に戻ります。



### 注意

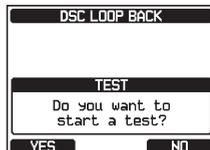
上記の手順では、選択した種類のすべてのログを一括して削除します。ログに記録された呼び出しを1件ずつ削除するには、削除する呼び出しの詳細を確認する画面で、[DELETE]ソフトキーを押します。

## DSCループバック操作

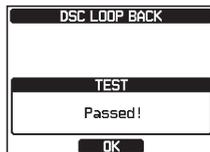
本機の呼び出し（コール）機能をセルフテストすることができます。

- [MENU] ⇒ “DSC CALL” ⇒ “DSC LOOP BACK”

- [YES]ソフトキーを押すとセルフテストが開始されます。(キャンセルするには[NO]ソフトキーを押します。)



- 本機のDSC機能が正常に動作している場合は画面に “Passed!” と表示されます。[OK]ソフトキーを押すと “DSC CALL” メニュー画面に戻ります。
- [CLEAR]キーを押して、通常画面に戻ります。



## ナビゲーション

ナビゲーションに使用できるウェイポイント（地点）を最大250箇所まで登録することができます。

遭難通報の位置や、自動ポジションポーリングを使用して他のDSC対応トランシーバーから受信した地点へナビゲートすることもできます。

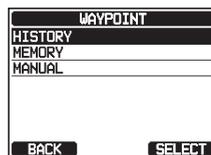
### ウェイポイント操作

#### ナビゲーションの開始と停止

##### ● ウェイポイントメモリーを使用したナビゲーション

1.  ⇒ “NAVI” ⇒ “WAYPOINT”

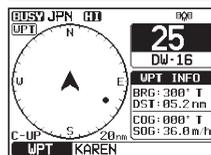
2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**HISTORY**” または“**MEMORY**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。



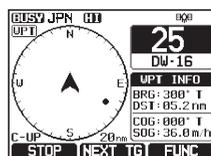
3. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、ウェイポイントを選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押すとナビゲーション画面に切り替わり、ウェイポイントへのナビゲーションが開始されます。



- ウェイポイントへの距離と方位が表示され、コンパス内にはウェイポイントの方向が点（●）で表示されます。
- コンパス内の矢印が点（●）を向くように操船すれば、目的のウェイポイントに到達することができます。



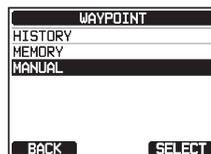
4. ナビゲーションを終了するには、いずれかのソフトキーを押してから、**[STOP]**ソフトキーを押して通常画面に切り替えます。



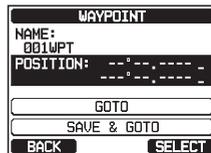
##### ● ウェイポイントを手動で入力してナビゲーションする

1.  ⇒ “NAVI” ⇒ “WAYPOINT”

2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**MANUAL**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。

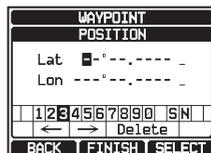


3. ウェイポイントに名前をつける場合には、**DIAL/ENT**ツマミをまわして“**NAME:**”を選択し、**[SELECT]**ソフトキーを押して名前を入力します。詳しくは、“個別アドレス帳の登録”(50ページ)を参照してください。



4. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**POSITION:**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。

5. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、緯度(Lat)の最初の数字を選択し、**[SELECT]**ソフトキーを押して次の桁に進みます。

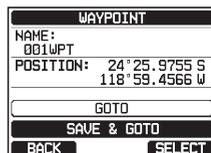


6. 手順3を繰り返して、“**緯度**”(Lat)と“**経度**”(Lon)を入力します。

もし間違えて入力したときは、**DIAL/ENT**ツマミをまわして、“←”または“→”を選択します。続けて**[SELECT]**ソフトキーを押して、間違えた数字を選択して手順5で正しい数字を入力します。

7. 全て入力したら**[FINISH]**ソフトキーを押すと、設定を保存して前の画面に戻ります。

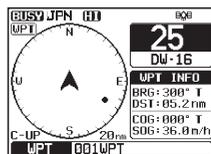
8. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**SAVE&GOTO**”を選択し、**[SELECT]**ソフトキーを押すとウェイポイントを保存します。



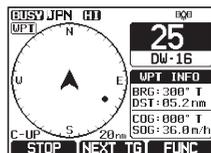
- ウェイポイントとして保存せずに、一時的な目的地として設定する場合には“**GOTO**”を選択して**[SELECT]**ソフトキーを押します。

- ナビゲーション画面が表示されナビゲーションを開始します。

- 目的地への距離と方位が表示され、コンパス内にはウェイポイントの方向が点(●)で表示されます。



9. ナビゲーションを終了するには、いずれかのソフトキーを押してから、**[STOP]**ソフトキーを押して通常画面に切り替えます。



## ウェイポイントメモリーの操作

### ● 現在位置をウェイポイントとして保存する

自船の現在位置をウェイポイントとして保存できます。

1. **[MENU]** ⇒ “**SETUP**” ⇒ “**WAYPOINT SETUP**” ⇒ “**MARK POSITION**”

2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして“**NAME:**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。
3. **DIAL/ENT**ツマミをまわしてウェイポイントの名前を入力して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。名前を入力（最大15文字）が終わったら**[FINISH]**ソフトキーを押します。
4. もし表示された位置情報（緯度/経度）を変更したいときは、**DIAL/ENT**ツマミをまわして“**POSITION:**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押して変更します。すべて入力が終わったら、**[FINISH]**ソフトキーを押して確定します。
5. **DIAL/ENT**ツマミをまわして“**SAVE**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押してウェイポイントを保存します。
6. **[CLEAR]**キーを押して、通常画面に戻ります。

MARK POSITION	
NAME:	
001MARK	
POSITION:	-----
	-----
SAVE	
BACK	SELECT

MARK POSITION	
NAME:	
001MARK	
POSITION:	24°25.9757 N
	118°59.4564 E
SAVE	
BACK	SELECT

### ● ウェイポイントを追加する

1. **[MENU]** ⇒ “**SETUP**” ⇒ “**WAYPOINT SETUP**” ⇒ “**WAYPOINT DIRECTORY**”
2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして“**ADD**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。
3. **DIAL/ENT**ツマミをまわして“**NAME:**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。
4. **DIAL/ENT**ツマミをまわしてウェイポイントの名前を入力して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。名前を入力（最大15文字）が終わったら**[FINISH]**ソフトキーを押します。
5. **DIAL/ENT**ツマミをまわして“**POSITION:**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押して、位置情報（緯度/経度）を入力します。すべて入力が終わったら、**[FINISH]**ソフトキーを押して確定します。
6. **DIAL/ENT**ツマミをまわして“**SAVE**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押してウェイポイントを保存します。
7. **[CLEAR]**キーを押して、通常画面に戻ります。

WAYPOINT SETUP	
WAYPOINT DIRECTORY	
ADD	
EDIT	
DELETE	
BACK	
SELECT	

WAYPOINT DIRECTORY	
NAME:	
001WPT	
POSITION:	-----
	-----
SAVE	
BACK	SELECT

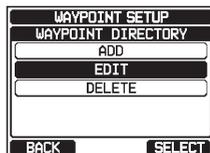
WAYPOINT DIRECTORY	
NAME:	
STANDARD	
POSITION:	34°25.9755 S
	118°59.4566 E
SAVE	
BACK	SELECT

## ● ウェイポイントの編集

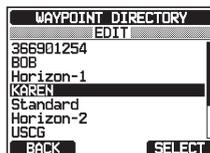
登録されているウェイポイントを編集します。

1.  ⇒ “SETUP” ⇒ “WAYPOINT SETUP” ⇒ “WAYPOINT DIRECTORY”

2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして“**EDIT**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。



3. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、編集するウェイポイントを選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押すと編集画面が表示されます。

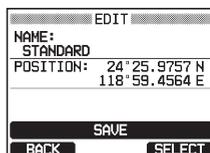


4. **DIAL/ENT**ツマミをまわして“**NAME:**”または“**POSITION:**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。

5. **DIAL/ENT**ツマミをまわして“←”または“→”を選択して、変更する文字が選択されるまで、**[SELECT]**ソフトキーを押して文字を編集します。

6. 手順5を繰り返してウェイポイントを編集します。すべて編集が終わったら、**[FINISH]**ソフトキーを押します。

7. **DIAL/ENT**ツマミをまわして“**SAVE**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押して、ウェイポイントを保存します。



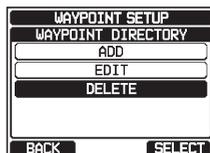
8. **[CLEAR]**キーを押して、通常画面に戻ります。

## ● ウェイポイントを削除する

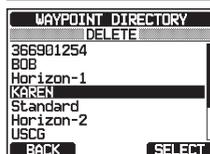
登録されているウェイポイントを削除します。

1.  ⇒ “SETUP” ⇒ “WAYPOINT SETUP” ⇒ “WAYPOINT DIRECTORY”

2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして“**DELETE**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。



3. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、削除するウェイポイントを選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。



- 削除するウェイポイントを確認して、**DIAL/ENT** ツマミをまわして“**OK**”を選択し、**[SELECT]** ソフトキーを押します。
- [CLEAR]**キーを押して、通常画面に戻ります。

DELETE	
NAME:	KAREN
POSITION:	24°25.9757 N 118°59.4564 E
CANCEL	
OK	
BACK	SELECT

### ● 受信した位置情報通知をウェイポイントとして保存する

他のDSC対応トランシーバーからの位置情報通知を受信すると、その位置をウェイポイントとして保存できます。

詳しくは“**受信した位置情報の位置をウェイポイントとして保存する**”（67ページ）を参照してください。

### 表示半径の設定

コンパス画面の表示半径を設定できます。

- [MENU]** → “**SETUP**” → “**WAYPOINT SETUP**” → “**DISPLAY RANGE**”

- DIAL/ENT**ツマミをまわして希望する表示範囲を選択します。

単位はGPS設定メニューで変更できます。“**表示単位 (UNITS OF MEASURE)**”（118ページ）参照してください。

WAYPOINT SETUP	
DISPLAY RANGE	
AUTO	
0.25nm	
0.50nm	
0.75nm	
1.50nm	
BACK	ENTER

- [ENTER]**ソフトキーを押して、設定を保存します。
- [CLEAR]**キーを押して、通常画面に戻ります。

### 到着範囲の設定

ウェイポイントの到着範囲としてピープ音を鳴らす距離を設定できます。

- [MENU]** → “**SETUP**” → “**WAYPOINT SETUP**” → “**ARRIVAL RANGE**”

- DIAL/ENT**ツマミをまわして、希望する到着範囲を選択します。

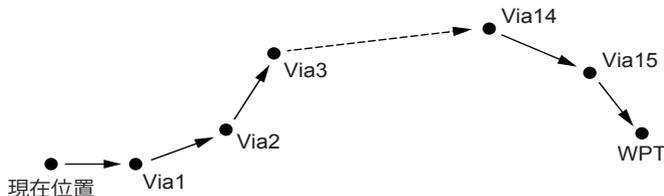
単位はGPS設定メニューで変更できます。“**表示単位 (UNITS OF MEASURE)**”（118ページ）

WAYPOINT SETUP	
ARRIVAL RANGE	
0.05nm	
0.1nm	
0.2nm	
0.5nm	
1nm	
BACK	ENTER

- [ENTER]**ソフトキーを押して、設定を保存します。
- [CLEAR]**キーを押して、通常画面に戻ります。

## ルート設定の操作

ルートに沿って経由する1～15のウェイポイントを設定できます。



### ウェイポイントへのルート

## ルートメモリーの操作

### 注意

すべての経由地点(Via 1～Via 15)と目的地点(WPT)をウェイポイントとして登録する必要があります。詳しくは“**ウェイポイントメモリーの操作**”(78ページ)を参照してください。

### ● ルートの追加

1. **[MENU]** ⇒ “**SETUP**” ⇒ “**WAYPOINT SETUP**” ⇒ “**ROUTE DIRECTORY**”
2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして“**ADD**”を選択して**[SELECT]**ソフトキーを押します。

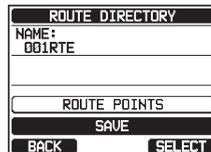
WAYPOINT SETUP	
ROUTE DIRECTORY	
ADD	
EDIT	
DELETE	
BACK	SELECT
3. **DIAL/ENT**ツマミをまわして“**NAME:**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。
4. **DIAL/ENT**ツマミをまわしてルートの名前を入力したら**[SELECT]**ソフトキーを押します。  
名前を入力(最大15文字)が終わったら**[FINISH]**ソフトキーを押します。
5. **DIAL/ENT**ツマミをまわして“**ROUTE POINTS**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。

ROUTE DIRECTORY	
NAME: 001RTE	
ROUTE POINTS	
SAVE	
BACK	SELECT
6. **DIAL/ENT**ツマミをまわして“**WPT:**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。
7. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、目的地点のウェイポイントを選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。

ROUTE DIRECTORY	
NAME: 001RTE	
ROUTE POINTS	
SAVE	
BACK	SELECT

ROUTE DIRECTORY		
001RTE		
WPT:		
BACK	FINISH	SELECT

8. **DIAL/ENT**ツマミをまわして“**Via 1:**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。
9. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、ウェイポイントを選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。
10. 手順8と9を繰り返して、すべての経由地点を追加します。
11. **[BACK]**ソフトキーを押します。
12. **DIAL/ENT**ツマミをまわして“**SAVE**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押してルートを保存します。
13. **[CLEAR]**キーを押して、通常画面に戻ります。

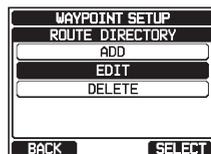


### ● ルートを編集する

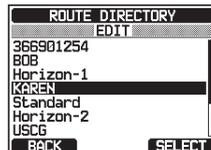
保存されているルートを編集します。

1. **[MENU]** → “**SETUP**” → “**WAYPOINT SETUP**” → “**ROUTE DIRECTORY**”

2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして“**EDIT**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。

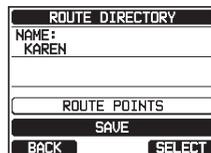


3. **DIAL/ENT**ツマミをまわし、編集するルートを選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押すと、ルート編集画面が表示されます。



4. 前のページの“**ルートの追加**”の手順3から手順11とおなじ操作でルートを編集します。

5. **DIAL/ENT**ツマミをまわして“**SAVE**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押して編集したルートを保存します。

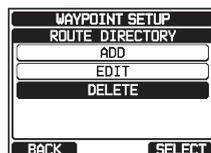


6. **[CLEAR]**キーを押して、通常画面に戻ります。

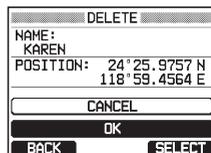
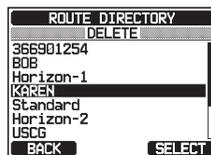
### ● ルートを削除する

1. **[MENU]** → “**SETUP**” → “**WAYPOINT SETUP**” → “**ROUTE DIRECTORY**”

2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして“**DELETE**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。



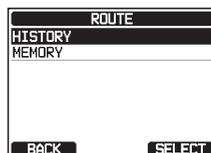
3. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、削除するルートを選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。
4. 削除するルートを確認して、**DIAL/ENT**ツマミをまわして“**OK**”選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。
5. **[CLEAR]**キーを押して、通常画面に戻ります。



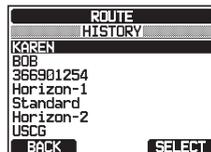
## ルートナビゲーションの開始と停止

1. **[MENU]** ⇒ “**NAVI**” ⇒ “**ROUTE**”

2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**HISTORY**”または“**MEMORY**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。

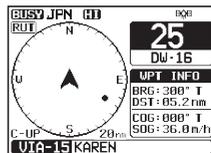


3. **DIAL/ENT**ツマミをまわしてルートを選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押して、ルートナビゲーションを開始します。ナビゲーション画面の左上に“**RUT**”アイコンが表示されます。



4. 経由地点(Via)に到達すると、自動で次の目的地へのナビゲーションが開始されます。

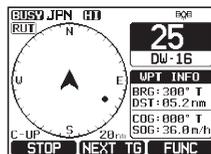
参考: WAYPOINT設定メニューの“**ROUTINGOPERATION**”が“**MANUAL**”(手動)に設定されている場合は、経由地点(Via)に到達すると“**ARRIVED**”(到着)というメッセージが表示されます。



次の目的地へのナビゲーションを開始するには、**[YES]**ソフトキーを押します。

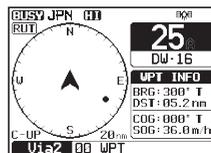
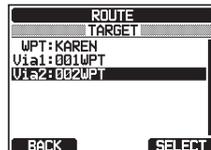
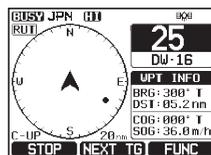
詳しくは、“**次の目的地へナビゲーションを自動または手動で開始する**”(85ページ)を参照してください。

5. ルートナビゲーションを終了するには、いずれかのソフトキーを押して、**[STOP]**ソフトキーを押して通常画面に切り替えます。



## 目的地点の変更

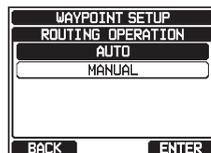
1. ナビゲーション画面で、いずれかのソフトキーを押して、[NEXT TG]ソフトキーを押します。
2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、次の目的地点を選択して、[SELECT]ソフトキーを押します。
3. 選択した目的地点へのナビゲーションを開始します。



## 次の目的地点へナビゲーションを自動または手動で開始する

ウェイポイントに到着したときに、次の目的地点へのナビゲーションを自動で開始するか、または手動で開始するかを設定します。

1. **[MENU]** ⇒ “SETUP” ⇒ “WAYPOINT SETUP” ⇒ “ROUTING OPERATION”
2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして“**AUTO**”または“**MANUAL**”を選択して、[ENTER]ソフトキーを押します。工場出荷時設定は“**AUTO**”です。
3. [CLEAR]キーを押して、通常画面に戻ります。



## GM (グループモニター) 機能

GM (グループモニター) 機能は、グループコールと自動位置ポジションポーリングと同じシステムを使用して、グループメンバーの位置を画面に表示します。

### GM機能の設定

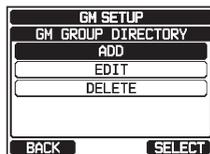
最大9人のグループメンバーを登録できるGMグループを、10グループまで保存できます。

### GMグループメモリーの設定

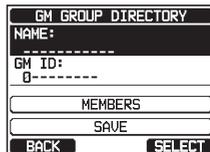
#### 参考

- この機能を動作させるには、モニターするグループメンバーのすべてのトランシーバーに同じ“GM ID”を登録する必要があります。
- GMのグループメンバーは個別アドレス帳から選択できます。モニターするすべてのメンバーを個別アドレス帳に保存しておく必要があります。詳しくは“個別アドレス帳の登録”(50ページ)を参照してください。

1.  ➡ “SETUP” ➡ “GM SETUP” ➡ “GM GROUP DIRECTORY”
2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして“**ADD**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。
3. **DIAL/ENT**ツマミをまわして“**NAME:**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。
4. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、グループの名前(最大11文字)を入力して**[FINISH]**ソフトキーを押します。
5. **DIAL/ENT**ツマミをまわして“**GM ID:**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押して、GMグループMMSI番号を入力します。MMSI番号の入力が終わったら、**[FINISH]**ソフトキーを押します。
6. **DIAL/ENT**ツマミをまわして“**MEMBERS**”を選択して**[SELECT]**ソフトキーを押します。



GM SETUP  
GM GROUP DIRECTORY  
ADD  
EDIT  
DELETE  
BACK SELECT



GM GROUP DIRECTORY  
NAME:  
GM ID:  
MEMBERS  
SAVE  
BACK SELECT

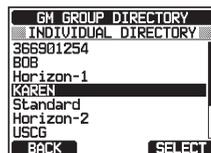


GM GROUP DIRECTORY  
NAME:  
Standard  
GM ID:  
MEMBERS  
SAVE  
BACK SELECT



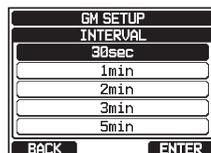
GM GROUP DIRECTORY  
NAME:  
Standard  
GM ID:  
087654323  
MEMBERS  
SAVE  
BACK SELECT

7. **DIAL/ENT**ツマミをまわしてリストの番号を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。
8. **DIAL/ENT**ツマミをまわして個別アドレス帳から、メンバーを選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。
9. 手順8を繰り返して、すべてのメンバーをGMグループに登録します。
10. **[BACK]**ソフトキーを押すと、グループの名前とMMSI番号の設定画面に戻ります。
11. **DIAL/ENT**ツマミをまわして“**SAVE**”を選択して**[ENTER]**ソフトキーを押して設定を保存します。
12. 他のGMグループに登録するには、手順2～11を繰り返します。
13. **[CLEAR]**キーを押して、通常画面に戻ります。



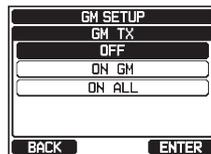
### 位置情報送信の時間間隔を設定

1. **[MENU]** ⇒ “**SETUP**” ⇒ “**GM SETUP**” ⇒ “**INTERVAL**”
2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、位置情報を送信する時間の間隔を選択して**[ENTER]**ソフトキーを押します。
3. **[CLEAR]**キーを押して、通常画面に戻ります。



### GM動作中の送信動作の設定

1. **[MENU]** ⇒ “**SETUP**” ⇒ “**GM SETUP**” ⇒ “**GM TX**”
2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、希望の送信動作 (“**OFF**” / “**ON GM**” (工場出荷時設定) / “**ON ALL**”)を選択して**[ENTER]**ソフトキーを押します。  
**OFF:** GM機能が動作中の送信を無効にします。  
**ON GM:** GM画面の表示中だけ、送信を有効にします。  
**ON ALL:** GM機能が動作中の送信を有効にします。
3. **[CLEAR]**キーを押して、通常画面に戻ります。



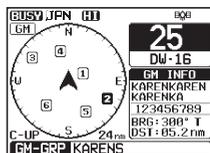
## 参考

GM機能を開始するには、設定メニューでGMグループアドレス帳の設定を行います。あらかじめ設定しないとGM機能を開始できません。詳しくは、“GMグループメモリーの設定”（86ページ）を参照してください。

1.  → “GM”
2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、GMグループを選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。

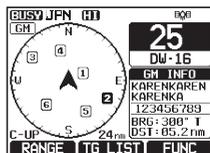


- GM機能が開始され、GM画面が表示されます。
3. **[CLEAR]**キーを押して、通常画面に戻ります。



## モニターするGMグループの変更

1. GM画面を表示中に、いずれかのソフトキーを押してから、**[TG LIST]**ソフトキーを押します。
2. **[CHG GP]**ソフトキーを押します。
3. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、グループを選択して、**[ENTER]**ソフトキーを押します。



GM-GRP KARENS		
NAME		DST NM
1: BOB		23.5
2: KAREN		05.2
3: Horizon-1		12.8
4: Standard-2		34.9
5: USCG		30.0
6: W ID		46.7
7: Horizon-2		38.4

At the bottom, there are 'BACK', 'CHG GP', and 'SELECT' buttons.

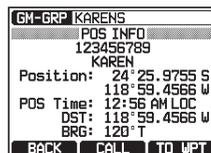
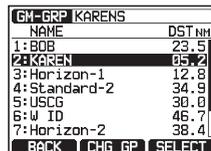
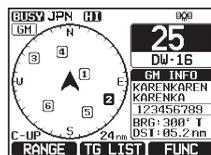


- モニターするGMグループが変更されて、GM画面が表示されます。
4. **[CLEAR]**キーを押して、通常画面に戻ります。



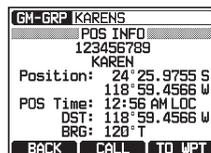
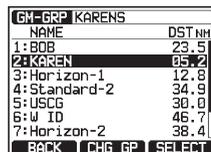
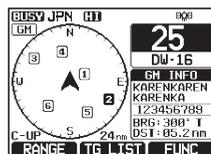
## グループメンバーへ個別コールを送信する

1. GM画面を表示中に、いずれかのソフトキーを押して、[TG LIST]ソフトキーを押します。
2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、呼び出すメンバーを選択します。
3. [**SELECT**]ソフトキーを押すと、選択したメンバーの位置情報および距離と方位が表示されます。
4. [**CALL**]ソフトキーを押すと、選択したメンバーに個別コールが送信されます。



## グループメンバーへのナビゲーションを開始する

1. GM画面を表示中に、いずれかのソフトキーを押して、[TG LIST]ソフトキーを押します。
2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、接近したいメンバーを選択します。
3. [**SELECT**]ソフトキーを押すと、選択したメンバーの位置情報および距離と方位が表示されます。
4. [**TO WPT**]ソフトキーを押すと、選択したメンバーへのナビゲーションが開始されます。  
[**BACK**]ソフトキーを2回押すと、ナビゲーションを中止して、GM画面に戻ります。



# AIS (Automatic Identification System)機能

## AIS機能の概要

AIS (Automatic Identification System: 船舶自動識別装置)は、自船の周囲のAISを装備した船舶の位置およびコースを確認することによって、衝突回避を支援することを目的としています。

**GX6000J**は内蔵されている2つの受信機で、クラスAとクラスBの信号を受信することができます。

### 参考

GX6000Jには、AIS専用のアンテナ端子が装備されています。マリーンVHF用のアンテナを接続することにより、VHF音声通信を受信しながらAIS信号を同時に受信することができます。

## AIS機能の操作方法

GX6000JにはAIS受信機が装備されていて、自船の周囲のAISターゲットをトランシーバーの画面に表示しますので、他船の位置を確認して自船への接近を回避することができます。

### 注意

本機のAIS画面にAISターゲットを表示するには、オプションの外部GPSアンテナ**SCU-31**、または外部のGPS装置をNMEA 0183またはNMEA 2000で接続する必要があります。

1. [MENU] → “AIS”

2. AIS画面では、自船の位置を画面中央の“▲”アイコンで表示します。

AISターゲットは“△”アイコンで表示されます。

“▲”と“△”アイコンの向きはそれぞれのCOG（対地針路）を表しています。

自船が停船またはごく低速の時は、“◎”で表示されます。



AISターゲット

### AIS画面アイコン

▲: AIS ターゲット

⊗: AIS SART/MOB

☆: AIS ターゲット (ロスト\*)

⊗: AIS SART/MOB (ロスト\*)

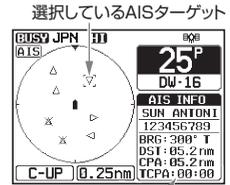
☒: 海岸局

⚓: AIS SART/ 航空機

◆: 電子航路標識

※: ロストとは、AIS信号が途絶え、ターゲットの位置更新ができない状態

3. ◀/▶キーを押して、AISターゲットを選択します。  
◀キーを押すと、自船から近い順にAIS船舶が選択されます。▶キーを押すと遠い順に選択されます。  
選択しているAISターゲットには“△”アイコンが表示されます。



AISターゲットの情報

**注意:** 最大25個のAISターゲットを表示できます。受信したすべてのAISターゲットは、NMEA 0183またはNMEA 2000で接続した対応するチャートプロッターまたはナビゲーションソフトウェアに表示できます。

4. [CLEAR]キーを押して、通常画面に戻ります。

### AISターゲット情報画面の表示

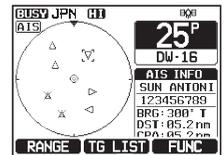
1. AIS画面でいずれかのソフトキーを押すと、ソフトキーが表示されます。各ソフトキーの機能は以下のとおりです。

[RANGE]: コンパス画面の表示半径を変更します。

[TG LIST]: 受信しているMMSI番号または船舶名のリストを表示します。

[FUNC]: メニューを表示します。

2. [TG LIST]ソフトキーを押して受信しているAISターゲットのリストを表示させます。
3. DIAL/ENTツマミをまわして、MMSI番号または船舶名を選択して、[SELECT]ソフトキーを押すとAISターゲット情報画面が表示されます。  
[DANGER]ソフトキーを押すと、TCPA時間順序で並び替えて表示します。
4. AISターゲットの情報をさらに表示するには、[NEXT]ソフトキーを押します。
5. [CLEAR]キーを押して、通常画面に戻ります。



ALL TARGET LIST			
NAME/MMSI	BRG	T	DST NM
BOB	118.5°	23.5	
KAREN	388.0°	05.2	
Horizon-1	---	---	12.8
Standard-2	---	---	34.9
USCG	---	---	38.0
W ID	---	---	48.7
Horizon-2	---	---	38.4

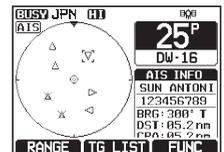
BACK DANGER SELECT

TARGET INFO 1/5	
Class:	CLASS A
MMSI:	366901254
Name:	BOB
Origin:	
Call Sign:	
IMO No:	

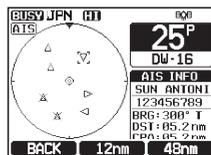
BACK CALL NEXT

### コンパスの表示半径を変更する

1. AIS画面で、いずれかのソフトキーを押して、[RANGE]ソフトキーを押します。



- AIS画面のコンパスの表示半径を変更するには、続けて中央または右側のソフトキーを押します。
- [BACK]ソフトキーを押して、AIS画面に戻ります。



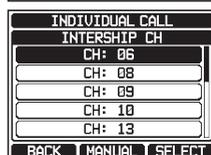
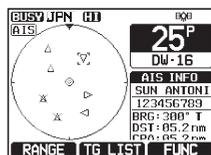
### 参考

コンパスの表示半径の単位を変更することができます。詳しくは“表示単位 (UNITS OF MEASURE)”(118ページ)を参照してください。

## AIS船舶への個別コールの送信

受信したAISターゲットに個別コールを送信できます。

- AIS画面で、いずれかのソフトキーを押して、[TG LIST]ソフトキーを押して、受信したAISターゲットのリストを表示させます。
- DIAL/ENT**ツマミをまわして、個別コールを送信するMMSI番号または船舶名を選択して、[SELECT]ソフトキーを押します。
- [CALL]ソフトキーを押します。
- DIAL/ENT**ツマミをまわして、通信したいチャンネルを選択して、[SELECT]ソフトキーを押します。すべての音声通信用チャンネルから選択するには、[MANUAL]ソフトキーを押します。
- 選択したAIS船舶に個別コールを送信するには、[YES]ソフトキーを押します。GX6000Jは個別コールを送信した後、AIS船舶のDSC対応トランシーバーの応答を受信すると、ベル音が鳴ります。マイクのPTTスイッチを押して、AIS船舶と話します。



- [QUIT]ソフトキーを押して、AIS画面に戻ります。
- [CLEAR]キーを押して、通常画面に戻ります。

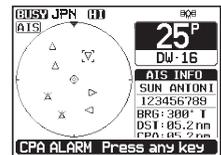


## CPA/TCPAアラーム機能

他のAIS船舶がCPA (Closest Point of Approach)で設定された制限範囲の距離に接近するとCPAアラームが鳴ります。詳しくは“**CPA (Closest Point of Approach)**” (94ページ) を参照してください。

他のAIS船舶がTCPA (Time to Closest Point of Approach)で設定されたCPAに至るまでの時間まで接近するとTCPAアラームが鳴ります。詳しくは“**TCPA (Time to Closest Point of Approach)**” (94ページ) を参照してください。

- 他のAIS船舶が自船に近づくと、あらかじめ設定したCPA設定距離とTCPA設定時間に従ってアラーム音が鳴ります。
- アラーム音を停止するには、いずれかのキーを押します。



CPA/TCPAアラームのターゲットは“[ ]”が点滅して表示します。

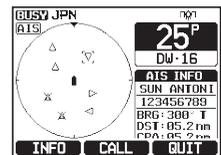
**参考:** AIS画面以外を表示している場合は、自動でAIS画面に切り替わります。

- 画面に3個のソフトキーが表示されます。各ソフトキーの機能は以下のとおりです。

[INFO]: CPA/TCPAアラームターゲットの情報画面が表示されます。

[CALL]: 個別コール送信するための設定画面に切り替わります。

[QUIT]: AIS画面に戻ります。



- 個別コールをCPA/TCPAアラームターゲットに送信するには、“**AIS船舶への個別コールの送信**” (92ページ) の手順4~8を実行します。

## コンパス表示の変更

コンパスの表示を“**COURSE-UP**” (進行方向が上) と“**NORTH-UP**” (北が上) から切り替えることができます。工場出荷時設定は“**COURSE-UP**”です。

詳細については、“**コンパス表示方向 (COMPASS DIRECTION)**” (117ページ) を参照してください。

## AIS機能の設定

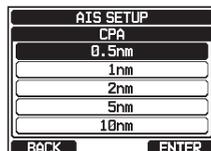
### CPA (Closest Point of Approach)

CPA※で設定した距離になるとアラーム音が鳴ります。

※: CPAとは、自船と他船の予想される最接近距離を意味します。お互いの船舶の速度、進行方向により変化します。

1.  ⇒ “SETUP” ⇒ “AIS SETUP” ⇒ “CPA”

2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、接近しているAIS船舶について、CPAアラーム音を鳴らす距離を選択します。“0.5nm” / “1nm” / “2nm” / “5nm” / “10nm” から選択します。(工場出荷時設定は“0.5nm”です。)
3. [**ENTER**]ソフトキーを押して、設定を保存します。
4. [**CLEAR**]キーを押して、通常画面に戻ります。

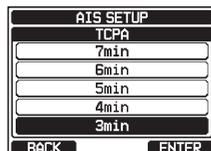


### TCPA (Time to Closest Point of Approach)

TCPAで設定した時間内に、自船と他船がCPAで設定した距離になるときにアラーム音が鳴ります。

1.  ⇒ “SETUP” ⇒ “AIS SETUP” ⇒ “TCPA”

2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、接近しているAIS船舶について、TCPAアラーム音を鳴らす時間を選択します。“1min” (1分) から“30min” (30分) の範囲で設定できます(工場出荷時設定は“10min”です。)
3. [**ENTER**]ソフトキーを押して、設定を保存します。
4. [**CLEAR**]キーを押して、通常画面に戻ります。

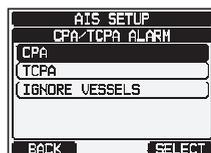


### CPAアラーム/TCPAアラーム

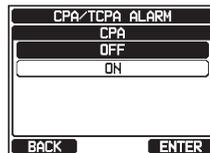
CPAアラームとTCPAアラームのオン/オフを設定します。工場出荷時設定はどちらも“OFF”です。

1.  ⇒ “SETUP” ⇒ “AIS SETUP” ⇒ “CPA/TCPA ALARM”

2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“CPA”または“TCPA”を選択して、[**SELECT**]ソフトキーを押します。



3. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**ON**”または“**OFF**”を選択します。
4. [**ENTER**]ソフトキーを押して、設定を保存します。
5. [**CLEAR**]キーを押して、通常画面に戻ります。



### 参考

CPAアラーム/TCPAアラームは下記の場合に停止します。

- (1) いずれかのキーを押す
- (2) 上記の手順に従って、手順3で“OFF”を選択する
- (3) 船舶が設定されたCPA/TCPAアラームの範囲外になる

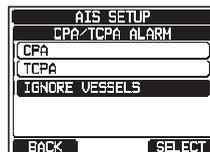
CPA/TCPAアラーム音はGX6000Jのフロントパネルのスピーカー、マイクのスピーカー、オプションの外部スピーカー、オプションのリモートマイクRAM4とワイヤレスリモートマイクRAM4Wのスピーカーから出力されます。

## IGNORE VESSELS

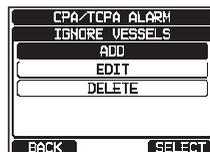
AIS船舶のMMSI番号をリストに登録して、CPA/TCPAアラーム機能の対象外に設定することができます。登録したAIS船舶に対してはCPA/TCPAアラームが鳴りません。

1. [**MENU**] ⇒ “**SETUP**” ⇒ “**AIS SETUP**” ⇒ “**CPA/TCPA ALARM**”

2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**IGNORE VESSELS**”を選択して、[**SELECT**]ソフトキーを押します。



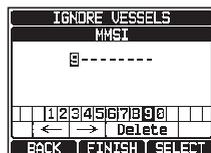
3. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**ADD**”を選択して、[**SELECT**]ソフトキーを押します。



4. もう一度[**SELECT**]ソフトキーを押します。

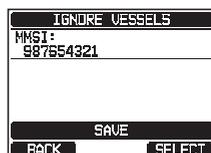


5. **DIAL/ENT**ツマミをまわして数字を選択します。**[SELECT]**ソフトキーを押してカーソルを右に移動します。同じ手順で9桁のMMSI番号をすべて入力します。



もし間違えて入力した場合は、**DIAL/ENT**ツマミをまわして“←”または“→”を選んでから、**[SELECT]**ソフトキーを何度か押して間違った数字を選択して、正しい数字を入力します。

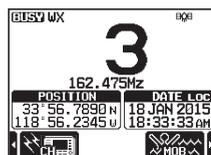
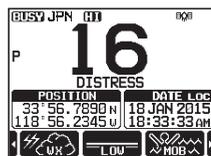
6. MMSI番号をすべて入力したら、**[FINISH]**ソフトキーを押します。
7. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**SAVE**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押して設定を保存します。
8. 続けて他の船舶を登録するには、手順3～7を繰り返します。
9. **[CLEAR]**キーを押して、通常画面に戻ります。



### ウェザーチャンネル (NOAA WEATHER CHANNELS)

**注意:** NOAAウェザーチャンネルはアメリカで運用されているため、日本の周辺では受信できません。

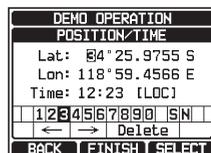
1. [WX]ソフトキーを押して、NOAAウェザーチャンネルを受信します。画面に“WX”アイコンが表示されます。  
**注意:** “ソフトキー (SOFT KEY)” (103ページ) を参照して、ソフトキーに“WX/CH”を割り当てます。
2. DIAL/ENTツマミをまわして、ウェザーチャンネルを選択します。
3. [CH]ソフトキーを押すと、以前のチャンネルに戻って、“WX”アイコンが消えます。



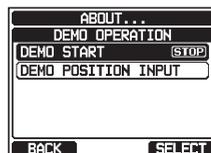
### デモモード (DEMO MODE)

1. [MENU] ⇒ “SETUP” ⇒ “ABOUT...” ⇒ “DEMO OPERATION” ⇒ “DEMO POSITION INPUT”

2. DIAL/ENTツマミをまわして、デモモードに使用する、船の緯度/経度と24時間表示のUTC時刻を入力します。DIAL/ENTツマミをまわして数字を選択して、[SELECT]ソフトキーを次の桁に移動します。

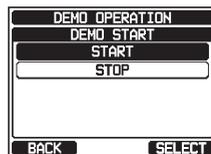


3. 間違えて入力したときは、DIAL/ENTツマミをまわして、“←”または“→”を選択します。続けて[SELECT]ソフトキーを押して、間違えた数字を選択して手順2で正しい数字を入力します。
4. [FINISH]ソフトキーを押して、設定を保存します。
5. DIAL/ENTツマミをまわして“DEMO START”を選択して[SELECT]ソフトキーを押します。



6. DIAL/ENTツマミをまわして“START”を選択して、[SELECT]ソフトキーを押します。

**注意:** デモモードをオンにすると、本機の電源を切って入れ直しても、再びデモモードがオンになります。デモモードを停止するには、上記の手順6で“STOP”を選択します。

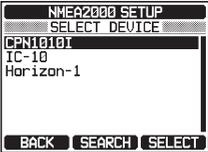


## NMEA 2000設定 (NMEA2000 SETUP)

NMEA 2000ネットワークに接続されている装置のデバイス番号とシステム番号を設定します。

### 装置の選択 (SELECT DEVICE)

デバイス番号とシステム番号を設定する装置を選択します。

1. [MENU] ⇒ “SETUP” ⇒ “NMEA2000 SETUP” ⇒ “SELECT DEVICE”
2. リスト画面で、**DIAL/ENT**ツマミをまわして、デバイス番号またはシステム番号を設定する装置を選択します。
3. [SELECT]ソフトキーを押して設定を保存します。
4. [CLEAR]キーを押して、通常画面に戻ります。

#### 参考

ネットワークに接続されている装置がリストに表示されていない場合は、[SEARCH]ソフトキーを押してリストを更新してください。

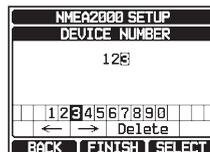
GX6000Jが必要とするデータがない場合など、すべての装置が表示されない場合があります。

### デバイス番号の設定 (DEVICE NUMBER)

上記の“装置の選択 (SELECT DEVICE)”で選択した装置のデバイス番号を設定します。ネットワークに2台以上のGX6000Jを接続する場合は、どちらかのデバイス番号を変更してください。

1. [MENU] ⇒ “SETUP” ⇒ “NMEA2000 SETUP” ⇒ “DEVICE NUMBER”
  2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、デバイス番号の最初の数字を選択し、[SELECT]ソフトキーを押して、次の桁に移動します。
  3. 手順2を繰り返して、000から251までの範囲でデバイス番号を設定します。(工場出荷設定時は“000”です。)
  4. もし間違えて入力した時は、**DIAL/ENT**ツマミをまわして、“←”または“→”を選択して[SELECT]ソフトキーを押して間違えた数字を選択してから、手順2で正しい数字を入力します。
- 

5. デバイス番号の登録が終了したら、[FINISH]ソフトキーを押します。



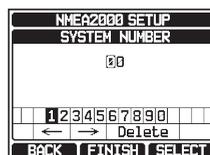
6. [CLEAR]キーを押して、通常画面に戻ります。

## システム番号の設定 (SYSTEM NUMBER)

“装置の選択 (SELECT DEVICE)” (98ページ) で選択した装置のシステム番号を設定します。

1. [MENU] → “SETUP” → “NMEA2000 SETUP” → “SYSTEM NUMBER”

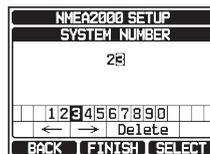
2. DIAL/ENTツマミをまわして、システム番号の最初の数字を選択して、[SELECT]ソフトキーを押して次の桁に移動します。



3. 手順2を繰り返して、00から15までの範囲でシステム番号を設定します。(工場出荷設定時は“00”です。)

4. もし間違えて入力した時は、DIAL/ENTツマミをまわして、“←”または“→”を選択して[SELECT]ソフトキーを押して間違えた数字を選択してから、手順2で正しい数字を入力します。

5. システム番号の登録が終了したら、[FINISH]ソフトキーを押します。



6. [CLEAR]キーを押して、通常画面に戻ります。

## NMEA 2000設定メニュー一覧

項目	機能説明	工場出荷時設定	ページ
SELECT DEVICE	デバイス番号またはシステム番号を設定するデバイスを選択します	—	98
DEVICE NUMBER	デバイス番号設定	000	98
SYSTEM NUMBER	システム番号設定	00	99

## NMEA 2000 PGN(パラメータグループナンバー)対応表

GX6000Jは以下のNMEA 2000のPGN (パラメータグループナンバー) に対応しています。

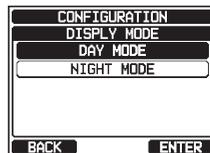
受信		送信	
059392	ISO 応答 (ACK)	059392	ISO 応答(ACK)
059904	ISO 要求	059904	ISO 要求
060928	ISO アドレス要求	060928	ISO アドレス要求
065240	ISO Command Address	-	-
126464	送受信PGNリストグループ機能	126464	送受信PGNリストグループ機能
126993	存在確認信号	126993	存在確認信号
126996	製品情報	126996	製品情報
127237	船首方向／航路制御	-	-
127250	船体の進行方向	-	-
127258	磁気偏差	-	-
128259	速度	-	-
129025	位置: 高速更新	-	-
129026	COGおよびSOG: 高速更新	-	-
129029	GNSS測位位置データ	129029	GNSS測位位置データ
129033	時差オフセット	-	-
-	-	129038	AIS クラスA 位置レポート
-	-	129039	AIS クラスB 位置レポート
-	-	129040	AIS クラスB 拡張位置レポート
-	-	129041	A to N 電子航路標識レポート
-	-	129793	位置、時間情報(海岸局)レポート
-	-	129794	AIS クラスA 静的な航海関連データ
-	-	129796	AIS 応答(ACK)
-	-	129797	AIS メッセージ(宛先指定)
-	-	129798	AIS SAR航空機位置レポート
-	-	129799	無線周波数／モード／電源
-	-	129801	AIS 安全に関するメッセージ(宛先指定)
-	-	129802	AIS 安全関連ブロードキャストメッセージ
-	-	129808	DSC呼び出し情報
-	-	129809	AIS クラス B "CS" 静的データレポート、パートA
-	-	129810	AIS クラス B "CS" 静的データレポート、パートB
129540	GNSS衛星情報	129540	GNSS衛星情報

## 設定メニュー (CONFIGURATION)

### 画面モード (DISPLAY MODE)

トランシーバーを操作する時間帯や周囲の明るさにあわせて、見やすい表示画面を選択します。

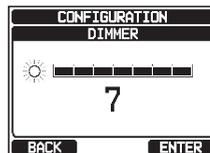
1.  ⇒ “SETUP” ⇒ “CONFIGURATION” ⇒ “DISPLAY MODE”
2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“DAY MODE”（日中モード）または“NIGHT MODE”（夜間モード）を選択できます。  
DAY MODE: 通常表示（工場出荷時設定）  
NIGHT MODE: 夜間用の反転表示
3. [**ENTER**]ソフトキーを押して、設定を保存します。
4. [**CLEAR**]キーを押して、通常画面に戻ります。



### バックライト輝度調節 (DIMMER)

画面とキーのバックライトの明るさを調節します。上記の“画面モード”のDAYモードとNIGHTモードでそれぞれ設定できます。

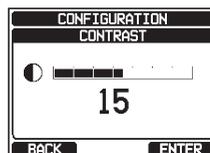
1.  ⇒ “SETUP” ⇒ “CONFIGURATION” ⇒ “DIMMER”
2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、バックライトの明るさを調節します。（工場出荷時設定は、画面モードがDAYモード時“7”、NIGHTモード時“4”です。）  
“OFF”を選択するとバックライトは消灯します。
3. [**ENTER**]ソフトキーを押して、設定を保存します。
4. [**CLEAR**]キーを押して、通常画面に戻ります。



### 画面のコントラスト調節 (CONTRAST)

画面のコントラストを調節します。

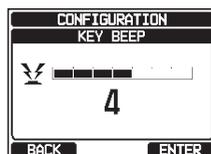
1.  ⇒ “SETUP” ⇒ “CONFIGURATION” ⇒ “CONTRAST”
2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、コントラストを“1”～“30”（工場出荷時設定は“15”です。）から選択します。
3. [**ENTER**]ソフトキーを押して、設定を保存します。
4. [**CLEAR**]キーを押して、通常画面に戻ります。



## キー操作音量 (KEY BEEP)

キーを押したときのビーブ音の音量を調節します。

1. [MENU] → “SETUP” → “CONFIGURATION” → “KEY BEEP”
2. DIAL/ENTツマミをまわして、ビーブ音の音量を“1”～“7”（工場出荷時設定は“4”です。）から選択します。
3. [ENTER]ソフトキーを押して、設定を保存します。
4. [CLEAR]キーを押して、通常画面に戻ります。

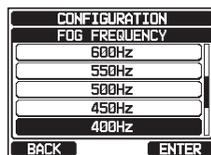


## 霧笛音 (FOG FREQUENCY)

船舶の大きさにあわせて霧笛音の周波数を選択します。

- 70～200Hz: 全長200メートル以上の船舶
- 130～350Hz: 全長75メートル以上200メートル未満の船舶
- 250～700Hz: 全長75メートル未満の船舶

1. [MENU] → “SETUP” → “CONFIGURATION” → “FOG FREQUENCY”
2. DIAL/ENTツマミをまわして、霧笛音の周波数を“200Hz”～“850Hz”（工場出荷時設定は“400Hz”です。）から選択します。
3. [ENTER]ソフトキーを押して、設定を保存します。
4. [CLEAR]キーを押して、通常画面に戻ります。



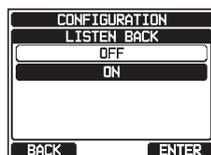
### 参考

工場出荷時に、霧笛音の周波数は400Hzに設定されています。船舶が非常に大型の場合をのぞいて、ほとんどの場合、変更する必要はありません。

## リッスンバック機能 (LISTEN BACK)

拡声器モードまたは霧笛/ホーンモードのときに、ホーンスピーカ周辺音を聞くことができるリッスンバック機能のオン/オフを切り替えます。

1. [MENU] → “SETUP” → “CONFIGURATION” → “LISTEN BACK”
2. DIAL/ENTツマミをまわして、“OFF”または“ON”（工場出荷時設定は“ON”です。）を選択します。
3. [ENTER]ソフトキーを押して、設定を保存します。
4. [CLEAR]キーを押して、通常画面に戻ります。



## トランシーバーまたはRAM4マイクの名前 (STATION NAME)

トランシーバーまたは接続したオプションのリモートステーションマイク SSM-70H (RAM4)の名前 (最大10文字) を変更できます。

例: “RADIO” → “CABIN”、 “RAM 1” → “FLYBRIDGE”

1.  ⇒ “SETUP” ⇒ “CONFIGURATION” ⇒ “STATION NAME”

2. **DIAL/ENT** ツマミをまわして、名前を変更するトランシーバーまたはRAM4マイクを選択して、**[SELECT]** ソフトキーをします。

**注意:** 設定をする前にRAM4マイクを接続しておきます。

3. **DIAL/ENT** ツマミをまわして、名前の最初の文字を選択して、**[SELECT]** ソフトキーを押して次の桁に移動します。

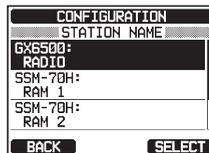
4. 手順3を繰り返して、名前を入力します。

5. もし間違えて入力した時は、**DIAL/ENT** ツマミをまわして、“←” または “→” を選択して**[SELECT]** ソフトキーを押して間違えた文字を選択してから、手順3で正しい文字を入力します。

6. 名前 (最大10文字) をすべて入力したら、**[FINISH]** ソフトキーを押します

7. 続けて他の手順2~6を繰り返して、名前を設定したいすべての装置を設定します。

8. **[CLEAR]** キーを押して、通常画面に戻ります。



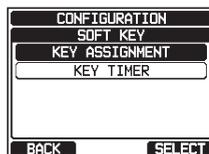
## ソフトキー (SOFT KEY)

### キー割り当て (KEY ASSIGNMENT)

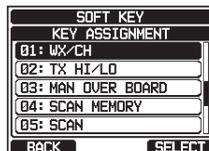
ソフトキー (01~12) に、よく使用する機能を割り当てることができます。

1.  ⇒ “SETUP” ⇒ “CONFIGURATION” ⇒ “SOFT KEY”

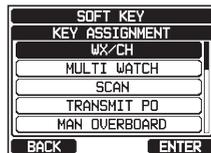
2. **DIAL/ENT** ツマミをまわして、“**KEY ASSIGNMENT**” を選択して、**[SELECT]** ソフトキーを押します。



3. **DIAL/ENT** ツマミをまわして、設定するソフトキーの番号を選択して、**[SELECT]** ソフトキーを押します。



4. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、下記の表を参照して割り当てる機能を選択して、**[ENTER]**ソフトキーを押します。



“**NONE**”を選択すると、機能の割り当てが削除されます。

5. 手順3と4を繰り返して、他のソフトキーを設定します。

通常画面で◀/▶キーを押すたびに、下図の3つのソフトキーが切り替わって表示されます。



(上図は工場出荷時設定です。)

6. **[CLEAR]**キーを押して、通常画面に戻ります。

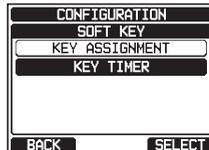
表示	機能説明	ソフトキー番号 (工場出荷時設定)
NONE	(機能割り当てなし)	
TX HI/LO	送信出力切換	02
WX/CH	NOAAウェザーチャンネルとマリーンチャンネル切換	01
SCAN	スキャンの開始/停止	05
DUAL WATCH*/ TRIPLE WATCH*	2波同時受信*または3波同時受信*の開始/停止 (*: <b>[MENU]</b> ⇒ <b>SETUP</b> ⇒ <b>CHANNEL SETUP</b> ⇒ <b>MULTI WATCH</b> で設定します)	06
MARK POSITION	現在地を“ウェイポイント”として保存	09
SCAN MEMORY	現在のチャンネルをスキャンメモリーに追加/削除	04
PRESET	プリセットチャンネルと通常モードの切換 現在のチャンネルをプリセットチャンネルに追加/削除	10
MAN OVERBOARD	落水者が発生した地点を“ウェイポイント”に設定	03
NOISE CANCEL	ノイズキャンセル機能の設定画面を表示	10
CH NAME	チャンネルの名前を編集	
COMPASS	コンパス画面を表示	
WAYPOINT	ナビゲーション画面を表示	
FOG HORN	フォグホーンモードを選択	
INTERCOM	GX6000J本体とオプションのリモートマイクRAM4( またはRAM4W)の内線通話機能の開始/停止	
GPS LOGGER	位置データのログ機能の開始/停止	
AIS DISPLAY	AIS画面を表示	
HORN BUTTON	霧笛を鳴らす	12
PUBLIC ADDRESS	拡声器機能の画面を表示	
RX RECORD	受信音の録音	07
RX SENSE	受信感度の近接(LOCAL)/遠距離(DISTANCE)を選択	11
PLAY	録音した受信音を再生	08

## ソフトキーの表示時間 (KEY TIMER)

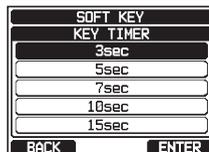
ナビゲーション画面などソフトキーが表示されていない画面で、いずれかのソフトキーを押した後で、操作をしない場合にソフトキー表示が消えるまでの時間を設定できます。

1.  ⇒ “SETUP” ⇒ “CONFIGURATION” ⇒ “SOFT KEY”

2. DIAL/ENTツマミをまわして、“KEY TIMER”を選択して、[SELECT]ソフトキーを押します。



3. DIAL/ENTツマミをまわして、時間を選択します。
4. [ENTER]ソフトキーを押して、設定を保存します。
5. [CLEAR]キーを押して、通常画面に戻ります。

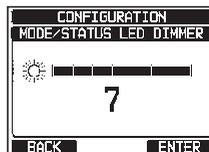


## モード/ステータスインジケータ輝度調節

フロントパネルのモード/ステータスインジケータの明るさを調節することができます。

1.  ⇒ “SETUP” ⇒ “CONFIGURATION” ⇒ “MODE/STATUS LED DIMMER”

2. DIAL/ENTツマミをまわして、モード/ステータスインジケータの明るさを調節します。(工場出荷時設定は“7”です。)



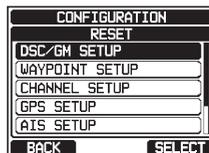
3. [ENTER]ソフトキーを押して、設定を保存します。
4. [CLEAR]キーを押して、通常画面に戻ります。

## リセット操作 (RESET)

設定メニューの一部または全てをリセットしたり、本機を工場出荷時の設定に戻すことができます。

1.  ⇒ “SETUP” ⇒ “CONFIGURATION” ⇒ “RESET”

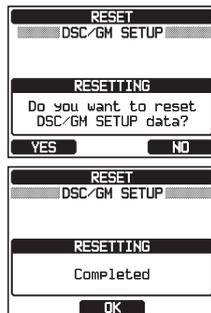
2. DIAL/ENTツマミをまわして、リセット操作の種類 (“DSC/GM SETUP” / “WAYPOINT SETUP” / “CHANNEL SETUP” / “GPS SETUP” / “AIS SETUP” / “CONFIGURATION” / “FACTORY”) を選択します。



- 一度登録した MMSI 番号はリセット操作をしても消去されません。
- 個別アドレス帳と GPS ログも消去されますのでご注意ください。

参考: “CHANNEL SETUP” または “FACTORY” リセットを行うとチャンネルグループが “INTL” になりますので、“チャンネルグループ (CHANNEL GROUP)” (107ページ) を参照して “JPN” (日本) に設定してください。

3. [SELECT]ソフトキーを押します。
4. [YES]ソフトキーを押してリセットします。(キャンセルするには、[NO]ソフトキーを押します。)



5. [OK]ソフトキーを押します。
6. [CLEAR]キーを押して、通常画面に戻ります。

## 設定メニュー一覧

項目	機能説明	工場出荷時設定	ページ
DISPLAY MODE	画面表示のDAY(日中)モードとNIGHT(夜間)モードを切り替えます。	DAY MODE	101
DIMMER	LCDとキーのバックライトの明るさを調節します。	DAY MODE: 7 NIGHT MODE: 4	101
CONTRAST	画面のコントラスト調節	15	101
KEY BEEP	キーを押したときのビープ音の音量を調節します。	4	102
FOG FREQUENCY	霧笛音の周波数を設定します。	400Hz	102
LISTEN BACK	リスンバック機能のオン/オフを切り替えます。	ON	102
STATION NAME	GX6000JとRAM4の名前を設定します。	RADIO RAM 1 RAM 2	103
SOFT KEY			
KEY ASSIGNMENT	ソフトキーの機能の割り当てを設定します。	—	103
KEY TIMER	ソフトキーを表示する時間を設定します。	10sec (10秒)	105
MODE STATUS LED DIMMER	モード/ステータスインジケータの明るさを調節します。	7	105
RESET	メモリーや設定を初期化します。	—	105

## チャンネル設定 (CHANNEL SETUP)

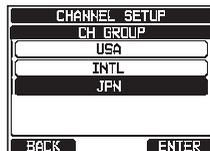
### チャンネルグループ (CHANNEL GROUP)

このメニュー項目では、本機のチャンネルグループをINTL (インターナショナル) / USA (アメリカ) / JPN (日本) から選択できます。

**注意:** 日本国内では工場出荷時設定のJPNのままでご使用ください。公海上など日本国外ではINTLまたはUSAに変更することができます。

1.  ➡ “SETUP” ➡ “CHANNEL SETUP” ➡ “CHANNEL GROUP”

2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、チャンネルグループを“JPN” / “INTL” / “USA” から選択します。工場出荷時設定は“JPN” (日本) です。
3. [**ENTER**]ソフトキーを押して、設定を保存します。
4. [**CLEAR**]キーを押して、通常画面に戻ります。



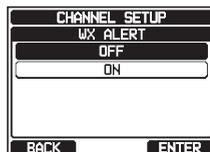
### ウェザーアラート (WEATHER ALERT)

NOAA (アメリカ海洋大気局) ウェザーチャンネルのウェザーアラート (気象警報) 受信機能のオン/オフを設定します。

**参考:** NOAAウェザーチャンネルはアメリカで運用されているため、日本の周辺では受信できません。

1.  ➡ “SETUP” ➡ “CHANNEL SETUP” ➡ “WEATHER ALERT”

2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“ON” または “OFF” を選択します。工場出荷時設定は“ON” です。
3. [**ENTER**]ソフトキーを押して、設定を保存します。
4. [**CLEAR**]キーを押して、通常画面に戻ります。



NOAAウェザーアラートを受信すると、ピーブ音が鳴ります。いずれかのキーを押すとピーブ音が停止して、確認画面が表示されます。[**OK**]ソフトキーを押してから、ウェザーチャンネルに移動するには[**YES**]ソフトキーを押します。マリンチャンネルに戻るには[**NO**]ソフトキーを押します。

### スキャンメモリー (SCAN MEMORY)

メモリスキャン時にスキャンするチャンネルを設定します。

詳しくは“**スキャンメモリーの設定**” (32ページ) を参照してください。

### スキャンタイプ (SCAN TYPE)

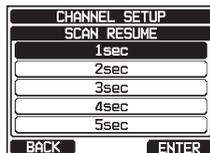
メモリスキャンの動作を“**MEMORY**” (メモリスキャン) と “**PRIORITY**” (プライオリティスキャン) から選択します。

詳しくは、“**スキャンタイプの設定**” (32ページ) を参照してください。

## スキャン再開時間 (SCAN RESUME)

スキャン中に一時停止中に受信していた信号が無くなってから、スキャンを再開する時間を設定します。工場出荷時設定は“2sec” (2秒) です。

1.  ⇒ “SETUP” ⇒ “CHANNEL SETUP” ⇒ “SCAN RESUME”
2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、スキャン再開時間を“1sec” (1秒) ~ “5sec” (5秒) から設定します。
3. [**ENTER**]ソフトキーを押して、設定を保存します。
4. [**CLEAR**]キーを押して、通常画面に戻ります。



## マルチワッチ (MULTI WATCH)

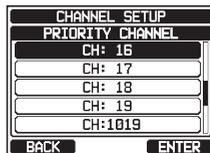
マルチワッチ機能の動作を“DUAL” (2波受信) または“TRIPLE” (3波受信) から選択します。

詳しくは“マルチワッチ (2波または3波の同時受信)” (31ページ) を参照してください。

## プライオリティ チャンネル (PRIORITY CHANNEL)

プライオリティスキャン時に、優先して受信するプライオリティチャンネル (優先チャンネル) を設定します。工場出荷時設定は、“チャンネル16” です。

1.  ⇒ “SETUP” ⇒ “CHANNEL SETUP” ⇒ “PRIORITY CHANNEL”
2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、プライオリティチャンネル (優先チャンネル) を選択します。
3. [**ENTER**]ソフトキーを押して、設定を保存します。
4. [**CLEAR**]キーを押して、通常画面に戻ります。

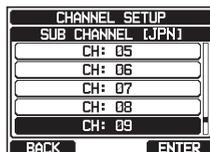


## サブチャンネル (SUB CHANNEL)

サブチャンネルを設定します。工場出荷時設定は“チャンネル9”です。

サブチャンネルは[**16/S**]キーを長押ししてすぐに呼び出すことができます。また、トリプルワッチ (3波受信) の動作中に定期的に受信します。

1.  ⇒ “SETUP” ⇒ “CHANNEL SETUP” ⇒ “SUB CHANNEL”
2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、サブチャンネルを選択します。
3. [**ENTER**]ソフトキーを押して、設定を保存します。
4. [**CLEAR**]キーを押して、通常画面に戻ります。

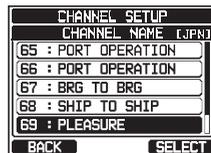


## チャンネルネーム (CHANNEL NAME)

通常画面でチャンネル番号の下に、表示される名前 (チャンネルネーム) を変更することができます。

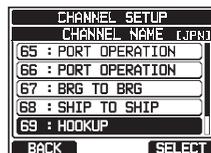
1.  → “SETUP” → “CHANNEL SETUP” → “CHANNEL NAME”

2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、名前を変更するチャンネルを選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。
3. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、名前の1文字目を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押して次の桁に進みます。
4. 手順3を繰り返して、最大16文字の名前を入力します。



もし間違えて入力したときは**DIAL/ENT**ツマミをまわして、“←”または“→”を選択して、間違えた文字が選択されるまで**[SELECT]**ソフトキーを押して、手順3で正しい文字を入力します。

5. 名前の入力完了したら、**[FINISH]**ソフトキーを押して設定を保存します。  
他のチャンネルに名前を付けるには、手順2から5を繰り返します。
6. **[CLEAR]**キーを押して、通常画面に戻ります。



### 参考

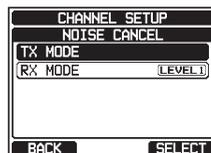
ソフトキーに“CHANNEL NAME”が割り当てられているときは、**[NAME]**ソフトキーを押して、現在のチャンネルの名前を変更することができます。

## ノイズキャンセル (NOISE CANCEL)

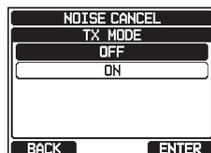
送信と受信のノイズキャンセリング機能のオン/オフをそれぞれ設定します。

1.  → “SETUP” → “CHANNEL SETUP” → “NOISE CANCEL”

2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“TX MODE”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。

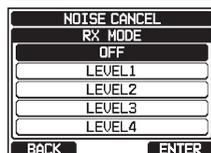


3. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、送信のノイズキャンセル機能の“**ON**”または“**OFF**”を選択して、**[ENTER]**ソフトキーを押します。



4. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**RX MODE**”を選択して**[SELECT]**ソフトキーを押します。

5. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、受信のノイズキャンセル機能のレベルを“**LEVEL1**”～“**LEVEL4**”または“**OFF**”を選択して、**[ENTER]**ソフトキーを押します。



6. **[CLEAR]**キーを押して、通常画面に戻ります。

設定は全てのチャンネルで共通です。

## 受信音の音質調節 (AF PITCH CONTROL)

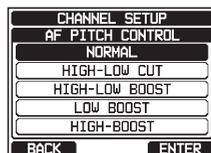
周囲の騒音が多い環境でも、受信音を聞き取りやすい音質に調節できます。工場出荷時設定は“**NORMAL**”です。

1. **[MENU]** ➡ “**SETUP**” ➡ “**CHANNEL SETUP**” ➡ “**AF PITCH CONTROL**”

2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、聞き取りやすい音質になるように選択します。

3. **[ENTER]**ソフトキーを押して、設定を保存します。

4. **[CLEAR]**キーを押して、通常画面に戻ります。



## 受信音の録音 (RX RECORDER)

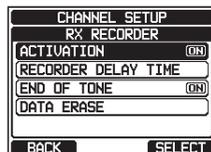
受信音の録音機能の設定をします。

### 録音のオン/オフ

録音機能のオン/オフを設定します。工場出荷時は“**OFF**”です。

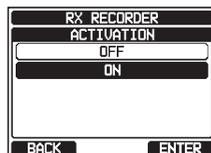
1. **[MENU]** ➡ “**SETUP**” ➡ “**CHANNEL SETUP**” ➡ “**RX RECORDER**”

2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**ACTIVATION**”を選択して**[SELECT]**ソフトキーを押します。



3. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**ON**”または“**OFF**”を選択して、**[ENTER]**ソフトキーを押して設定を保存します。

4. **[CLEAR]**キーを押して、通常画面に戻ります。

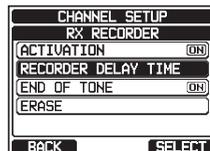


## 録音を停止するまでの遅延時間の設定

受信信号が無くなってから、自動で録音を停止するまでの時間を設定します。  
工場出荷時設定は“3sec” (3秒)です。

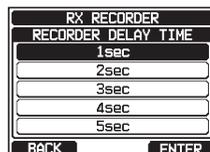
1.  → “SETUP” → “CHANNEL SETUP” → “RX RECORDER”

2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**RECORDING DELAY TIME**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。



3. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**1sec**” (1秒) ~ “**5sec**” (5秒) から遅延時間を選択します。

4. **[ENTER]**ソフトキーを押して、設定を保存します。



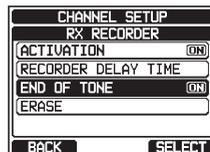
5. **[CLEAR]**キーを押して、通常画面に戻ります。

## エンドトーンの設定

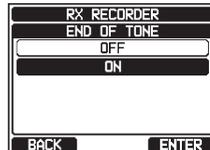
録音の終了を知らせるエンドトーンのオン/オフを設定します。  
工場出荷時設定は“ON”です。

1.  → “SETUP” → “CHANNEL SETUP” → “RX RECORDER”

2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**END OF TONE**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。



3. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**ON**”または“**OFF**”を選択して、**[ENTER]**ソフトキーを押して設定を保存します。

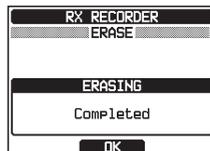
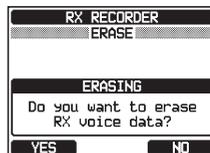
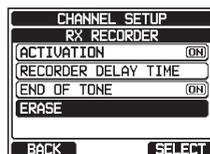


4. **[CLEAR]**キーを押して、通常画面に戻ります。

## 消去

録音した音声を消去します。

1. **[MENU]** → “**SETUP**” → “**CHANNEL SETUP**” → “**RX RECORDER**”
2. **DIAL/ENT** ツマミをまわして、“**DATA ERASE**” を選択して、**[SELECT]** ソフトキーを押します。
3. **[YES]** ソフトキーを押して消去します。(キャンセルするには、**[NO]** ソフトキーを押します。)
4. **[OK]** ソフトキーを押します。
5. **[CLEAR]** キーを押して、通常画面に戻ります。



## チャンネル機能設定一覧

項目	機能説明	工場出荷時設定	ページ
CHANNEL GROUP	チャンネルグループを選択します。	INTL	107
WEATHER ALERT	ウェザーアラート機能のオン/オフを設定します。	ON	107
SCAN MEMORY	スキャンメモリーのチャンネルを追加/削除します。	—	32
SCAN TYPE	スキャンタイプを選択します。	PRIORITY	32
SCAN RESUME	スキャン再開時間を設定します。	2sec (2秒)	108
MULTI WATCH	マルチワッチ時のDUAL (2波) 受信またはTRIPLE (3波) 受信を選択します。	DUAL	31
PRIORITY CHANNEL	Priority Channel (優先チャンネル) を設定します。	CH16	108
SUB CHANNEL	Sub Channel (サブチャンネル) を設定します。	CH09	108
CHANNEL NAME	チャンネルの名前を編集します。	—	109
NOISE CANCEL	ノイズキャンセリング機能のオン/オフを設定します。(送信/受信それぞれで設定できます。)	OFF	109
AF PITCH CONTROL	オーディオフィルターを設定します。	NORMAL	109
RX RECORDER	録音機能の設定をします。	ACTIVATION: OFF RECORDING DELAY TIME: 3sec (3秒) END OF TONE: ON DATA ERASE: —	110

## DSC機能設定 (DSC SETUP)

### 個別アドレス帳 (INDIVIDUAL DIRECTORY)

GX6000JにはDSCアドレス帳があり、個別コール、位置情報要求、およびレポート送信の位置を指定して、連絡する船舶または個人の名前と関連するMMSI番号を保存することができます。

個別コールを送信するには、携帯電話の電話帳のように、連絡先の船の情報を個別アドレス帳に登録します。

詳細については、“**個別アドレス帳の登録**” (50ページ) を参照してください。

### 個別コール返答 (INDIVIDUAL REPLY)

トランシーバーのチャンネルを音声通信用チャンネルに切り替えるように要求する個別コールに、“AUTO”、または“MANUAL” (工場出荷時設定) で返答するかを設定します。

“MANUAL” に設定している場合は、呼び出してきた船舶のMMSI番号が表示されて、誰が呼び出しているかを確認することができます。

詳細については、“**個別コール返答の設定**” (51ページ) を参照してください。

### 個別コール返答内容 (INDIVIDUAL ACKNOWLEDGMENT)

上記の個別コール返答の設定が“AUTO” に設定されている場合の自動確認応答を“ABLE” (工場出荷時設定) または“UNABLE” で返答するかを設定できます。

詳細については、“**個別コールの確認応答内容の設定**” (51ページ) を参照してください。

### 個別コールベル音 (INDIVIDUAL RINGER)

個別コールを受信したことを知らせるベル音が鳴る時間を設定します。2分 (工場出荷時設定)、5秒、10秒、15秒から選択変更できます。

詳細については、“**個別コールのベル音を設定する**” (55ページ) を参照してください。

### グループメモリー (GROUP DIRECTORY)

この機能を使用する船舶グループ内のすべてのDSC対応のトランシーバーに、同じグループMMSI番号を登録する必要があります。

詳細については、“**グループコールを設定する**” (56ページ) を参照してください。

## 位置情報要求への応答 (POSITION REPLY)

他の船舶から位置情報要求を受信したときに、“AUTO”（自動、工場出荷時設定）または“MANUAL”（手動）で自船の位置情報を送信するように設定できます。

自船の位置情報を自動で知らせたくないときには、“MANUAL”（手動）に設定すると、画面に位置情報を要求してきた相手のMMSI番号または個人名が表示され、要求している船舶に位置情報を送信するかどうかを選択することができます。詳細については、“位置情報要求への応答の設定”（61ページ）を参照してください。

## 自動ポジションポーリング (AUTO POSITION POLLING)

個別アドレス帳に登録された船舶から、最大7隻まで指定して自動で位置情報を要求または通知することができます。

詳細については、“自動ポジションポーリング”（70ページ）を参照してください。

## 自動位置情報要求間隔 (AUTO POSITION INTERVAL)

自動で位置情報を要求または通知するポーリングの送信間隔を設定します。

詳細については、“自動ポジションポーリング送信間隔の設定”（70ページ）を参照してください。

## 自動チャンネル変更 (AUTO CHANNEL CHANGE)

遭難通報または全船コール（緊急または安全）を受信したときに、自動でチャンネル16に切り替える時間を設定します。

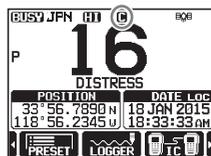
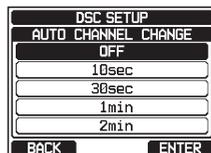
工場出荷時設定は“30sec”（30秒）です。

1.  ⇒ “SETUP” ⇒ “DSC SETUP” ⇒ “AUTO CHANNEL CHANGE”

2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、自動切り替え時間を選択して[**ENTER**]ソフトキーを押して、設定を保存します。

3. [**CLEAR**]キーを押して、通常画面に戻ります。

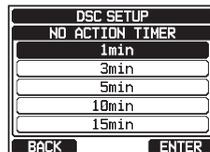
“OFF”に設定すると、画面の上部に“**C**”アイコンが表示され自動ではチャンネルの変更は行ないません。



## 無操作タイムアウト時間 (NO ACTION TIMER)

“MENU”画面または“DSC CALL”画面でなにも操作をしないときに自動で通常画面に戻るまでの時間を設定します。  
工場出荷時設定は“15min” (15分) です。

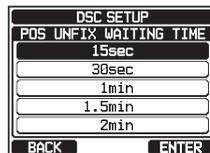
1.  ⇒ “SETUP” ⇒ “DSC SETUP” ⇒ “NO ACTION TIMER”
2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、時間を選択して  
[ENTER]ソフトキーを押して、設定を保存します。
3. [CLEAR]キーを押して、通常画面に戻ります。



## 位置情報取得待ち時間 (POS UNFIX WAITING TIME)

遭難通報または位置情報通知、位置情報要求の確認応答を受信したときに、位置情報を取得するまでの待ち時間を設定します。  
工場出荷時設定は“15sec” (15秒) です。

1.  ⇒ “SETUP” ⇒ “DSC SETUP” ⇒ “POS UNFIX WAITING TIME”
2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、時間を選択して  
[ENTER]ソフトキーを押して、設定を保存します。
3. [CLEAR]キーを押して、通常画面に戻ります。



## DSCビーブ音 (DSC BEEP)

各種の呼び出し (コール) を受信したときに鳴るビーブ音をオンまたはオフに設定します。

個別コール、グループコール、全船コール、位置要求コール、自動位置送信コール、エリアコール、ポーリングコール、DSCテストコールについて、それぞれ設定できます。

詳細については、“グループコールのベル音を設定する” (60ページ) を参照してください。

## DSC設定メニュー一覧

項目	機能説明	工場出荷時設定	ページ
INDIVIDUAL DIRECTORY	個別アドレス帳を入力または編集します。	—	50
INDIVIDUAL REPLY	個別コールへの自動応答を設定します。	MANUAL	51
INDIVIDUAL ACK.	個別コールの確認応答の自動送信の有効または無効を設定します。	ABLE	51
INDIVIDUAL RING	個別コールまたは位置情報要求を受信したときのベル音の鳴る時間を設定します。	2min (2分)	55
GROUP DIRECTORY	グループメモリーを入力または編集します。	—	56
POSITION REPLY	位置情報要求コールを受信したときの応答の自動または手動を設定します。	AUTO	61
AUTO POSITION POLLING	自動ポジションポーリングの機能を要求または通知から選択します。	AUTO POS REQUEST	70
AUTO POS INTERVAL	自動ポジションポーリングの送信間隔を選択します。	30sec (30秒)	70
AUTO CHANNEL CHANGE	遭難通報または全船コール、グループコールを受信した後、指定されたチャンネルに自動的に移動する遅延時間を設定します。	30sec (30秒)	114
NO ACTION TIMER	操作していないときに自動で通常画面に戻るまでの時間を設定します。	15min (15分)	115
POS UNFIX WAITING TIME	遭難通報、位置情報通報、または位置情報要求への応答を受信したときに、位置情報を取得するための最大待機時間を設定します。	15sec (15秒)	115
DSC BEEP	DSCコールを受信したときに鳴るビーブ音のオンまたはオフを設定します。	INDIVIDUAL CALL: ON GROUP CALL: ON ALL SHIPS: ON POS REQUEST: OFF POS REPORT: ON GEOGRAPHICAL: ON POLLING CALL: OFF DSC TEST CALL: OFF	115

## GPS設定 (GPS SETUP)

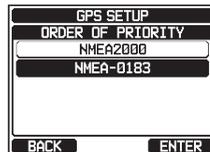
オプションの外部GPSアンテナ**SCU-31**やNMEA 2000、NMEA 0183の各種設定をします。

### 優先順位 (ORDER OF PRIORITY)

本機が位置情報を取得する外部接続デバイスの優先順位を設定します。工場出荷時設定は“NMEA-0183”です。

1.  → “SETUP” → “GPS SETUP” → “ORDER OF PRIORITY”

2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“NMEA2000”または“NMEA-0183”を選択して、**[ENTER]**ソフトキーを押して設定を保存します。



3. **[CLEAR]**キーを押して、通常画面に戻ります。

#### 参考

オプションの外部GPSアンテナ**SCU-31**の優先順位は、常に最下位となります。

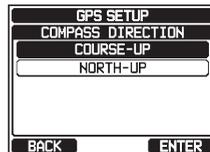
### コンパス表示方向 (COMPASS DIRECTION)

コンパス表示の方向を“**COURSE-UP**”（進行方向が上）または“**NORTH-UP**”（北が上）から選択できます。

工場出荷時設定は“**COURSE-UP**”（進行方向が上）です。

1.  → “SETUP” → “GPS SETUP” → “COMPASS DIRECTION”

2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**COURSE-UP**”または“**NORTH-UP**”から選択します。
3. **[ENTER]**ソフトキーを押して、設定を保存します。
4. **[CLEAR]**キーを押して、通常画面に戻ります。

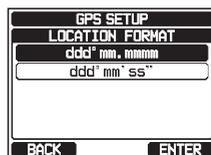


## 位置座標 (緯度、経度) の形式 (LOCATION FORMAT)

画面に表示される位置座標の形式を選択します。工場出荷時設定は“ddd° mm.mmmmm”です。

1.  ⇒ “SETUP” ⇒ “GPS SETUP” ⇒ “LOCATION FORMAT”

2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、位置座標の形式を“ddd° mm.mmmmm”または“ddd° mm' ss””から選択します。
3. [**ENTER**]ソフトキーを押して、設定を保存します。
4. [**CLEAR**]キーを押して、通常画面に戻ります。



## 時刻のオフセット (TIME OFFSET)

画面に表示される現地時刻とUTC (世界協定時刻) とのオフセットを設定します。オフセットは、GPS機器から受信した時刻に対して、加算または減算されます。

詳細については、“時刻オフセットの変更” (25ページ) を参照してください。

## 表示時刻 (TIME AREA)

画面に表示する時刻をUTC (協定世界時) 時間または現地時間から選択します。

詳細については、“タイムエリアの変更” (26ページ) を参照してください。

## 時刻表示形式 (TIME FORMAT)

画面に表示する時刻を12時間形式または24時間形式から選択します。

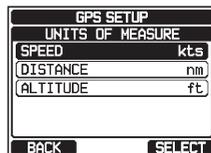
詳細については、“時刻表示形式の変更” (27ページ) を参照してください。

## 表示単位 (UNITS OF MEASURE)

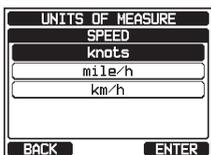
速度、距離、高度を表示する単位を設定します。

1.  ⇒ “SETUP” ⇒ “GPS SETUP” ⇒ “UNIT OF MEASURE”

2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、設定する項目を選択します。
3. [**SELECT**]ソフトキーを押します。



4. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、単位を選択します。
5. [**ENTER**]ソフトキーを押して、設定を保存します。
6. [**CLEAR**]キーを押して、通常画面に戻ります。



## 磁気偏差 (MAGNETIC VARIATION)

進行方向(COG)、ウェイポイントのターゲット、AISターゲットの方位角(BRG)を“OFF”(真方位)または“ON”(磁方位)で表示するか選択します。

詳細については、“**磁気偏差の設定**”(27ページ)を参照してください。

### 注意

磁気偏差の“ON”設定は、GPSチャートプロッターなどの外部機器から磁気データが含まれるRMCセンテンスが入力された場合だけ有効です。

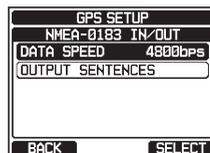
## NMEA 0183入出力 (NMEA 0183 IN/OUT)

### データスピード (Data Speed)

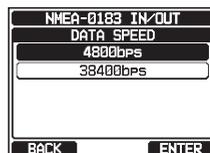
外部GPS入力 (NMEA 0183入出力ケーブルの青色と緑色の電線) とDSC出力 (NMEA 0183入出力ケーブルの灰色と茶色の電線) のNMEA 0183の通信速度 (ボーレート) を設定します。工場出荷時設定は4800bpsです。

1.  ⇒ “SETUP” ⇒ “GPS SETUP” ⇒ “NMEA 0183 IN/OUT”

2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**DATA SPEED**”を選択して[**SELECT**]ソフトキーを押します。



3. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、通信速度 (ボーレート) を“**4800bps**”または“**38400bps**”から選択します。
4. [**ENTER**]ソフトキーを押して、設定を保存します。
5. [**CLEAR**]キーを押して、通常画面に戻ります。



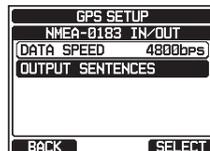
### 出力センテンス (Output Sentence)

NMEAで出力するセンテンスを設定します。

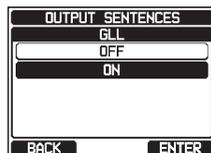
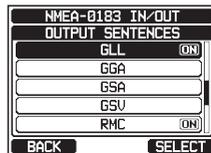
工場出荷時設定はすべてのNMEAセンテンスの出力が“ON”です。

1.  ⇒ “SETUP” ⇒ “GPS SETUP” ⇒ “NMEA 0183 IN/OUT”

2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**OUTPUT SENTENCES**”を選択して、[**SELECT**]ソフトキーを押します。



3. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、設定するセンテンスを選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。
4. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**ON**”または“**OFF**”を選択します。
5. **[ENTER]**ソフトキーを押して、設定を保存します。
6. 手順3から5を繰り返して、他のセンテンスを設定します。
7. **[CLEAR]**キーを押して、通常画面に戻ります。



### 参考

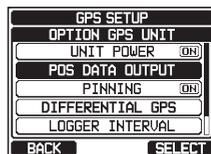
- データ出力は、“**優先順位 (ORDER OF PRIORITY)**”(117ページ)で設定したデータ取得順序で行われます。
- GPS設定の“**GPSアンテナ電源 (UNIT POWER)**”(121ページ)の“**OPTION GPS UNIT**”が“**OFF**”に設定されている場合は、NMEAセンテンスは出力されません。
- 各NMEAセンテンスの出力間隔は、入力デバイスの出力タイミングに依存します。ただし、位置情報データを含むセンテンスは、2秒以下の間隔で出力されます。
- すべてのセンテンスが出力されるように設定されている場合、通信速度の設定によっては、1秒以内にすべてのセンテンスを出力することはできません。GSAセンテンスとGSVセンテンスは約5秒間隔で出力されます。

## 位置情報出力 (POSITION DATA OUTPUT)

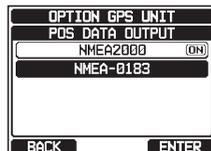
位置情報データを出力するときに使用する接続デバイスを選択します。

1. **[MENU]** ⇒ “**SETUP**” ⇒ “**GPS SETUP**” ⇒ “**OPTION GPS UNIT**”

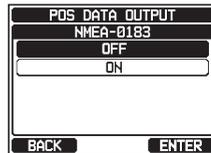
2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**POS DATA OUTPUT**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。



3. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**NMEA 2000**”または“**NMEA 0183**”を選択して、**[SELECT]**ソフトキーを押します。



4. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**OFF**”または“**ON**”を選択します。
5. [**ENTER**]ソフトキーを押して、設定を保存します。
6. [**CLEAR**]キーを押して、通常画面に戻ります。



## オプションの外部GPSアンテナ (OPTION GPS UNIT)

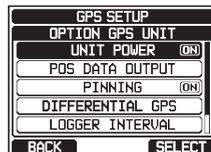
オプションの外部GPSアンテナ**SCU-31**の設定をします。

### GPSアンテナ電源 (UNIT POWER)

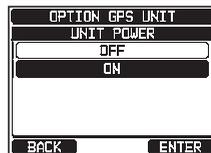
外部GPSアンテナ**SCU-31**を使用するときは、この設定を“**ON**”にしてください。工場出荷時設定は“**ON**”です。

1. [**MENU**] ➡ “**SETUP**” ➡ “**GPS SETUP**” ➡ “**OPTION GPS UNIT**”

2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**UNIT POWER**”を選択して、[**SELECT**]ソフトキーを押します。



3. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**OFF**”または“**ON**”を選択します。
4. [**ENTER**]ソフトキーを押して、設定を保存します。
5. [**CLEAR**]キーを押して、通常画面に戻ります。

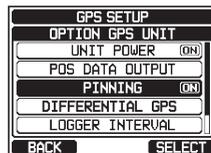


### ピンニング (PINNING)

船舶が航行していない場合に、位置情報の更新を行うかどうかを設定します。

1. [**MENU**] ➡ “**SETUP**” ➡ “**GPS SETUP**” ➡ “**OPTION GPS UNIT**”

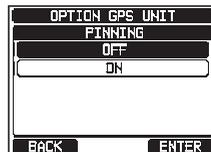
2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**PINNING**”を選択して、[**SELECT**]ソフトキーを押します。



3. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“**OFF**”または“**ON**”を選択します。初期設定は“**OFF**”です。

ON: 船舶の速度が約0.4ノット(knot)を超えない限り、位置情報を更新しません。これにより停船時の位置情報のふらつきを防ぎます。

OFF: 船舶が航行中または停止している場合でも、その位置情報を継続的に更新します。



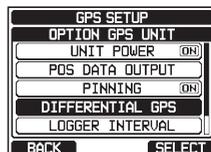
4. [ENTER]ソフトキーを押して、設定を保存します。
5. [CLEAR]キーを押して、通常画面に戻ります。

## ディファレンシャルGPS (DIFFERENTIAL GPS)

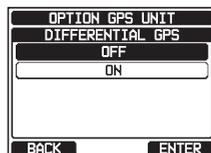
WAAS、EGNOS、MSASなどのSBAS (Satellite Based Augmentation System、衛星航法補強システム) によるディファレンシャルGPS機能のオンまたはオフを設定します。工場出荷時設定は“ON”です。

1. [MENU] ⇒ “SETUP” ⇒ “GPS SETUP” ⇒ “OPTION GPS UNIT”

2. DIAL/ENTツマミをまわして、“DIFFERENTIAL GPS”を選択して、[SELECT]ソフトキーを押します。



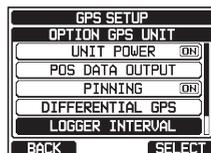
3. DIAL/ENTツマミをまわして、“OFF”または“ON”を選択します。
4. [ENTER]ソフトキーを押して、設定を保存します。
5. [CLEAR]キーを押して、通常画面に戻ります。



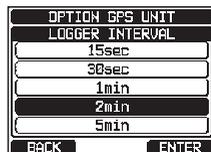
## ロガー記録時間間隔 (LOGGER INTERVAL)

1. [MENU] ⇒ “SETUP” ⇒ “GPS SETUP” ⇒ “OPTION GPS UNIT”

2. DIAL/ENTツマミをまわして、“LOGGER INTERVAL”を選択して、[SELECT]ソフトキーを押します。



3. DIAL/ENTツマミをまわして、記録時間の間隔を選択して、[ENTER]ソフトキーを押して設定を保存します。



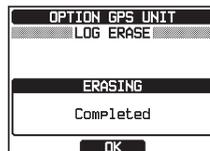
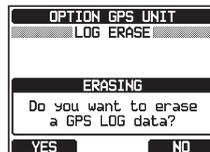
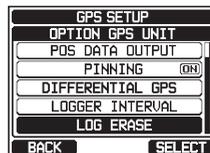
**参考:** ログ記録時間間隔と記録できる時間の目安

- 15 sec: 約25時間
- 30 sec: 約50時間
- 1 min: 約100時間
- 2 min: 約200時間 (工場出荷時設定)
- 5 min: 約500時間

4. [CLEAR]キーを押して、通常画面に戻ります。

## ログ消去 (LOG ERASE)

1.  ⇒ “SETUP” ⇒ “GPS SETUP” ⇒ “OPTION GPS UNIT”
2. **DIAL/ENT**ツマミをまわして、“LOG ERASE”を選択して[**SELECT**]ソフトキーを押します。
3. [**YES**]ソフトキーを押してログを消去します。(キャンセルする場合は、[**NO**]ソフトキーを押します。)
4. [**OK**]ソフトキーを押します。
5. [**CLEAR**]キーを押して、通常画面に戻ります。



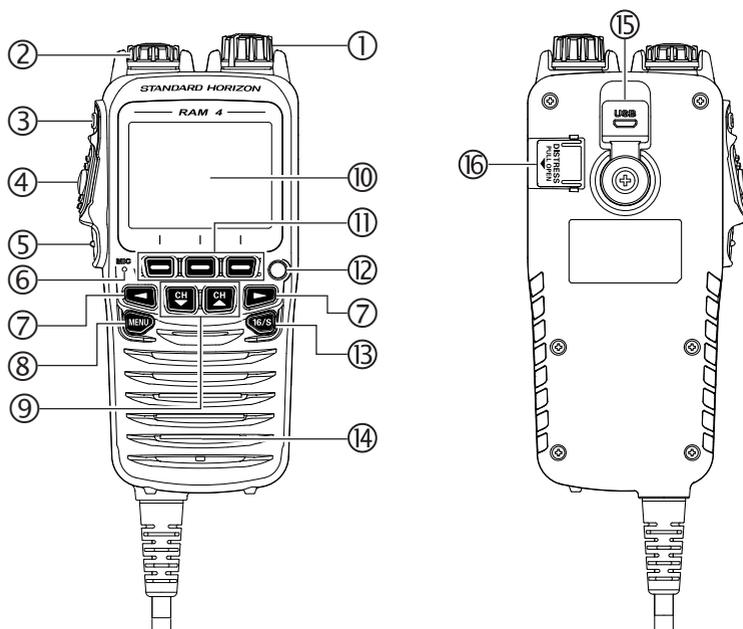
## GPS設定の一覧

項目	機能説明	工場出荷時設定	ページ
ORDER OF PRIORITY	位置情報を取得する際の接続デバイスの優先順位を設定します。	NMEA-0183	117
COMPASS DIRECTION	コンパス表示の方向を選択します。	COURSE-UP (進行方向が上)	117
LOCATION FORMAT	表示する位置情報(緯度・経度)の形式を選択します。	ddd°mm.mmmmm	118
TIME OFFSET	UTCからのオフセット時間を設定します("TIME AREA"を"LOCAL"に設定したときに有効になります)。	00:00	118
TIME AREA	表示する時間をUTCまたは現地時間から選択します。	UTC	118
TIME FORMAT	表示する時刻の形式を12時間または24時間("TIME AREA"で"UTC"を選択した場合は「24H」に固定)を選択します	24hour	118
UNITS OF MEASURE	速度、距離、高度を表示するときの計測単位を選択します。	SPEED: kts (ノット) DISTANCE: nm (海里) ALTITUDE: ft (フィート)	118
MAGNETIC VARIATION	磁気偏差の有効/無効を設定します。	OFF	119
NMEA-0183 IN/OUT			
DATA SPEED	NMEA 0183のデータの通信速度を設定します。	4800bps	119
OUTPUT SENTENCES	NMEA 0183で出力するセンテンスを設定します。	GLL: ON GGA: ON GSA: ON GSV: ON RMC: ON DSC/DSE: ON	119
POS DATA OUTPUT	位置情報を出力を設定します。	NMEA 2000: OFF NMEA-0183: OFF	120
OPTION GPS UNIT			
UNIT POWER	外部GPSアンテナの電源をオン/オフします。	ON	121
PINNING	船舶が航行していないときに、GPS位置情報を更新するかどうかを設定します。	OFF	121
DIFFERENTIAL GPS	SBAS(衛星航法補強システム)を使用するかどうかを設定します。	ON	122
LOGGER INTERVAL	GPSロガーの記録時間間隔を設定します。	2 min	122
LOG ERASE	GPSロガーの保存データを消去します。	—	123

## リモートアクセスマイクSSM-70H (RAM4)

オプションのリモートアクセスマイク**SSM-70H (RAM4)**を接続すると、無線通信機能およびDSC、AIS、ナビゲーション、GM (グループモニタ) 設定メニューなどの各種機能、PA/フォグモードなどの機能を遠隔操作できます。RAM4マイクの機能は、ボリュームとスケルチレベルの設定、ストロボライト機能を除いてGX6000J本体と同等です。RAM4マイクに7mの接続ケーブルが付属しており、CT-100延長ケーブル(7m)を2本使用して最大21mまで延長できます。また、GX6000JとRAM4マイクの間で内線通話ができます。

### 各部の名称と働き



- ① **Power/VOLツマミ**  
長く押しすとGX6000Jの電源がオン/オフします。  
まわして、RAM4マイクの音量を調節します。
- ② **DIAL/ENTツマミ**  
まわしてチャンネルを選択します。  
メニュー画面でまわしてメニューの項目を選んで、押してメニュー項目を選択します。
- ③ **SQLスイッチ**  
押してから**DIAL/ENTツマミ**をまわして、スケルチを調節します。
- ④ **送信スイッチ (PTT)**  
押しながらマイクに向かって話します。相手の話を聞くとときはこのボタンを放します。

- ⑤ **CLEAR/Onキー**  
設定メニュー画面で押すと、通常画面に戻ります。  
押し続けると各キーのロック/ロック解除をします。
- ⑥ **マイク**  
ノイズキャンセル機能により、周囲の騒音を抑えて明瞭な音声を送信します。口元から1.5cm程離して、普通の声量で話します。
- ⑦ **◀ / ▶ キー**  
ソフトキーに割り当てられている最大12種類の機能が切り替わります。  
メニュー画面で押すと、メニュー項目を選択します。
- ⑧ **MENUキー**  
メニュー画面を表示します。
- ⑨ **CH▼ / CH▲キー**  
チャンネルを選択します。  
メニュー画面で押すと、メニュー項目を選択します。
- ⑩ **ディスプレイ**  
各種の情報を表示するフルドットマトリックスディスプレイ (222×162) です。
- ⑪ **ソフトキー**  
各種機能の選択や設定を行います。  
設定メニューで、各ソフトキーの機能割り当てを変更できます。
- ⑫ **ストロボライト**  
RAM4マイクの[STROBE]ソフトキーを押すとストロボライトが点灯します。  
ストロボライトの点灯パターンを下記のように変更できます。  
MENU画面 ➡ “SETUP” ➡ “CONFIGURATION” ➡ “STROBE LED”  
CONTINUOUS : 連続点灯 (工場出荷時設定)  
SOS : “SOS” のモールス符号の点滅の繰り返し  
BLINK 1 : 早い点滅の繰り返し  
BLINK 2 : ゆっくりとした点滅の繰り返し  
BLINK 3 : 3回の点滅の繰り返し
- ⑬ **16/Sキー**  
緊急連絡用チャンネル “CH16” に切り替わります。長く押すとサブチャンネル (工場出荷時設定はチャンネル9) に切り替わります。  
もう一度押すと、元のチャンネルに戻ります。
- ⑭ **スピーカー**
- ⑮ **DATA端子 (リアパネル)**  
RAM4マイクのファームウェアをアップデートするとき、USBケーブル (micro USB type B) を接続する端子です。  
**注意:** DATAジャックを使用しないときは、キャップを確実に閉めてください。キャップが開いている場合、防水性は保たれません。
- ⑯ **DISTRESSキー (リアパネル)**  
赤色のカバーを上げて、中のボタンを約3秒間押し続けると、遭難通報を送出します。詳しくは“**遭難通報の送信**” (43ページ) を参照してください。

## RAM4マイクのソフトキーの機能割り当て

RAM4マイクのソフトキーに、以下の機能を割り当てることができます。

表示	機能説明	ソフトキー番号 (工場出荷時設定)
NONE	(機能割り当てなし)	
TX HI/LO	送信出力切換	02
WX/CH	NOAAウェザーチャンネルとマリンチャンネル切換	01
SCAN	スキャンの開始/停止	05
DUAL WATCH*/ TRIPLE WATCH*	DUAL (2波受信) *またはTRIPLE (3波受信) *の 開始/停止 (※: [MENU] ⇒ “SETUP” ⇒ “CHANNEL SETUP” ⇒ “MULTI WATCH” で設定します)	06
MARK POSITION	現在地を“ウェイポイント”として保存	
SCAN MEMORY	現在のチャンネルをメモリスキャンチャンネルに追加/削除	04
PRESET	プリセットチャンネルと通常モードの切換 現在のチャンネルをプリセットチャンネルに追加/削除	09
MAN OVERBOARD	落水者が発生した地点を“ウェイポイント”に設定	03
NOISE CANCEL	ノイズキャンセル機能の設定画面を表示	
CHANNEL NAME	チャンネルの名前を編集	
STROBE	RAM4マイクのストロボLEDの点灯/消灯	10
COMPASS	コンパス画面を表示	
NAVIGATION	ナビゲーション画面を表示	11
FOG HORN	フォグホーンモードを選択	08
INTERCOM	GX6000J本体とオプションのリモートマイクRAM4 (またはRAM4W)の内線通話機能の開始/停止	07
GPS LOGGER	位置データのログ機能の開始/停止	
AIS DISPLAY	AIS画面を表示	12
HORN BUTTON	霧笛を鳴らす	
PUBLIC ADDRESS	拡声器機能の画面を表示	
RX RECORD	受信音の録音	
RX SENSE	受信感度をLOCAL (近距離)/DISTANCE (遠距離) から選択	
PLAY	録音した受信音を再生	

### 参考

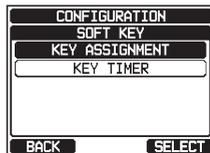
GX6000J本体のソフトキーとRAM4マイクのソフトキーは、それぞれ個別に機能を割り当てることができます。

### RAM4マイクのソフトキーの機能割り当て

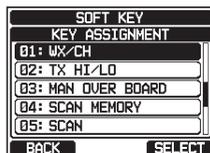
**RAM4**マイクのソフトキーに、割り当てる機能を設定します。設定をするRAM4マイクで操作をします。

- RAM4マイク  
[MENU] ⇒ “SETUP” ⇒ “CONFIGURATION” ⇒ “SOFT KEY”

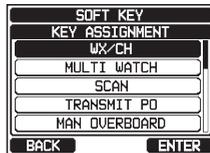
2. **DIAL/ENT** ツマミをまわして、“**KEY ASSIGNMENT**” を選択して、**[SELECT]** ソフトキーを押します。



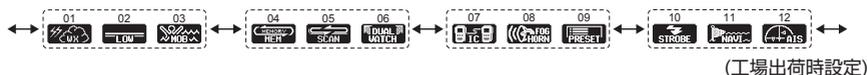
3. **DIAL/ENT** ツマミをまわして、機能を割り当てるソフトキーの番号を選択して**[SELECT]** ソフトキーを押します。



4. **DIAL/ENT** ツマミをまわして、割り当てる機能を選択して**[ENTER]** ソフトキーを押します。  
“**NONE**” を選択すると、機能の割り当てが削除されます。



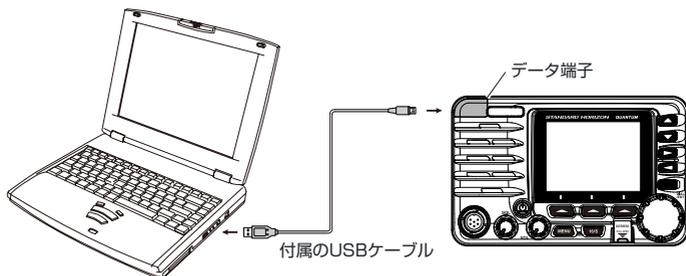
5. 手順3と4を繰り返して、他のソフトキーを設定します。  
通常画面で◀/▶キーを押すたびに、図のようにソフトキーが3個ずつ切り替わって表示されます。



6. **CLEAR/On** キーを押して通常画面に戻ります。

## パソコンとの接続

プログラミングソフトウェア (当社ウェブサイトからダウンロードできます) を使用して、WindowsパソコンでGX6000Jの各種設定をすることや、本機に記録されている位置情報のログデータをダウンロードできます。  
フロントパネルのデータ端子のカバーを開いて、付属のUSBケーブルでパソコンのUSB端子を接続します。詳しくはプログラミングソフトウェアのマニュアルを参照してください。



### 注意

データ端子のカバーが開いているときは、防水性能が保たれません。トランシーバーとパソコンを接続するときは、周囲が乾燥している状態でご使用ください。

## 定格

### ●一般定格

周波数範囲:	156.025MHz ~ 162.000MHz (詳細は国際VHFチャンネル表を参照)
周波数ステップ:	25kHz
周波数安定度:	±3ppm(-20°C ~+60°C)
電波型式:	音声:F3E、DSC:F2B
アンテナインピーダンス:	50Ω
電源電圧:	DC 13.8V、マイナス接地
消費電流:	0.9A(受信時)、0.55A(受信無信号時) 5.0A(送信 25W時)、1.0A(送信 1W時)
DSCフォーマット:	ITU-R M.493
使用温度範囲:	-20°C ~ +60°C
本体寸法(突起物を除く):	175.5×110×173.3mm(幅×高さ×奥行)
本体重量:	約1.92kg(マイクを含む)

### ●送信部

送信出力:	25W/1W
変調方式:	バリアブルリアクタンス変調
最大周波数偏移:	±5kHz
不要輻射強度:	-80dBc以下(25W)、-66dBc以下(1W)
S/N比:	約50dB

### ●受信部(音声/DSC)

受信方式:	ダブルコンバージョン・スーパーヘテロダイン
受信感度:	0.30μV(12dB SINAD)
選択度:	12kHz/25kHz(-6dB/-60dB)
隣接チャンネル選択度:	約80dB / 約75dB(DSC)
相互変調:	約80dB / 約75dB(DSC)
S/N比:	40dB以上
低周波出力:	約10W @8Ω 外部スピーカ

### ●受信部(AIS)

周波数:	161.975 MHz(CH A)、162.025 MHz(CH B)
受信感度:	0.5μV(12dB SINAD)
選択度:	12kHz/25kHz(-6dB/-60dB)

## NMEA 0183対応センテンス

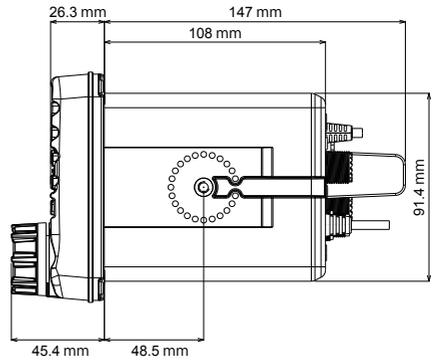
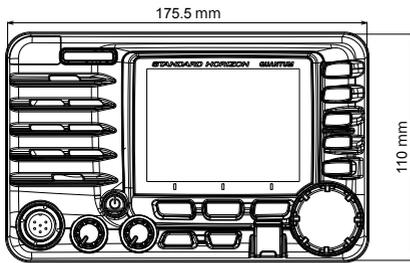
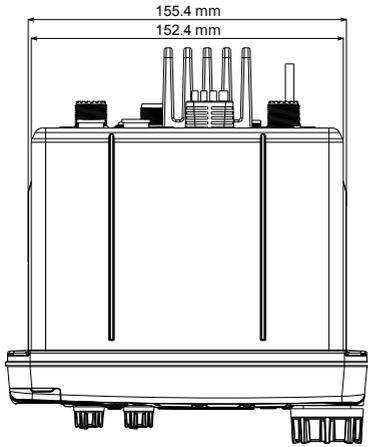
NMEA 0183 入力(4800/38400bps) .....	GGA, GLL, GNS, RMC, GSA, GSV
NMEA 0183 出力(4800/38400bps) .....	DSC, DSE, GGA, GLL, GNS, RMC, GSA, GSV
NMEA 0183-HS AIS 出力(38400bps) .....	VDM

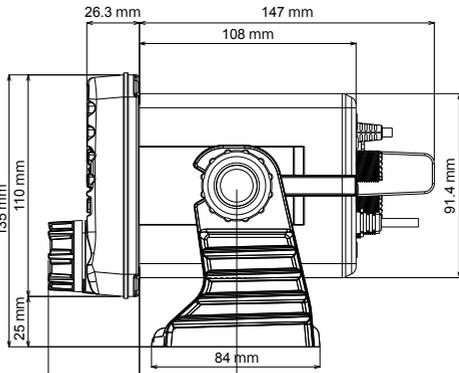
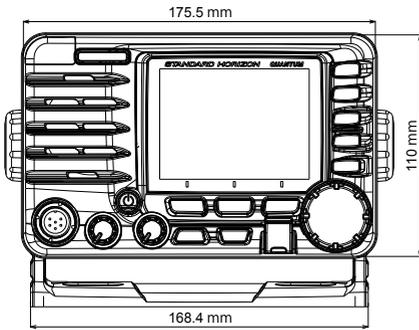
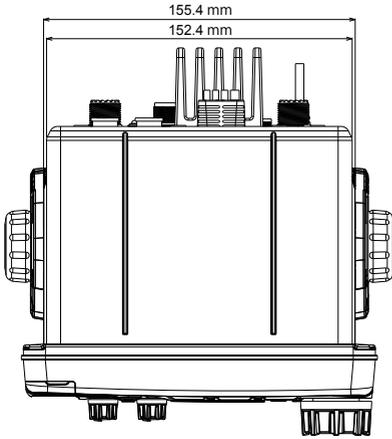
## 国際VHFチャンネル表

チャンネル	送信周波数 (MHz)	受信周波数 (MHz)	備考	チャンネル	送信周波数 (MHz)	受信周波数 (MHz)	備考
01	156.050	160.650		60	156.025	160.625	
02	156.100	160.700		61	156.075	160.675	
03	156.150	160.750		62	156.125	160.725	
04	156.200	160.800		63	156.175	160.775	
05	156.250	160.850		64	156.225	160.825	
06	156.300	156.300	すべての船舶相互間用	65	156.275	160.875	
07	156.350	160.950		66	156.325	160.925	
08	156.400	156.400	すべての船舶相互間用	67	156.375	156.375	
09	156.450	156.450	遭難・緊急・安全一般呼出用*	68	156.425	156.425	
10	156.500	156.500	すべての船舶相互間用	69	156.475	156.475	小型船舶間同士用
11	156.550	156.550	海上保安庁海岸局・ボートラジオ用	70	156.525	—	DSC専用
12	156.600	156.600	海上保安庁海岸局・ボートラジオ用	71	156.575	156.575	所属海岸局用
13	156.650	156.650	船舶相互間・海上保安庁海岸局	72	156.625	156.625	小型船舶間同士用
14	156.700	156.700	海上保安庁海岸局・ボートラジオ用	73	156.675	156.675	小型船舶間同士用
15	156.750	156.750		74	156.725	156.725	所属海岸局用
16	156.800	156.800	遭難・緊急・安全一般呼出用*	75	156.775	156.775	
17	156.850	156.850		76	156.825	156.825	
18	156.900	161.500		77	156.875	156.875	小型船舶同士・所属海岸局との呼出・応答用
19	156.950	161.550		78	156.925	161.525	
20	157.000	161.600		79	156.975	161.575	所属海岸局用
21	157.050	161.650		80	157.025	161.625	
22	157.100	161.700		81	157.075	161.675	
23	157.150	161.750		82	157.125	161.725	
24	157.200	161.800		83	157.175	161.775	
25	157.250	161.850		84	157.225	161.825	
26	157.300	161.900		85	157.275	161.875	
27	157.350	161.950		86	157.325	161.925	
28	157.400	162.000		87	157.375	157.375	
				88	157.425	157.425	

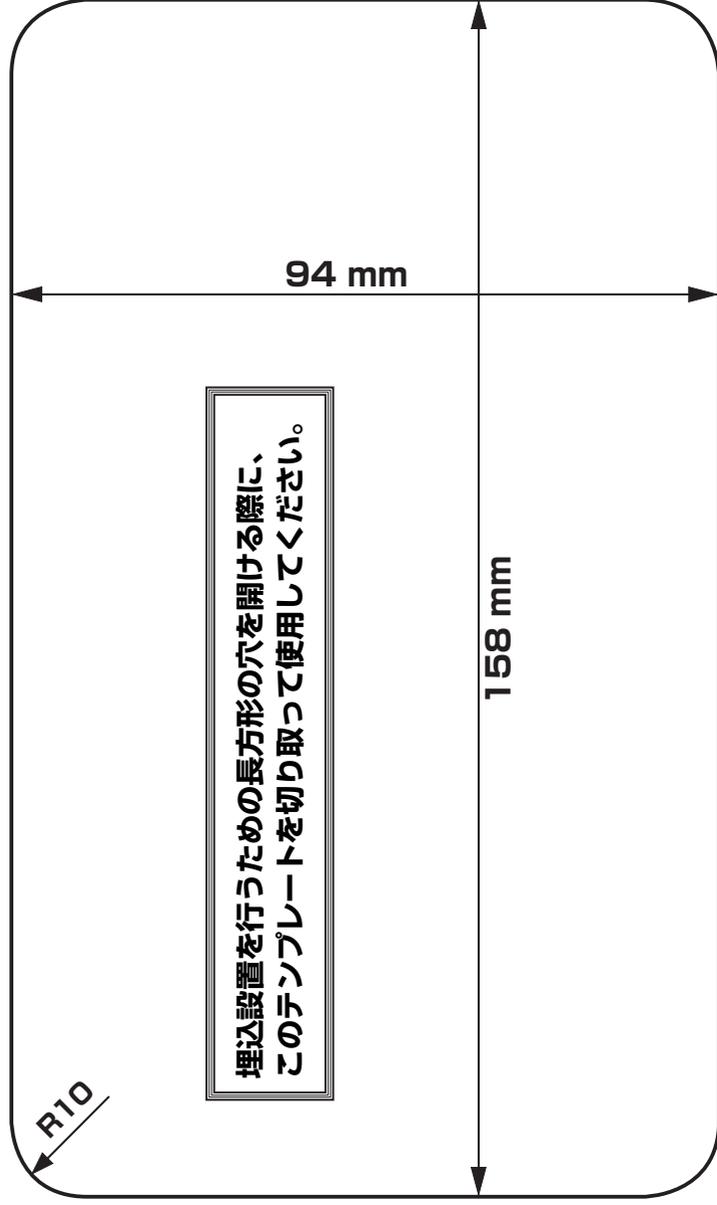
※ チャンネル09はチャンネルCH16が使用中の場合に使用します。  
免許状に記されたチャンネルで運用してください。

# GX6000J寸法図





## GX6000J 埋込設置用テンプレート







# ***STANDARD HORIZON***

*Nothing takes to water like Standard Horizon*

**八重洲無線株式会社**

〒140-0002 東京都品川区東品川2-5-8 天王洲パークサイドビル

1911A-BS-2  
Printed in Japan



E M O S E N O O 2